

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
歐洲危機の一焦點 ザール領域の人民投票 邊疆問題の一斷面	芳陵龍夫	非	四	大阪 大月社會問	第四大毎投資相談	大阪毎日新 聞經濟部	二・五〇	〇・七五	一元 社本郷
區勢概要	貞次郎 東京區役所 品川區役所	非	〇・七五	品川 品川區役所	原價計算の要領	芳野武雄	一・四〇	〇・二〇	同文館 神田
株金拂込論	西本寛一	二・〇〇	〇・三〇	京都 政經書院	日本經濟批判	世界情勢 研究會	一・五〇	〇・三〇	同文館 神田
赤字財政と増税問題	關口一郎	非	〇・一五	關口 新日本同盟	日本財閥の 實質を語る	三宮維信	非	〇・二八	日滿經 濟局 神田
農業經濟學(上)	リヤシ 直井武夫譯	二・五〇	〇・六二	神田 ナウカ社	米國は何故 生絲を買はぬか	國際經濟 研究所	一・五〇	〇・二七	永吉書 房 牛込
支那社會經濟史	森谷克己	一・八〇	〇・四七	目黒 華社	カフ セル 獨裁政治	小出保治	〇・六〇	〇・八四	永吉書 房 牛込
一九三五投資相談	勝田貞次	一・五〇	〇・四三	京橋 千倉書房	華僑經濟	油谷恭一	一・〇〇	〇・三六	日華實 業協會 神田
日本經濟史(一)	竹越與三郎	〇・三〇	〇・三二	神田 凡社	百年忌記念 マルサス研究	手塚壽郎	二・〇〇	〇・五九	小椋高 等商 道 北海
三井物語	山田武太郎	一・〇〇	〇・一四	神田 成社	漁業協同組合簿記	田口勇藏	二・〇〇	〇・三六	大日本 水産會 赤坂
大阪市に於ける中 小商工業金融調査(上)	楠見一正	二・三〇	〇・三七	大阪 大阪商科大 學經濟研究 所	第六十五回帝國議會 貴族院事務報告	貴族院事務 局	〇・四四	〇・四四	貴族院事務 局 神田
ケイ ンズ 金融理論と 管理通貨	吉田寛	二・八〇	〇・三六	神田 山書店	米國の外交政策	浦松郎	非	〇・〇〇	太平洋 問題 調查會 神田
軍備・公債・増税	猪俣津南雄	一・三〇	〇・二九	芝 造社	市町村の豫算決算	杉山俊郎	非	〇・二〇	地方事 務會 茨城
利殖相談	高橋渡	一・二〇	〇・一八	本郷 雄風館書房					

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
帝國議會五十年史 自第一議會 至第六十六議會 第六十六回(臨時) 帝國議會院議事摘要	深尾逸雄	二・五〇	△二〇〇	同 新聞人協會	明治立憲思想史に 於ける英國の 議會制度の影響	淺井清	三・八〇	〇・四四	巖松堂 書店 神田
列強對滿工作史(下)	アリン著 大竹博吉譯	二・〇〇	〇・三五	同 ナウカ社	昭和八年人口動態統計	內閣統計局	△三・九	〇・三九	內閣統計 局 麻布
市政概要	東京市役所	一・〇〇	〇・七六	同 東京市役所	立憲民政黨史(上)	斯波眞吉	五・〇〇	△五・六	史編纂 局 神田
昭和五年國勢調査 報告・府縣編廣島縣	內閣統計局	一・〇〇	△三・七	同 東京統計協會	外交知識(下)	貴島桃隆	一・五〇	〇・一八	國際經 濟 所 京橋
人口問題と國際政策	建林正喜	一・〇〇	〇・三九	同 凡進社出版部	氏外務大臣演說集	同	二・〇〇	〇・三六	同
日本之力	渡邊鐵藏	一・五〇	〇・五〇	同 章華社	天皇機關說の撲滅戰	伊東祐邦	〇・七〇	〇・二二	東邦書 院 京橋
國政一新論叢(二)	上村弘勇	〇・三〇	〇・三四	同 國政一新會	國家改造運動の 最近情報	芳陵龍夫	非	〇・〇〇	大月社會 問 神田
滿洲に於ける 國際爭	植田捷雄	二・八〇	〇・三八	同 森山書店	天皇機關說	同	同	〇・〇〇	同
歐近世外交史(下)	林毅陸	三・五〇	〇・四二	同 誠社	をめぐつて	同	同	〇・〇〇	同
獨裁政治論	今中次磨	二・〇〇	〇・二七	同 三笠書房	ムツヲリニ全集九 フアシズモ原理	村松正俊	〇・二九	〇・二九	日本評 論社 京橋
國際危機第一年	高田廣海	〇・二〇	〇・一八	同 新聞發行所	豫算可分不可分の 議論に就て	西野元	非	〇・〇〇	同
現代政治の常識	大平進一	一・三〇	〇・二七	同 同文館	第三回大會議案報告	原上松次郎	〇・〇〇	〇・〇〇	同
維新政治宗教史研究	徳重淺吉	六・〇〇	〇・七六	同 目黒書店	美濃部達吉博士 不敬事件告發狀全文	江藤源九郎	〇・〇〇	〇・〇〇	同
昭和五年國勢調査報 告・府縣編鹿兒島縣	內閣統計局	一・〇〇	△一・五	同 東京統計協會	處世記	尾崎行雄	一・五〇	〇・〇〇	同



書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
非常時議會爆彈事件	三木 鱗	・三〇	〇	通政會	滿洲國皇帝	中保與作	二・〇〇	〇	日本評論社
帝國試心會の會員は	石橋 久	非	〇	研究會	政友會卅五年史	井上平太郎	〇	〇	政友會卅五年史編纂部
日本精神の體験者となれ	松本重敏	・二〇	〇	世界公論社	政戰六十年	尾崎學堂	一・八〇	〇	日本評論社
天皇機關説と國論	藤澤親雄	・七〇	〇	青年教育會	地方財政は	平野 學	・五〇	〇	社會大眾黨
近代政治思想と皇道	阿子島俊治	・二〇	〇	今日の問題社	破産する？	内田良平	〇	〇	社會大眾黨
内閣審議會とは何をする所か？	サファロフ	・二〇	〇	今日の問題社	國憲變革の	大田良平	〇	〇	社會大眾黨
日本帝國主義論	編輯部	・五〇	〇	白揚社	「親日」支那を暴く日	新開社	・二〇	〇	大開社
議長學・座長學	大橋太郎	・三〇〇	〇	高踏社	支提携はどうなる？	松岡洋右	・五〇	〇	新開社
會議の仕方と要領	里見岸雄	・二〇	〇	化學見日本文	なぜ既成政黨の	野依秀市	・五〇	〇	實業之世界社
天皇機關説の檢討	裏田胸喜	・二〇	〇	今日の問題社	國體の實相を吟味し	木合幾三郎	非	〇	政界往來社
天皇機關説を爆破して國民に訴ふ	宮下龜雄	・五〇	〇	二松堂書店	に及ぶ云々	和泉誠一	一・〇〇	〇	二松堂書店
問題化 天皇機關説	高橋清吾	・五〇	〇	有斐閣	カレントソート	渡邊 晋	非	〇	渡邊 晋
改訂政治科學原論	芳陵龍夫	非	〇	大月社會問題調査所	滿洲國皇帝陛下	松見靜馬	非	〇	皇道學部
擬制單一政黨	吉村 保	・二〇	〇	京都府教育會	天皇機關説は學	摺建一甫	・三〇	〇	鶴鳴莊出版部
非常時局と日本精神	横溝光暉	・六〇	〇	新光閣	說としても成立たぬ	伊藤隆文	・二〇	〇	大文社
第一線の行政事務刷新					學匪美濃部				

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
國體論、宗教效驗論	河原榮次郎	・三〇	〇	川瀨日進堂	皇政一新の大綱	片山廉平	非	〇	片山廉平
共產主義反駁論	國政一新會	・三〇	〇	國政一新會	祖國日本に捧ぐ青年	舞木友衛	・二〇	〇	青年日本黨
國政一新論叢 (前編)	美濃部博士の	・四〇	〇	原理日本社	日本黨指導原理解説	新開社	・二〇	〇	新開社
美濃部博士の大權蹂躪(増訂)	伊藤博文	・六〇	〇	秘書類纂	南支南洋を	大阪毎日	・二〇	〇	大阪毎日
類纂 外交篇(下卷)	河瀬龍雄	・七〇	〇	三省堂	國策的に觀る	高岡熊雄	・五〇	〇	日本學術會
滿洲建設の標幟	林 正治	・二〇	〇	昭和神聖會	滿蒙移民機關に	國政一新會	・三〇	〇	國政一新會
天皇機關説擊滅	藤澤親雄	・七〇	〇	青年教育會	關する諸家の意見	同	・三〇	〇	同
近代政治思想と皇道	牧 健二	・三〇	〇	同	國策一新論叢(一)	同	・三〇	〇	同
日本國體への反省	青木光雄	・二〇	〇	國民協會	軍縮會議と國防問題	柴田善三郎	・六〇	〇	同
國家の威信と國民の體面に關する五十萬	岩間光男	非	〇	國民協會	日本行政法總論	淺井 清	・三〇	〇	同
元問題の真相と其反響	宮澤 裕	・二〇	〇	國民協會	躍進日本の政治動向	加藤調一	・五〇	〇	同
大日本國家社會黨は	大日本國家社會黨	非	〇	國民協會	國策論叢(二)	芦田 均	非	〇	同
何を主張するか	大日本國家社會黨	非	〇	國民協會	國體思想を根絶し	内田良平	非	〇	同
機關説と帝國憲法	大日本國家社會黨	非	〇	國民協會	を安んずる	片岡信滋	非	〇	同
ドイツの爆彈	大日本國家社會黨	非	〇	國民協會	國體に關する訓辭	平沼麒一郎	非	〇	同
宣言と戰慄の歐洲	大日本國家社會黨	非	〇	國民協會	予の見たる政黨政治	片岡信滋	非	〇	同
群馬社事件概要	大日本國家社會黨	非	〇	國民協會	とフアッシュヨ政治	伊藤 榮	・三〇	〇	同
現代政治の進むべき道	大日本國家社會黨	非	〇	國民協會	五十萬元賣國	伊藤 榮	・三〇	〇	同



書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
言々々々國を思ふ 議政壇上の獅子吼	比佐昌平	〇・三〇	〇・四	磐城之實業社 福島	天皇機關説を排す	藤田 愈	非	〇・三	山梨協會本部 豊島
太平洋の空中争覇	大道弘雄	〇・三〇	〇・一	朝日新聞社 大阪	天皇機關説	北野豊次郎	〇・二〇	〇・一五	山梨協會本部 豊島
政治學	佐藤丑次郎	四・〇〇	〇・五七	有斐閣 神田	政治學講義要領	五來欣造	一・五〇	〇・三三	久野書店 牛込
ムツリニ全集 フアシスト革命	三浦逸雄	〇・三〇	〇・三九	日本評論社 京橋	天皇政治と道義日本	松岡洋右	非	〇・三	政黨解消聯盟出版部 麹町
天皇機關説を論ず	大串兎代夫	〇・三〇	〇・五九	邦人社 麹町	【五月】				
米國外交政策の解剖	浦松 佐太郎	非	〇・一五	太平洋問題調査會 同	第六十帝國議會會議 七回 事速記録集	内閣印刷局	三・五〇	△八〇	内閣印刷局 麹町
天皇機關説を撃つ	林 貞四郎	〇・二〇	〇・二四	全日本護國聯盟本部出版部 道北	建國由來と皇道政治	大井一哲	〇・八〇	〇・六六	問題研究所 同
所謂「機關説問題」は 昭和維新第二期戦展開の神機	五百木良三	非	〇・九	國體擁護會 芝	内閣を衝く	川崎正明	〇・五〇	〇・六	青年協會 道北
刻下乃南太平洋	辻森民三	〇・三〇	〇・一三	開南同盟本部 牛込	軍縮會議と日本	雪下勝美	非	〇・三	海軍々縮會議 麹町
市井事	武田麟太郎	一・八〇	〇・三三	竹村書房 同	日本政治學ノ確立	尾崎 亘	非	〇・六	大東文化協會 同
美濃部學說の 思想的背景	中谷武吉	〇・三〇	〇・三三	維新社 麹町	第六十帝國議會 七回 代表雄辯集	岡野龍一	一・二〇	〇・二五	日本講演社 赤坂
政治と國民	渡邊千冬	〇・二〇	〇・三三	社會教育協會 川小石	行政法各論講義案	山田準次郎	非	〇・一五	中央大學 神田
伊藤公の機關説を闡明して滿天下の識者に寄す	鈴木鷺山	〇・二〇	〇・三三	國防研究會 芝	國防に缺陷あり	石田司郎	〇・〇	〇・一六	國防資源協會 芝
ロシアは如何にして 極東に迫るか?	伊藤隆文	〇・二〇	〇・三三	國防研究會 芝	獨裁國民は損したか	由岐一譯	一・三〇	〇・二五	凡人社 本郷

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
衆議院委員 會討論秘録	内藤義清	一・〇〇	〇・一七	日本乗合會 麹町	歐洲政局の混亂と 國防に就て	四王天延孝	〇・二〇	〇・三三	中央大學 神田
日本改造の具體案	田中澤二	〇・五〇	〇・一七	養正時評社 澁谷	【六月】				
訂財政學	大竹虎雄	一・五〇	〇・三三	巖翠堂書店 神田	政治社會史 (第一分冊)	山田述之助	非	〇・二二	中央大學 神田
第六十七回 帝國議會に對する 運動經過報告	千石與太郎	非	〇・一八	全國農協會 麹町	同 (第二分冊)	同	同	〇・二二	中央大學 神田
岡田内閣	高田春造	△三・五	〇・三三	岡田內閣會 芝	第六六・六七帝國 議會 拓務及對滿 議事詳録	佐々木龍一	三・五〇	△六四	中央情報社 麹町
軍部と内閣審議會	芳陵龍夫	非	〇・一八	大月社會所 大阪	政黨の更生に就きて 立憲政友會黨員諸君 に對ふ	渡邊卓哉	〇・〇	〇・三	三渡邊卓哉
米國失業保險問題	秋山斧助	〇・五〇	〇・三三	全國產業團體 聯合會事務局 麹町	英國の議會政治	玉井 茂	一・八〇	〇・三三	南郊社 牛込
第六十六回帝國議會 議事經過報告書	仲矢 隆	非	〇・三三	仲矢 隆	歐洲はどう動く	大道弘雄	〇・二〇	〇・三三	朝日新聞社 大阪
滿洲國皇帝 滿蒙太平記	米田華紅	一・五〇	〇・三三	日本書院 同	統治權と統治の實相	柴田豊太郎	非	〇・三三	朝日新聞社 大阪
大恐慌と その政治的結果	ヴァアルガ	一・五〇	〇・三三	叢文閣 同	議會政治の眞髓	島根縣選舉 肅正同盟	非	〇・三三	東方會 宮城
自治行政	坂 千秋	非	〇・三三	常磐書房 川小石	國體と政體の明徴	曾根虎之助	〇・三〇	〇・三三	法制協會 鹿島
國政一新論叢	國政一新會	〇・五〇	〇・一六	言海書房 京橋	天皇親政論	伊藤隆文	〇・二〇	〇・三三	今日の問題社 芝
政治社會史	川原次吉郎	非	〇・一六	中央大學 神田	列強は如何にして 支那を食ふか?	マルクス 木下半次	〇・四〇	〇・三三	岩波書店 神田
日蘭會商の經過	神坂靜太郎	〇・一〇	〇・一四	神坂靜太郎 神田	岩波 フランスに 於ける内亂	堀江邑一	一・三〇	〇・三三	岩波書店 神田
イギリスの印度統治	佐藤貞次郎	一・七〇	〇・三三	東亞經濟研究所 麹町	世界政治經濟情報	堀江邑一	一・三〇	〇・三三	岩波書店 神田
					地方自治の本質	渡邊宗太郎	二・五〇	〇・三三	弘文堂書房 同



書名	著譯者	定價	頁數	發行所
現代日本論	清澤 洵	一・五〇	三七八	千倉書房
時局に對する所感	荒木貞夫	〇・五〇	五	福岡縣國防會
國體の明徴と政治及教育	大日本國體宣揚會	一・八〇	一九〇	皇學書院
天皇政治と道義日本	松岡洋右	非	〇	政黨解消
非常時と日本の國防	石原莞爾	三・〇〇	三	アサヒ印刷部
社會革新の國情と相異	伊藤輔利	四・〇〇	三	思想研究所
非常時日本之内患	藤日宗弘	〇・八〇	三	大昭社出版部
財政國防論	齋藤直幹	一・五〇	〇	言海書房
歐洲に戰雲漲る	杉下芳男	二・〇〇	〇	普及社
一票の力	前田多門	〇・五〇	〇	選舉正社
蔣介石を如何に遇するか	氏野博光	二・〇〇	二七	極東時事會
日本をどうする速に國策を樹立せよ	讀賣新聞社	三・〇〇	〇	日本評論社
日本研究	太田平	九・〇〇	〇	叢文閣
歐洲政局の不安	熊田克郎	一・五〇	〇	立命館出版部
マルクス記念論文集	平館利雄	一・三〇	〇	叢文閣
大分縣に於ける選舉正運動	伊藤末尾	〇・五〇	〇	選舉正運動
偽裝の魏日を曝く	若泉小太郎	三・〇〇	〇	選舉正の意義と方法
政治的神話と經濟的現實	後藤若洋	非	〇	政治的現實
國際宣傳戰に備へよ	田澤義鋪	〇・五〇	〇	國際宣傳戰に備へよ
オタワ貿易協定の補足たる英國政府印度政府間協定	井原 紉	二・〇〇	〇	北滿鐵道に關するソウイエット聯邦の權利關係の満洲國への讓渡關係の満洲國への讓渡關係の満洲國への讓渡關係
北滿鐵道に關するソウイエット聯邦の權利關係の満洲國への讓渡關係の満洲國への讓渡關係	赤松祐之	一・五〇	〇	選舉正に就て
選舉正に就て	同	〇・五〇	〇	選舉正に就て
中華民國政治の現狀	小山松吉	〇・五〇	〇	選舉正に就て
中華民國政治の現狀	福來友吉	三・〇〇	〇	選舉正に就て
中華民國政治の現狀	山上 昶	非	〇	選舉正に就て
中華民國政治の現狀	伊東祐郎	七・〇〇	〇	選舉正に就て
中華民國政治の現狀	關口一郎	非	〇	選舉正に就て

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
國政一新論叢(五)	上村弘勇	三・〇〇	〇	言海書房
歴代内閣物論	安藤徳器	一・五〇	〇	同
國民精神文化類輯六	大串兎代夫	二・五〇	〇	國民精神文化研究所
全體國家論の擡頭	南船北馬	二・〇〇	〇	改造日本社
比律賓に於ける獨立運動の概要	丹羽市三	非	〇	北國夕刊新報社出版部
國體に關する異説に就て	播州國防研究會本部	非	〇	精神教育會
滿洲に於ける現下重要諸問題に就て	稲原勝治	二・三〇	〇	福田書房
現代外交の動き	笠木良明	二・〇〇	〇	大亞細亞建設社
滿洲國縣旗	谷口壽太郎	三・五〇	〇	自治刊行社
檢索市町村實務便覽	田中顯一	五・〇〇	〇	獅子王文庫
日本國體新講座第一期第六號	鹿島守之助	一・五〇	〇	章華社
最近世界の外交	菊地駒次	三・〇〇	〇	日本外交協會
公法涓滴	上村弘勇	非	〇	言海書房
國政一新論叢(五)	上村弘勇	三・〇〇	〇	言海書房
各國に於ける輸入制限	山崎又次郎	三・〇〇	〇	貿易工省局
天皇機關説の憲法學的批判	直井武夫	一・〇〇	〇	世界政治經濟情報(三)
世界政治經濟情報(三)	葛生能久	〇・八〇	〇	伊エ問題とエチオピア事情
軍人と政治	柳沼七郎	一・五〇	〇	憲政大意
憲政大意	穂積八東	二・五〇	〇	憲政の試練と選舉の肅正
憲政の試練と選舉の肅正	報知新聞	二・〇〇	〇	選舉肅正の根本精神
選舉肅正の根本精神	堤 章	〇・五〇	〇	昭和十年度豫算の解説
昭和十年度豫算の解説	福永 渙	一・三〇	〇	王道霸道と皇道政治
王道霸道と皇道政治	大藏省	三・〇〇	〇	ソ聯邦ノ政治及經濟組織
ソ聯邦ノ政治及經濟組織	小川平吉	一・七〇	〇	防火講演集(二)
防火講演集(二)	森耕二郎	三・〇〇	〇	社會政策要論
社會政策要論	同	三・〇〇	〇	同



書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
無産階級の 新地方政策	平野 學	・二五〇	〇	社大衆	エチオピア若し戦は い果して伊太利は勝 つか?	池田 人	・二〇〇	〇	日本講 演社
秘書官制關係資料	伊藤博文	非	〇	行類纂	大戦後の國際對立	宮地健三譯	・一〇〇	〇	叢文閣
國政一新論叢(六)	上村弘勇	非	〇	言海書房	會財政經濟政策に 對する理論的檢討	馬場鏡一	非	〇	新日本同盟
幽囚徒然草	三土忠造	・一五〇	〇	千倉書房	東京の裏面を覗く	平田 勉	・八〇〇	〇	民衆自治會
日本國體新講座 第一期第七號	田中顯一	・五〇〇	〇	獅子王文庫	選舉は肅正 出來るか?	永田秀次郎	・〇五〇	〇	選舉肅正
赤字公債と豫算に 關して聲明す	瀧澤操六	・三〇〇	〇	先憂社	重臣ブロックの正體	村田清太郎	・二〇〇	〇	今日の問題社
選舉の神聖	高橋正雄	非	〇	金光教本部	東京市政の危機と 牛塚市長の責任	淺沼稻次郎	非	〇	社會新聞社
地方制度の 改正に就て	加藤於菟丸	〇	〇	群馬縣會	北支事件及宋哲元軍 不法事件に就て	陸軍省 新聞班	非	〇	陸軍省新聞班
選舉肅正部落 懇談會の開き方	松原一彦	・〇五〇	〇	村長會	選舉肅正の方策	信濃教育會	非	〇	信濃教育會
國家指導原理とし ての日本精神	緋田 工	・二〇〇	〇	日本國體學 所	變轉のソ聯邦	勝三郎	・三〇〇	〇	協日本國體 會
泉道主義の政治と 特殊部落民	藤野修册	非	〇	日本國體學 所	憲政常道への 復歸は可能か	氏野博光	・二〇〇	〇	極東時事 會
岩波君主論一・二〇〇七	マキエルク グヰルキア	・四〇〇	〇	岩波書店	選舉肅正と 官僚の擡頭	檜垣清人	・二〇〇	〇	日本講 演社
文庫 日本政黨變遷史	青野 權右衛門	・三〇〇	〇	久安社	選舉肅正に就て	茨城縣	・二〇〇	〇	茨城縣 會
選舉肅正の根本義	長田伊織	非	〇	南宮神社	躍進日本の新市場 (三) 東アフリカ	久我成美	・一五〇	〇	日本國際協會

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
國體明徴講話資料	金井眞澄	・八〇〇	〇	第一出版協會	議會と選舉の肅正	星野辰男	・三〇〇	〇	朝日新聞社
日本の運命	伊東銳太郎	・一五〇	〇	日本公論社	〔九月〕				
現下の國防と 國民の覺悟	川上親孝	〇	〇	帝國陸海 軍民社	宇垣内閣の必然法	村松天洞	・二〇〇	〇	舉國社
與國皇民黨創設	岩橋和多利	非	〇	岩橋和多利 島根	産青聯叢書九 産青聯と政治運動	中島袈裟重	非	〇	長野縣産業 組合青年聯盟
昭和 東京市人口 八年統計(一)	東京市役所	△五〇	〇	東京市役所 麹町	一切を擧げて赤露 の挑戦に備へよ	赤尾 敏	・二〇〇	〇	建國會出版部
不忠の罪惡投票買	宮城長五郎	〇	〇	大日本忠孝會 長崎	牛塚市政の解剖	山野高彦	・二五〇	〇	光明館書店
現代政黨論	島田俊雄	非	〇	東京講演會 日本	刊 ロシアの不敬 事件を暴露す	森 清一	非	〇	神政社
選舉肅正(一)	宮崎 縣	〇	〇	宮崎縣 宮崎	選舉權行使の指針	帝國在郷 軍人會本部	非	〇	金原商店
府縣會を主とする 選舉の取締と罰則	若泉小太郎	・六〇〇	〇	新光閣 神田	選舉肅正と新選舉法 及外交行政	鳥津嘉孝	非	〇	全日本選舉 正聯盟本部
新選舉法解説	勝田永吉	非	〇	東京毎日新 大阪	國民政府の外交 及外交行政	張 秀哲	・二〇〇	〇	日支問題 會
噴火山上の歐洲世界 大戰再び起るか大舞 臺に躍る群雄	相馬 基	・五〇〇	〇	東京日々新 麹町	宇垣内閣の必然性 (削除版)	村松天洞	・二〇〇	〇	日華實業協會
國民 選舉讀本	伊集院兼清	・二〇〇	〇	講演の友社 芝	國民政府經濟産業 行政と其の現勢	油谷恭一	・一〇〇	〇	日華實業協會
ナチス・獨逸	北上 健	・一八〇	〇	學而書院 下谷	國體明徴と 臣民の正念	石川金吾	・一〇〇	〇	日本精神宣 傳部
日本精神 研究(六) 日本國體論	伊藤千眞三	・一八〇	〇	東洋書院 芝	選舉の肅正に就て	乾 伊太郎	非	〇	群馬縣會 長
選舉肅正に就て	仁保龜松	〇	〇	三重縣 三重	機關説の排撃	猪瀬乙彦	同	〇	帝國在郷 軍人會本部



書名	著譯者	定價	頁數	發行所
民族問題をめぐりて	古屋芳雄	・二〇〇	二六〇	人文書院 京都
院外團手記	摩天樓針塔	・二〇〇	三〇	新潮社 牛込
政黨政治の科學的考察	關口一郎	非	〇	新日本同盟 麹町
愚か狂か	大井一哲	・三〇〇	九〇	日本社會問題研究所 同
選舉肅正運動	金子堅太郎	・三〇〇	五〇	日本文化協會出版部 同
帝國憲法制定の精神	溝端茂吉	・二〇〇	九〇	岩波書店 神田
歐米各國學者政治家の評論	小倉虎治	・四〇〇	一七〇	那須書房 王子
政界床次竹二郎	堀眞琴	・四〇〇	二七〇	岩波書店 神田
惑星氏の急逝	楠原祖一郎	非	〇	社會思想對策調查會 京都
世界大戰を孕む英・伊・エチオピアの危機	杉村政義	非	〇	杉村政義 富山
岩波二三一三四	松田勝美	・三〇〇	〇	靜岡長壽指壓療法研究所 靜岡
文庫法と國家	今岡十一郎	・三〇〇	〇	言海書房 川小石
サヴェート聯邦の赤化策謀に關する各國の外交事情	選肅肅正の本義	・三〇〇	〇	フラン民族運動とは何か
縣會議員選舉に直面し敢て中堅監督者各位に望む				

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
改正選舉法の話	内務省	・三〇〇	六〇	高橋成弘社 愛知
軍縮問題と帝國の使命	關根部平	非	〇	國防協會 京都
新舊對照選舉法規則と最近選舉判例	日學會	・三〇〇	四〇	立興社 神田
伊エ紛争を廻る歐洲の危機と有色人種の團結世界大戰勃發か	楠本淳	・二〇〇	四〇	さんもん書房 杉並
日本經營論	清水芳太郎	・一五〇	四八	千倉書房 京橋
新日本論	永井亨	・三〇〇	六六	三笠書房 神田
植民政策研究(第一分冊)	山本美越乃	・八〇〇	三七	弘文堂書房 同
海嶽集	若槻禮次郎	非	〇	若槻禮次郎 木郷
國政一新論叢(七)	上村弘勇	・二〇〇	三三	言海書房 川小石
金銀の將來と我對外交政策	立野斗南	・一三〇	三二	日本外事協會 麹町
國民政府の外交及外交行政	張秀哲	・三〇〇	四六	日支問題研究会 同
肅軍劇の渦中突進	溝端茂吉	・二〇〇	三〇	國社 淀橋
川島新陸相の登場	加藤鯛一	非	〇	加藤鯛一 澁谷
政黨の政策は地方財政に如何に反映せるか	鶴見祐輔	・一三〇	〇	ヤシマ書房 神田
風雲のエチオピア	駒井重次	・一三〇	〇	ヤシマ書房 神田
大日本皇國天皇憲法論	坂本清馬	・三〇〇	一三〇	昭和神聖會 高知
イタリイ立ちエチオピア應ず東阿の戰雲	大山卯次郎	・二〇〇	五〇	普及社 神田
有色人種はどうする	北條爲之助	・一〇〇	三二	大成通信社 同
改正選舉法の要領	古井喜實	・一〇〇	三〇	良書普及會 川小石
改正法令の下に於ける選舉事務と選舉肅正運動	金子堅太郎	・二〇〇	三〇	東京日々新聞發行所 麹町
帝國憲法制定の精神	金子堅太郎	・二〇〇	三〇	新開發行所 麹町
歐米各國學者政治家の評論	直井武夫	・一三〇	五九	ナウカ社 神田
レニンの唯物論體系	小西重直	非	〇	竹扁會 富山
日本的自覺	野村信孝	・四〇〇	五九	巖松堂書店 神田
行政法大綱	陸軍省	・二〇〇	〇	陸軍省新聞班 麹町
轉換期の國際情勢と我が日本	金子堅太郎	非	〇	海軍有終會 芝
帝國憲法制定の精神	陸軍省	・二〇〇	〇	陸軍省新聞班 麹町
歐米各國學者政治家の評論	金子堅太郎	・二〇〇	〇	陸軍省新聞班 麹町
滿洲事變勃發滿四年日滿關係の再認識に就て	陸軍省	・二〇〇	〇	陸軍省新聞班 麹町
エチオピア皇帝とムツソリ	永松淺造	・二〇〇	〇	陸軍省新聞班 麹町
選舉肅正に就て	森村堯太	非	〇	森村堯太 群馬
國際バンフレット(二) ヒットラーナチ	百々巳之助	・二五〇	〇	社會春秋社 澁谷
堅實なる國體觀念	加藤尺堂	・三〇〇	〇	精神教育會 京橋
選舉は國家の一大事	穂積重遠	・二〇〇	〇	社會教育協會 川小石
帝國憲法制定の精神	金子堅太郎	・二〇〇	〇	皇道會出版部 世田
歐米各國學者政治家の評論	佐藤慶治郎	・二〇〇	〇	皇道會出版部 世田
世界の焦點滿洲國	岩橋和多利	・二〇〇	〇	皇道會出版部 世田
全國國民諸君に訴ふ	山田孝雄	・二〇〇	〇	皇道會出版部 世田
國體の淵源を	原靜村	・二〇〇	〇	皇道會出版部 世田
教ふる國生の物語	スハカレ	・二〇〇	〇	皇道會出版部 世田
非常時日本と人物	武田貞之助	・二〇〇	〇	皇道會出版部 世田
未開地エチオピアが何故イタリイと戦へるか	スハカレ	・二〇〇	〇	皇道會出版部 世田
立憲的忠君愛國の人	武田貞之助	・二〇〇	〇	皇道會出版部 世田
(選舉肅正の要)	武田貞之助	・二〇〇	〇	皇道會出版部 世田
新潟縣政黨史	永木千代治	・三〇〇	〇	皇道會出版部 世田
模範國民論	服部文四郎	・一〇〇	〇	皇道會出版部 世田
新光パンフ新官吏道	緋田工	・一五〇	〇	皇道會出版部 世田
中央教化團體聯合會と選舉肅正運動	古谷敬二	・二〇〇	〇	皇道會出版部 世田



書名	著譯者	定價	頁形體	發行所
國體明徴を中心とし て帝國憲法を論ず	山崎又次郎	・六〇	〇一八五	清水書店 神田
國家肅正運動の愚策	荳津耕次郎	・五〇	〇二	金泉社出版部 京橋
永田事件の真相	ひろしま	・二〇	〇〇	時事研究会 同
千九百三十三年第十 七回國際労働總會ニ 於テ採擇セラレタル 條約案及勸告	東京労働局	・五〇	〇一三	東京労働局 麹町
どちらが勝つ? 伊エ紛争早わかり	相馬 基	・二〇	〇三	東京日々 同
三國干渉以後	溝川龜太郎	・一五〇	〇三三	新開發行所 同
戰爭プロカ	鶴本丑之介	・三〇	〇五	解剖時代社 神田
滿洲 第四週年を 事變 迎へて	帝國在郷人 會 西濱村分會	非 〇	〇一	帝國在郷人 會 西濱村分會 兵庫
國家會計綱要(上)	神出憲太郎	非 〇	〇一	宇野商店 石川
爆彈を抱く歐洲伊 兩軍火蓋をきる世界 大戰の危機と日本	松尾樹明	・五〇	〇一七	忠誠堂 神田
支那縣政の一面觀	奥野光紀	非 〇	〇一	奥野光紀 中野
産業組合と政治	高濱義雄	非 〇	〇二	四海書房 神田
非常時の核心	高濱義雄	非 〇	〇二	四海書房 神田
議會・政黨・選舉	高濱義雄	非 〇	〇二	四海書房 神田

書名	著譯者	定價	頁形體	發行所
日本國體新講座 (第一期第九號)	日中編一 上村弘勇	・五〇	〇〇	獅子王文庫 川小石
國政一新論叢(八)	上村弘勇	非 〇	〇三	言海書房 川小石
歐阿外交戰線に 躍る群雄	楠木 淳	・二〇	〇〇	さんもん書房 杉並
極東赤化の現段階と 中國共產黨の動向	千葉山男	・三〇	〇〇	邊疆問題 京橋
伊エ紛争	星野辰男	・二五	〇〇	朝日新聞社 麹町
國際情勢と我が 織維界の陣容(上)	安達春洋	・二〇	〇〇	安達春洋 兵庫
最近の伊太利政治	田畑爲彦	・六〇	〇二	言海書房 川小石
植民政策研究	長田三郎	・六〇	〇二	遺著刊行會 神田
米國新聞記者の 見た日本と滿洲	兒玉璋一	・八〇	〇二	日本新聞協會 京橋
神 國 日 本	河田 馨	非 〇	〇三	河田 馨 北海
増税及整理稅論	神戶正雄	・三〇	〇〇	立命館出版部 京橋
解 北支に關する	村田孜郎	・二〇	〇〇	學藝社 京橋
說 日支關係條約	村田孜郎	・二〇	〇〇	學藝社 京橋
日本國家機構早わか り軍部制の基礎を なすもの	日本政治 研究会	・二五	〇〇	時局新聞社 同
南大將と松岡洋右	中野江漢	・二〇	〇〇	日本講演社 赤坂
盟邦滿洲國の進展	多田雄太郎	非 〇	〇一	岐阜縣師範 學校地歴教室 岐阜

書名	著譯者	定價	頁形體	發行所
立憲民政黨 政策講演集	池田超爾	・一〇〇	〇〇	民政社 芝
伊エ紛争の全貌	大道弘雄	・二〇	〇〇	朝日新聞社 大阪
最近一年として一九 三四年に於けるプ ラジル及日伯關係の 動向	拓務省	・一五	〇〇	拓務省拓務局 麹町
警察叢書(三三)	奈良縣警察部	〇	〇〇	奈良縣警察部 奈良
最近選舉判例集	安達 巖	・七〇	〇〇	高陽書院 神田
産業組合政治	小林順一郎	・三〇	〇〇	今日の問題社 芝
運動と産青聯	松下茂男	・二〇	〇〇	小冊子書林 神田
軍部と國體明徴問題	松田 巖	・三〇	〇〇	今日の問題社 芝
林陸相より 川島陸相へ	川島陸相	・二〇	〇〇	今日の問題社 芝
空襲下の悲壯	エチオピア 問題懇談會	・二〇	〇〇	比律賓協會 麻布
比律賓の獨立問題	北 正一郎	非 〇	〇〇	比律賓協會 麻布
防災科 學(六) 諸 災	直井武夫	・一〇	〇〇	岩波書店 神田
世界政治經濟情報(五)	木下三郎	・五〇	〇〇	ナウカ社 神田
國際言論	岩瀬正治	・二〇	〇〇	國際言論社 神田
國民政治讀本	池田秀雄	・三〇	〇〇	金港堂書館 神田
朝鮮産業政策の 絶好なる轉換期	池田秀雄	・三〇	〇〇	金港堂書館 神田

書名	著譯者	定價	頁形體	發行所
大亞細亞政策 の完成の爲に	氏野博光	非 〇	〇三	極東時事 神田
國體明徴に就いて	播州國防 研究会本部	非 〇	〇六	播州國防 研究会本部 兵庫
制裁下の ムツソリニ没落か	三島康夫	・二〇	〇〇	今日の問題社 芝
帝國憲法制定の精神	金子堅太郎	非 〇	〇五	京都府教育會 京橋
歐米各國學者政治家 の評論	山本宗次	・二角	〇〇	獅子王文庫 川小石
日本國體新講座 東亞版第三號	エチオピア 帝國の運命?	・二角	〇〇	獅子王文庫 川小石
選挙正と 宣誓運動	スエール スエール	・二〇	〇〇	國民思想會 大阪
イギリス帝國 主義下の印度	宣誓同盟	非 〇	〇〇	宣誓同盟 麹町
國防豫算の膨脹は 財界を危くするか?	花岡止郎	・三〇	〇〇	世界公論社 京橋
一九二七年—一九三三年 國民解放運動之基調	若杉浪雄	・三〇	〇〇	國際思想研 究會事務所 京橋
メイトル問題と必死 のヒットラー總統	杉山 明	・二〇	〇〇	憂國社 目黒
中外皇化の大業	小瀧辰雄	非 〇	〇〇	皇大日本社 川小石
國民精神文化研究 の政治指導	藤澤親雄	・二五	〇〇	協會出版部 麹町



書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
自治行政 土木行政	武井群好	非	◎ 五五	常磐書房	皇國大日本と其使命	鹽田盛道	・五〇	◎ 一六	健國講演會
日本はイタリを支持して英米の壓迫に備へよ	片倉藤次郎	・二〇	◎ 四	今日の問題社	假敵は大演習を覗く	松下芳男	・二〇	◎ 三	城西出版社
近帝國主義論	ブルエブス	・一五〇	◎ 三三	白揚社	愛政パンフレット一	小池四郎	・一五〇	◎ 一七	維新日本社
黎明の印度	岩元貞信	・一〇〇	◎ 二六	軍人會館	我國體の神髓	佐藤鐵太郎	非	◎ 一七	奉仕會出版部
北支獨立運動の實相と日本の立場	裕田明造	・二〇	◎ 四	小冊子書林	危機を孕む	梨本祐平	非	◎ 一七	日本國體研究所
軍部を中心とする對支政策の新たな轉換	大倉一榮	非	◎ 三	日本經濟調查所	北支問題と	中谷武世	・三〇	◎ 一四	大亞細亞協會
北支問題早わかり	岡野龍一	・二〇	◎ 三	日本經濟調查所	警察パンフレット一	山口翠	・一五〇	◎ 二	新警察社
世界再分割時代	清澤洵	・一五〇	◎ 三	千倉書房	最近米國の財政々策	天野健雄	・一五〇	◎ 五	東京商工會
北支に躍る人々	小林知治	・二〇	◎ 三	政道社	天業再興皇道復古日本國體の本義御明徴に關する請願書及び建白書の要旨と其解説	藤野修册	非	◎ 五	皇本教會
愛政パンフレット二	小池四郎	・一五〇	◎ 三	維新日本社	我が國體の明徴ぞ太平洋を繞る國々	渡邊晋	・一五〇	◎ 四	渡邊晋
支那！	野田豊	・二〇	◎ 三	野田經濟研究所	北支獨立運動の真相	別小野鐵二	・一五〇	◎ 四	華社
南方國策(第一輯)	大槻正秋	非	◎ 三	臺灣懇話會	我が國體の明徴ぞ太平洋を繞る國々	村田孜郎	・一五〇	◎ 四	今日の問題社
支那と迫れる日英戦争	又ノ多月	・三〇	◎ 三	今日の問題社	我が國體の明徴ぞ太平洋を繞る國々	賀川豊彦	・一五〇	◎ 三	雲の柱社

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
次の政局を支配するは誰か?	阿子島俊治	・二〇	◎ 三	日本講演社	第六十七回帝國議會衆議院議事摘要(上)	大野慎	・二〇	◎ 五	東京フレット社
日本人の誤りたる伊エ紛争	下位春吉	・二〇	◎ 三	東京フレット社	久原房之助と宇垣一成	井上勝好	・二〇	◎ 六	明倫會本部
觀國體の本義と皇道財政	西川貞一	・三〇	◎ 三	新關門社	國體明徴と明倫會の活動	衆議院事務局	・二〇	◎ 三	衆議院事務局
軍縮と新聞ニユース	加藤萬治	非	◎ 一三	加藤萬治	第六十七回帝國議會衆議院議事摘要(中)	衆議院事務局	・二〇	◎ 三	衆議院事務局
國體明徴の意義	河上哲太	非	◎ 一三	河上哲太	帝國決算統計	米田實	・二〇	◎ 四	官房調查院
戰雲の歐洲に歐米の機密室は躍る	小林友治	・二〇	◎ 三	小冊子書林	伊エ紛争と國際關係	赤羽豊治郎	・一六〇	◎ 二六	凡進社出版部
明日の政權を擔ふ人々	小林友治	・二〇	◎ 三	同	國政一新論叢一〇	上村弘勇	・二〇	◎ 四	言海書房
外交陣をめぐる	小泉二十	・二〇	◎ 三	今日の問題社	通商と國防研究	天野龍雄	・二〇	◎ 四	國體研究所
日本建國之本義	楠孫六	・三〇	◎ 三	今日の問題社	國家干渉主義	赤羽豊治郎	・一六〇	◎ 二六	凡進社出版部
政局線に於ける	林勇造	・二〇	◎ 三	今日の問題社	英國の勢力を極東から叩き出せ	鈴木重雄	・二〇	◎ 四	國體研究所
選舉道の確立	長戸路政司	・二〇	◎ 三	今日の問題社	國體の確立論	鈴木重雄	・二〇	◎ 四	國體研究所
轉換期の世界に於ける政治の動向	伊藤輔利	・二〇	◎ 三	思想研究所	日支衝突必然論	三島康夫	・二〇	◎ 四	今日の問題社
日本國體新講座	山本宗次	・二〇	◎ 三	獅子王文庫	國際危局と日本	片倉藤次郎	・二〇	◎ 四	朝日書房
東亞版四號	廣瀬庫太郎	・二〇	◎ 三	日支問題研究会	老猶大英帝國を倒せ	佐々鴻吉	・二〇	◎ 四	朝日書房
日支問題を如何に解決すべきか	廣瀬庫太郎	・二〇	◎ 三	日支問題研究会	北支に曉鐘を撞く	渡邊剛	・二〇	◎ 四	夕刊帝國社



書名	著譯者	定價	頁數	發行所
貴族院要覽(丙)	貴族院事務局	非	×二五	貴族院事務局
最近の國際事情	佐藤忠雄	非	〇	防務會
憲政回顧錄	岡崎邦輔	・三	〇	東京新報社
極東の危機に對する意見書	梨本祐平	非	〇	日本國體研究所
極東の危機に備へよ	藪本正義	非	〇	北斗俱樂部
日本精神と國防	河野省三	〇	七	國防協會
貴族院要覽(乙)	貴族院事務局	非	×七五	貴族院事務局
自治行政叢書八	宮野省三	非	〇	常磐書房
警察行政・衛生行政	白松篤樹	〇	四	常磐書房
美濃部博士の天皇機	中西德五郎	〇	二	中西德五郎
關說の經過と其影響	中西德五郎	〇	二	中西德五郎
並に博士の論斷に對する批判	衆議院事務局	〇	五	衆議院事務局
第六十七回帝國議會	衆議院事務局	〇	五	衆議院事務局
衆議院議事摘要(下)	衆議院事務局	〇	五	衆議院事務局
北支問題の重大性	堤章	・二	〇	正劍社
と國民の決意堤	堤章	・二	〇	正劍社
決裂か貫徹か非常時の頂點	三宅忠典	・二	〇	文教館
の頂點	三宅忠典	・二	〇	文教館
政治必携	飯澤章治	一・〇〇	×三	同

(一五) 經濟

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
市場暖簾の價值研究	大野勇	・二〇〇	〇	中文館書店
昭和九年海運及經濟	日本郵船株式會社	・六〇〇	〇	日本海運會所出版部
經濟學文獻大	高砂恒三郎	・一五〇	〇	大阪商科大學
都市失業保險の成立過程(上)	平田隆夫	・二〇〇	〇	同
生命保險經濟論稿	野口正造	非	〇	日本生命保險株式會社
O・L・U受驗要覽	同	非	〇	同
大阪商科大學銀行研究叢書四(簿記論)	木村和二郎	・三〇〇	〇	大阪商科大學
昭和帝國豫算綱要	大藏省	・三〇〇	〇	同
第十年度銀行局年報	銀行局	・七五〇	〇	同
發電水電の經濟的研究	榎本卓藏	・二五〇	〇	オース社
明治經濟學史	堀經夫	・二五〇	〇	弘文堂書房
經營學年報(第一册)	馬場敬治	・二〇〇	〇	日本評論社
國債統計年報(昭和八年)	大藏省	・二〇〇	〇	同
財務諸表準則解説	太田哲三	・二〇〇	〇	高陽書院
金本位制は復活するか?	伊藤隆文	・二〇〇	〇	今日の問題社
軍備と國民經濟	國際政治經濟學會	・一七〇	〇	福田書房
統制經濟研究資料(一)	設樂熊藏	非	〇	經濟問題研究所
小農經營學	山田武彦	・二〇〇	〇	西ヶ原刊行會
日本農業統制と産業組合	高橋龜吉	・一五〇	〇	高陽書院
昭和十年度版滿洲企業總覽	山田耕平	・一〇〇	〇	滿蒙經濟調查會
精神分析學を應用したる宣傳廣告術	前波伸子	・二〇〇	〇	學藝社
金・貨幣・紙幣	住吉忠義	・二〇〇	〇	同
日本信託業論	笠信太郎	・二〇〇	〇	同
白井規矩	白井規矩	・二〇〇	〇	同



書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
經濟學史講義(下)	關未代策	一・二〇	二四〇	明治大學出版部	資本金五十圓 インテリ 向き新利殖法	長谷川幹男	・五〇	一〇七	文啓社書房
財務管理の仕方	濱谷源藏	一・六〇	三六〇	同文館	世界市場戰	世界景氣 研究會	二・五〇	〇六四	叢文閣
米穀政策(第一案)	中村茂	非	△八五	國家經濟研究所	最近經濟の重要問題	俱樂部經濟 研究會	三・三〇	〇五五	一元社
日本經濟史(二)	竹越與三郎	〇・八〇	〇三三	平凡社	財政史を主としたる 島津氏七百年の治績	平川清高	非	〇三三	鹿兒島市會社
非常時日本の 國防經濟	森武夫	〇・八〇	〇二九	軍人會館	獨逸社會經濟史	加田哲二	一・八〇	〇四七	章華社
ウアルガ世界 經濟年報(26)	經濟批判會	〇・八〇	〇一五	叢文閣	日本經濟年報(十八)	神原周平	一・〇〇	〇三五	新報社
東洋經濟學史	田島錦治	二・八〇	〇二二	有斐閣	若し大臣だつたら 研究經濟學	時事新報 編輯部	一・〇〇	〇二二	國際經濟研究所
統制下の正米 取引と産米改良	澤田德藏	〇・五〇	〇二四	大阪堂米會	交通經濟學序說	早瀬利雄	一・八〇	〇一四	尙文堂
實用 所得稅・營業稅 益稅・相續稅 計算法	船田勇	一・八〇	〇三九	東洋出版社	利廻換算法	芳野國雄	一・五〇	〇五五	千倉書房
工業組合經營講義	廣瀬保	一・五〇	〇三一	工業組合會社	明治財政の 基礎的研究	澤田章	四・〇〇	〇四六	寶文館
肥料統制案要綱	中村茂	非	△七	國家經濟研究所	ウアルガ世界 經濟年報(25)	經濟批判會	〇・八〇	〇一八	叢文閣
リカード 經濟學研究	武田鼎一	四・三〇	〇六八	敬文堂書店	世界經濟地理	水田淳亮	二・二〇	〇二六	大同印刷部
株式必勝秘線講 株式相場早わかり	阿部作	五・〇〇	〇三一	大阪經濟社會株式調查會	米國の國際 經濟政策	浦太松	非	〇七	太平洋問題會

廣告要論	栗屋義純	二・〇〇 <th>〇三四 <th>同文館</th> <th>米國の國際 經濟政策</th> <th>浦太松</th> <th>非 <th>〇七 <th>太平洋問題會</th> </th></th></th>	〇三四 <th>同文館</th> <th>米國の國際 經濟政策</th> <th>浦太松</th> <th>非 <th>〇七 <th>太平洋問題會</th> </th></th>	同文館	米國の國際 經濟政策	浦太松	非 <th>〇七 <th>太平洋問題會</th> </th>	〇七 <th>太平洋問題會</th>	太平洋問題會
公債と勸業債券	大倉金之助	一・三〇	〇二〇	高陽書院	日本金融網の話	長谷川郎	一・五〇	〇三九	千倉書房
日本經濟の不安性	竹内謙二	一・五〇	〇三九	千倉書房	商品配給論	小林行昌	三・三〇	〇四六	巖松堂書店
最近の動向	同	〇・五〇	〇二	東京商工會議所	新商店經營相談	渡邊玄	一・五〇	〇四〇	千倉書房
最近世界貿易概觀	德田六郎	一・三〇	〇一五	森山書店	シュベングラ の經濟觀	入澤民政	〇・八〇	〇一五	入澤民政
寺院經濟史研究	森克己	一・八〇	〇三三	教書院	獨裁制下の ドイツ經濟	美濃部亮吉	一・八〇	〇四四	福田書房
マルクス主義 經濟學教程(一)	橋本弘毅	一・三〇	〇四三	白揚社	新資本主義	株式會社 調查部	二・八〇	〇三〇	東洋經濟部
同資本・勞賃・利潤	同	一・三〇	〇四二	同	産業統制研究	室谷賢治郎	一・八〇	〇三三	同文館
世界經濟の常識	小島精一	一・〇〇	〇二五	千倉書房	支那各省經濟事情(上)	赤松祐之	一・〇〇	〇三三	日本國際協會
産業組合經濟學	油谷治郎七	一・〇〇	〇一七	高陽書院	銀行論	丹後愛二郎	二・八〇	〇三六	中央書房
福澤先生 記念論文集	理財學會	非	〇三八	理財學會	財政學概說(上)	永田清	一・八〇	〇二四	巖松堂書店
科學的營業豫算統 理法應用 制の實際	宇原義豊	二・五〇	〇三六	大阪寶文館	爲替戰爭の 理解の爲めに	串本友三郎	〇・六〇	〇一七	立命館出版部
米生産費の研究	楠田民藏	非	〇一七	楠田民藏	經濟理論の革命時代	高橋龜吉	一・五〇	〇三三	千倉書房
日本經濟史(三)	竹越與三郎	非	〇三九	凡社	激動期農村經濟講話	中澤辨次郎	一・五〇	〇三四	學藝社



書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
物價指數の理論と實際	森田優三	二・八〇	〇五六	東洋出版社	朝鮮經濟事情に就いて	穂積眞太郎	二・〇〇	〇一九	東京商工所
米蘭統制の清算	原祐三	〇・四〇	〇一三	ダイヤモンド社	經濟原論	山崎覺次郎	二・〇〇	〇二五	東京商工所
工業組合簿記講義	岡本正道	一・五〇	〇三二	工業組合	資本主義的經濟制度下に於ける國民生活	三宮維信	非	〇三〇	日滿經濟調查局
資金網物語	井東憲一	〇・三〇	〇五八	白揚社	公債の賣方買方	白金光助	〇・八〇	〇一七	言海書房
經濟學史綱要	大野信三	四・〇〇	〇五九	敬文堂書店	最近の中南米經濟事情に就いて	首藤安人	二・〇〇	〇二四	東京商工所
蠶絲統制論	井上鎧三	一・五〇	〇二九	改造社	不動産の經濟的並に投資的研究	武貞忠男	一・五〇	〇一五	武貞忠男
昭和九年度地方財政概要	内務省地方局	非	〇一五	全國都市問題會議事務局	日本經濟史(四)	竹越與三郎	〇・五〇	〇三五	平
關門地方經濟調査(第八輯)	上田強	非	〇二〇	下關商業學校	赤字財政下のインフレーション研究	飯田清三	二・三〇	〇四〇	千倉書房
經濟機構と用語の解説	三輪美嘉久	非	〇二六	中外商業新報社	日本資本主義發達史	平館利雄	〇・九〇	〇二五	叢文閣
生命保險と其の經營	末高信三	三・三〇	〇七三	巖松堂書店	銀行讀本	橋爪明男	一・八〇	〇六八	日本評論社
勞働銀行研究	長沼弘毅	二・八〇	〇六二	自治刊行社	アメリカ經濟及經濟政策	慶應義塾各國經濟研究會	二・七〇	〇四三	改造社
第三帝國の新經濟政策	塚本義隆	〇・五〇	〇八六	新聞聯合社	日本經濟研究(一)	日本經濟研究會	一・五〇	〇三三	千倉書房
銀行讀本	高山藤次郎	一・三〇	〇二二	日本評論社	中間景氣の發動時代	勝田貞次	一・五〇	〇三〇	千倉書房

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
原價計算と價格政策の原理	エシユマハ	二・八〇	〇四四	東洋出版社	財政學概説(上卷)	永田清	一・八〇	〇四一	巖松堂
統治權の知識	松尾小三郎	非	〇五〇	帝國經濟聯盟	經濟學原論	渡邊一郎	二・三〇	〇二〇	マンザイ社
支那近代農民經濟史研究	佐藤貞次郎	一・七〇	〇三七	東亞經濟調查局	經濟生活の本質及現象形態	丸谷喜市	二・五〇	〇三三	實文館
改版經濟學新論	武田鼎一	一・七〇	〇二三	敬文堂書店	經濟學史	小川郷太郎	四・五〇	〇六三	有斐閣
第一回南洋産業研究團報告書	松原一彦	非	〇一四	日本青年館	資本論註解(四)	直井武夫	三・〇〇	〇五〇	ナウカ社
昭和金泉錄(普及版)	佐藤利一	一・〇〇	〇二〇	東邦經濟社	新聞經濟記事の基礎知識	淡徳三郎	二・三〇	〇四一	改造社
勸業債券利殖の仕方	大門富之助	一・三〇	〇二五	言海書房	支那經濟史研究	阿部賢一	二・五〇	〇八九	栗田書店
原價計算と價格政策の原理	シユマハ	二・八〇	〇四四	東洋出版社	日本の經濟	ウイットフ	一・〇〇	〇二五	叢文閣
加藩貨幣錄	中田邦造	〇・二六	〇二六	石川縣圖書館	日本獨占資本の解剖	エル・ゲル	一・〇〇	〇一三	同
近世社會經濟本多利	横川四郎	一・八〇	〇四四	誠文堂	實用經濟講座	鈴木茂三郎	一・八〇	〇五九	學藝社
經濟學大系	長谷川	一・〇〇	〇四三	言海書房	租稅・公債・通貨新論	松村金助	一・三〇	〇四八	非
商況經濟記事の見方	光太郎	〇・二〇	〇五	中外商業新報社	株式投資入門	高島佐一郎	一・〇〇	〇三三	千倉書房
金ブロック崩壊は日本へどう響く?	三輪美嘉久	〇・二〇	〇五	内外出版印刷株式會社	株式投資入門	井尻固	一・八〇	〇四〇	學藝社
海上保險研究(第一卷)	勝呂弘	五・〇〇	〇五九	株式會社	株式投資入門	牧野輝智	四・五〇	〇六六	日本評論社
經濟學方法論の基礎	ア・ルガ	一・三〇	〇三三	白揚社	人生と相場道	緒方勝次	一・五〇	〇三〇	三洋堂書店



書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
國際經濟時報	國際政治經濟研究會	一・〇〇	三〇七	福田書房	國債利子二ヶ年支拂停止	平野 學	・二五〇	〇・五	社會大衆黨出版部
日本經濟史	竹越與三郎	〇・四六	四六	凡社	東亞貿易大觀	大道弘雄	三・〇〇	△三六	朝日新聞社
現代金融國際金融論	井川忠雄	・八〇	〇・二六	改造社	經濟學	藤林敬三	三・〇〇	〇・四〇	東洋出版社
同 公社債株式論	栗栖越夫	・八〇	〇・二六	同	同 證券市場論	福田敬太郎	二・〇〇	〇・四〇	同
現代朝鮮經濟論	高橋龜吉	二・〇〇	〇・五五	千倉書房	同 會計學全集	竹中龍雄	二・〇〇	〇・四六	同
現代貨幣問題	荒木光太郎	三・〇〇	〇・五七	改造社	同 公益企業會計	森 莊三郎	六・〇〇	〇・七四	同
經濟原論(上)	田邊忠男	三・〇〇	〇・四三	明善社	河津教授還曆祝賀紀念・經濟學の諸問題	本庄榮治郎	二・〇〇	〇・三六	同
明治財政經濟	大内兵衛	〇・四六	〇・四六	改造社	經濟史概論	大道弘雄	一・五〇	〇・三六	朝日新聞社
前期史料集成	土屋喬雄	〇・四六	〇・四六	同	昭和十年版 朝日經濟年史	犬丸秀雄	一・四〇	〇・二九	同
各國通商の動向と日本	通商省 外務局	一・〇〇	〇・一九	日本國際協會	訂 改 チャップマン ヴァルガ 世界經濟年報	經濟批判會	・八〇	〇・一六	同
經營經濟學概論	室谷賢治郎	一・八〇	〇・二六	同	近世經濟史概論	野村兼太郎	三・五〇	〇・七九	同
理論經濟學講義	松浦 要	二・三〇	〇・三三	同	火災保險料率論	瀧谷善一	四・八〇	〇・七三	同
日滿經濟 統制と農業移民	河田嗣郎	一・二〇	〇・一五	振興會	東北地方の人口に關する調査	館 稔	・四〇	〇・八七	同
支那の經濟 恐慌に關する調査	天野健雄	・三〇	〇・〇四	東京商工會議所					
增補 經營學	桑本正幸	五・五〇	〇・九六	同					

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
晚近倉庫問題一班研究	前馬治一	二・三〇	〇・二九	創生社	支那貨幣論	有本邦造	二・五〇	〇・四七	森山書店
經濟學	宇野弘藏	一・三〇	〇・二〇	岩波書店	經濟學原論	阿部矢二	二・〇〇	〇・三九	凡進社出版部
近世社會經濟海保青	横川四郎	一・八〇	〇・四四	誠文堂	己れを作る法	上野陽一	一・五〇	〇・三三	千倉書房
證券制度資料	板橋菊松	非	〇・二五	證券調查會	世界政治經濟情報	直井武夫	一・〇〇	〇・三六	ナウカ社
日本の人口問題	近藤常次	一・二〇	〇・二七	南郷社	世界經濟事情	田井要助	一・三〇	〇・二五	有斐閣
綜統醫學論提唱	多田政一	三・〇〇	〇・三八	日本綜統醫學研究所	自由經濟か統制經濟か	牧野精一	・五〇	〇・三二	大希莊
利殖と貯蓄の秘訣	高森昇一郎	一・五〇	〇・四四	龜谷書店	銀の悲喜劇	塚本義隆	・三〇	〇・二二	新開聯合社
金本位ブロック概観	關口一郎	非	〇・五	新日本同盟	銀の悲喜劇	三輪美嘉久	・三〇	〇・二七	中外商業新報社
日本經濟史	竹越與三郎	〇・四六	〇・四六	凡社	經營學論	小島昌太郎	一・五〇	〇・二二	有斐閣
綜合保險學	小島昌太郎	四・〇〇	〇・五〇	日本評論社	大阪商科大阪經濟學研究叢書	菅野和太郎	二・〇〇	〇・二六	甲文堂書店
日本經濟四季年報	經濟年報社	一・三〇	〇・四七	叢文閣	金銀爲本經濟の世界的行情りと皇道經濟	栗原白嶺	非	〇・四	青雲莊
專賣及官公業論	沙見三郎	一・五〇	〇・三九	日本評論社	チート經濟思想史	古屋美貞	・三〇	〇・五九	寶文館
現代金融起債市場論	飯田清三	・八〇	〇・三八	改造社	外國爲替新讀本	山崎靖純	一・五〇	〇・三六	立命館出版部
同 不動産金融要論	杉本正幸	・八〇	〇・三六	同	現代經濟學者物語	平尾彌五郎	一・五〇	〇・三〇	一元社
實用經濟講座(七)	井上篤太郎	一・三〇	〇・四〇	凡閣					



書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
經濟學說の史的的研究	渡邊一郎	二・八〇	〇	三省堂	ウアルガ	經濟批判會	七〇	〇	文閣
經濟史研究	本位田祥男	三・五〇	〇	同	最近の外國爲替市場	鈴木益二	二・五〇	〇	一元社
獨逸金融組織論	島本融	五・〇〇	〇	同	解説經濟學	服部文四郎	一・九〇	〇	同
日本資本主義發達史	野口榮太郎	一・〇〇	〇	同	國際經濟と金融	同	三・九〇	〇	同
滿の現金支出論	永井淳雄	一・〇〇	〇	同	都市農村相關經濟論	中澤辨次郎	一・三〇	〇	同
歐洲ブロックの危機	大阪商工會議所	〇	〇	同	海上保險體系	瀨戸彌三次	三・〇〇	〇	同
アメリカ新經濟政策と金融統制	天野健雄	一・五〇	〇	同	勞働協約理論史	後藤清	三・三〇	〇	同
新經濟記事の基礎知識	石山皆男	一・八〇	〇	同	實用經濟講座	池田壽太郎	一・三〇	〇	同
生絲經濟研究(第七輯)	生糸經濟研究会	六〇	〇	同	アメリカ金融制度改革論	DAヴァン	一・八〇	〇	同
最近經濟問題と景氣觀測	本村孫八郎	一・四〇	〇	同	各國複關稅制度ニ關スル調査	同	三・三〇	〇	同
ダイヤ經濟統計年鑑	石山皆男	一・五〇	〇	同	支那に於ける棉花獎勵誌	同	五〇	〇	同
モンド昭和十年版	阿部矢二	一・三〇	〇	同	米穀自大正元年度至昭和九年度	左橋本	一・五〇	〇	同
時局經濟叢書	高田保馬	三・〇〇	〇	同	不動產金融の仕方	並木信政	二・〇〇	〇	同
米を中心としたる農村問題と其對策	土方成美	一・八〇	〇	同	最近露西亞の事情	左川衛門	二・〇〇	〇	同

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
人口問題資料(一九三一年ローマ)	館 稔	一・六〇	〇	人口問題研究会	外國資本と米價の變遷續篇	石原保秀	一・〇〇	〇	同
現代金融保險會社經濟全集 金融論	石坂泰三	六〇	〇	改造社	資本主義經濟と日本の經濟	島田牛稚	〇	〇	同
役に立つ現代的經濟知識	野田 豊	一・三〇	〇	大倉廣文堂	近世社會經濟學說大系 淵集六	横川四郎	一・八〇	〇	同
日本經濟史(七)	竹越與三郎	二・〇〇	〇	同	アメリカに於ける資本主義の發達	ボクワフ	一・五〇	〇	同
經濟學研究の葉	澤井久五郎	二・〇〇	〇	同	朝鮮米穀經濟論	廣島定吉	一・〇〇	〇	同
景氣と貨幣	エフ、ア	一・八〇	〇	同	銀行叢書第二十二編	東畑精一	一・二〇	〇	同
經濟報道	野口弘毅	一・〇〇	〇	同	銀行叢書第二十三編	外一名	一・〇〇	〇	同
訂保險學(上)	宮崎力藏	一・〇〇	〇	同	米價の長期變動	高田保馬	八〇	〇	同
日本國トルコ國間貿易暫定協定	三浦義道	二・〇〇	〇	同	理論經濟學(上)	柴田 敬	四・〇〇	〇	同
和蘭國ルーマニア國間クリアリマニグ協定	同	三〇	〇	同	ロシヤに於ける計畫經濟實驗の結果	伊藤輔利	五〇	〇	同
和蘭國ルーマニア國間貿易協定	同	三〇	〇	同	ナチスの經濟政策	平山敬三	一・五〇	〇	同
フランの運命	塚本義隆	五〇	〇	同	沖繩糖業論	藤井國武	一・〇〇	〇	同
昭財政新講談	山田吉郎	一・五〇	〇	同					
和の技術的基礎	堀江邑一	一・三〇	〇	同					



書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
最近我國における一般労働經濟事情 (其ノ一)	楠原祖一郎	非	〇一五	社會思想對策調查會 京都	通貨と銀の知識	田畑爲彦	〇八〇	〇二三	言海書房 小石
人口問題資料(八) マルサスに關する文獻集	吉田秀夫	〇六〇	〇七〇	人口問題研究會 齋藤 京都	日本經濟史(九)	竹越與三郎	〇三三	〇三三	言海書房 小石
經濟眼に事件の真相を窺ふ 帝人 軍事稅及全集(五) 戰時經濟	大内兵衛	二〇〇	〇五三	改造社 澁橋	經濟學の基礎知識	高橋龜吉	一〇五〇	〇三三	千倉書房 京都
內國爲替の理論と實務	神戶秀雄	三〇〇	〇四〇	同文館 神田	經濟評論十年度	西村豊吉	二〇〇	〇三三	叢文閣 齋藤 京都
女性經濟知識	松村金助	一〇〇	〇三三	森山書店 同	米穀需要法則の研究	杉本榮一	〇七〇	〇三三	日本學術振興會 同
現代金融經濟 我國の債	大竹虎雄	〇八〇	〇三三	改造社 芝	現代金融經濟信託全集(二) 金融論	吳文炳	〇八〇	〇三三	改造社 芝
實用經濟講座(一〇) 景氣の見方と經濟記事の讀方	岡本 巖	一八〇	〇三三	森山書店 神田	滿洲經濟と日本帝國主義	許興凱	一五〇	〇四四	白揚社 神田
地方稅通義	谷口壽太郎	二〇〇	〇五〇	東洋出版社 京橋	經濟學のABC上	大内英次	〇八〇	〇一七	ナニハ書房 大阪
利廻戰術	前田梅松	一五〇	〇三三	千倉書房 同	産業經濟資料(三三) 米國統制經濟の全貌	秋山斧助	非	〇一九	全國産業團體聯合會事務局 齋藤 京都
日本の技術的基礎	チンボポフ	一〇〇	〇三三	文閣 齋藤 京都	昭和帝國豫算提要	大藏省 主計局	〇四〇	〇二〇	內閣印刷局 同
實用經濟講座(九) 實用經濟的基礎	光太郎	一三〇	〇三三	凡閣 齋藤 京都	現代金融經濟全集 預金部論(二二)	小川郷太郎	〇八〇	〇三三	改造社 芝

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
近世社會經濟學大系 素行集	内田繁隆	一八〇	〇四七	誠文堂新光社 神田	アフリカの親日國エチオピア經濟事情	庄子勇之助	〇三〇	〇八三	言海書房 小石
我國外國貿易の情勢と其前途	天野健雄	〇二〇	〇三三	東京商工會議所 齋藤 京都	日本經濟季(第二輯)	經濟年報社	一三〇	〇四九	叢文閣 齋藤 京都
米國の銀行 制度改革問題	關口一郎	非	〇五九	新日本同盟會 同	訂改經濟政策綱要	河津 暹	一八〇	〇三三	明善社 本郷
電話金融要義	高木西吉	一五〇	〇二八	新法規研究會 杉並	訂改經濟原論	同	三〇〇	〇四三	同
日本經濟昭和十年第二濟年報 四半期(三)	神原周平	一〇〇	〇三三	東洋經濟社 日本橋	ミル功利説	富田義介	一七〇	〇二五	培風館 神田
近世社會經濟學大系 尊德集	八木澤善次	一八〇	〇四四	誠文堂新光社 神田	關稅研究叢報(二九) 日本意識の發揚と産業統制の是非論	新田直藏	〇三〇	〇三三	關稅研究所 兵庫
現代金融經濟明治全集(三三) 銀行史	明石照男	〇八〇	〇二七	改造社 芝	昭和十年日本經濟年誌	平山敬三	二五〇	〇四一	全國經濟調查機關聯合會 齋藤 京都
前期財政經濟史料集成(一〇)	大内兵衛	〇三九	〇三三	同	一〇、九提是	岡本清一	〇三〇	〇三三	經濟學普及部 齋藤 京都
金融論(經濟學全)	室谷賢治郎	二〇〇	〇三七	東洋出版社 京橋	經濟哲學の基本問題	杉村廣藏	二二〇	〇三七	岩波書店 神田
支那經濟發展の基礎と段階	平山敬三	〇三三	〇三七	東亞經濟調查局 齋藤 京都	日支經濟提携の動因と其將來	山上 昶	非	〇五五	東洋協會 齋藤 京都
昭和九年日本外國貿易易年表(中篇)	大藏省	三六〇	〇六五	內閣印刷局 同	統計學全 國富及集(一二) 國民所得	中川友長	二八〇	〇四三	東洋出版社 芝
英國に労働災厄賠償於ける 制度の研究	水島密之亮	五〇〇	〇六〇	四方仲藏 京都	經濟原論講義(上)	南亮三郎	二八〇	〇四三	文榮堂印刷所 道北
支那の經濟恐慌に關する調査(第二卷)	天野健雄	〇八三	〇三三	東京商工會議所 齋藤 京都	現代金融經濟全集 我國の國債各論(七)	大竹虎雄	〇八〇	〇二四	改造社 芝



書名	著譯者	定價	頁數	發行所
貨幣價値の研究	正井敬次	三〇〇	三三〇	日本評論社
日滿支經濟論	猪谷善一	二〇〇	二五八	言海書房
日本法制經濟史	瀧本誠一	二〇〇	四四〇	福田書房
現代金融經濟全集	野崎龍七	八〇〇	四〇〇	改造社
普通銀行貯蓄銀行論	竹越與三郎	一〇〇	二〇〇	凡社
日本經濟史(一〇)	白石幸三郎	一〇〇	二〇〇	經濟知識社
經濟新話(上)	高橋直服	四〇〇	五五〇	交通經濟社
産業人事の組織と實際	淡川康一	二〇〇	一五〇	古今書院
コール交通及び乘落と地形	神戶正雄	四〇〇	五五〇	日本評論社
改訂財政學	佐藤七郎	三〇〇	五五〇	雅堂
增補投資學	加藤調一	非	一三〇	加藤調一
增稅案の檢討	堀江邑一	一〇〇	一〇〇	ナウカ社
世界政治經濟情報	青木敏	一〇〇	一〇〇	東京レック社
資本主義のからくり	高橋龜吉	一五〇	一五〇	千倉書房
新段階の日本經濟				
貨幣の經濟學	宮田保郎	一〇〇	四〇〇	白揚社
東北地方に於ける社會並に經濟上の特異性	大島辰次郎	一〇〇	二〇〇	協調會
轉換期の統制經濟	時事新報編輯部	一〇〇	三三〇	森山書店
經濟立地學	江澤讓爾	二〇〇	二〇〇	河出書房
列強軍需資源論	資源整備調査局	二〇〇	二〇〇	巖松堂書店
最近の爲替と國際金融	大島堅造	三〇〇	四七〇	巖松堂書店
エチオピア問題と日本の經濟關係	石山皆男	三〇〇	三〇〇	一元社
北支那の天然資源	五十子宇平	八〇〇	一六〇	モンド社
北支那の外國貿易と列國の商勢	細見健三	八〇〇	一六〇	同
景氣論序説	伊藤博文	一〇〇	一〇〇	高陽書院
秘書財政資料(上)	伊藤博文	非	一〇〇	同
類纂財政資料(上)	伊藤博文	非	一〇〇	同
東亞經濟パンフレット	鈴木靖之	一〇〇	一〇〇	東亞經濟社
日本經濟史(一一)	竹越與三郎	一〇〇	一〇〇	同

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
資本論讀本	辰巳經世	一〇〇	一九〇	清和書房
保險學	三浦義道	三〇〇	四三〇	巖松堂書店
國際金融市場論(一)	ドニム・マテ	三〇〇	二四〇	東京會所
人口問題資料(十一)	東京會所	四〇〇	二七〇	人口問題會
支那經濟讀本	杜魯人	五〇〇	一六〇	ナウカ社
貿易上より觀たる滿洲國國際收支の將來	篠崎嘉郎	非	二〇〇	日滿實業協會
大野純一	大野純一	一〇〇	二二〇	杉山書店
經濟參謀本部案	中村茂	非	二二〇	國家經濟研究所
關稅研究彙報(三〇)	新田直藏	三〇〇	三〇〇	關稅研究所
日本意議の發揚と産業統制の是非論	日本郵船株式會社	六〇〇	二二七	日本海運集會
昭和九年海運及下期經濟調査	大内兵衛	四〇〇	四〇〇	改造社
前期財政經濟史	土屋喬雄	四〇〇	四〇〇	東洋出版社
批判的勘定學說史	岡田誠一	一〇〇	一〇八	東洋出版社
イギリス經濟政策	慶應義塾	三〇〇	四四五	芝
國家財政概論	井藤半彌	一〇〇	二五〇	巖松堂書店
東亞經濟講座(一)世界の銀と支那の通貨	井村蕪雄	一〇〇	一七〇	東亞經濟學會
現代金融經濟學	青木得三	一〇〇	二二〇	改造社
歐阿の職は日本の景氣に何う響くか	宮田喜代藏	二〇〇	三三〇	森田書房
大坂市に於ける中小工業金融調査	楠見一正	三〇〇	三三〇	大阪商科大學
經濟統計學要論	田井要助	一〇〇	一六〇	有斐閣
日本と濠洲	美松太郎	非	一〇〇	太平洋問題會
租稅原則學說の經濟學	井藤半彌	四〇〇	六五〇	調査會
ザリン國民經濟學	高島善哉	一〇〇	二二〇	巖松堂書店
列國資源要(第二)	松浦要	一〇〇	一六〇	巖松堂書店
國民精神文化研究二	資源局	三〇〇	三〇〇	內閣印刷局
於ける創造者として	作田莊一	三〇〇	三〇〇	協會出版部
高橋財政の國家社會的觀察	關口一郎	非	一〇〇	協會出版部
保險經濟學(一)	近藤文二	一〇〇	二二〇	新日本同盟



書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
經濟學說史(第一分册)	リシト 山村喬	一・五〇	二七四	山村喬	〔十一月〕				
各種産業の現狀と前途の展望	荒木秀一	〇・四〇	〇二五	大阪銀行集會所編輯部	日本貿易鳥瞰圖	宮田保郎	一・五〇	〇三六	白揚社
支那各省經濟事情(中卷)	赤松祐之	二・〇〇	〇四三	日本國際協會	世界米穀統計	農林省米穀局	二・〇〇	〇三三	日本米穀協會事務所
現代金融經濟全集(中卷)	金子賢之助	〇・八〇	〇二七	改造社	物質の結晶	吉田卯三郎	三・〇〇	〇三三	三省堂
印度産業貿易情勢	副島八十六	四・〇〇	〇五二	日印協會	昭和農山漁村經濟十年狀況視察報告	政務調査會	非	〇一三	岩波書店
投資の鐵則	勝田貞次	一・五〇	〇三〇	千倉書房	經濟學研究(四)	中山伊知郎	一・〇〇	〇三八	同
産業金融論	スエト 助譯外一名	三・三〇	〇三六	同文館	經濟學(三)	東北帝國大學經濟學會	一・三〇	〇三五	同
貿易及び海外事情	望月敬之	非	〇二五	商業調查部	獨逸財産視論	國政研究會	一・三〇	〇一五	巖松堂書店
經濟問題叢書(一)	勝田貞次	〇・五〇	〇二六	商業調查部	滿洲國通貨の現勢	山上昶	非	〇二四	東洋協會
支那外債史論	田村幸策	五・〇〇	〇六四	外交時報社	國政一新論叢九	上村弘勇	非	〇三〇	言海書房
經濟學理論(一)	檜崎敏雄	一・三〇	〇一八	中央書房	豫算と地方財政研究	竹田安次	〇・二〇	〇三三	世界公論社
英國信託業務論	中根不羈雄	三・五〇	〇四三	大同書院	赤字公債の消化力と豫算時豫算の檢討	竹越與三郎	〇・三〇	〇四三	同
經營經濟學論考	池内信行	一・〇〇	〇三三	東洋出版社	日本經濟史(一二)	竹田安次	〇・二〇	〇三三	同
財界の前途に人々	登尾源一	三・五〇	〇五八	新興實業社	北鐵代價物表	上田半治郎	非	〇二六	同

七六八

萬葉集考

久松潜一著	室町時代短篇集	三・〇〇	〇二二	同	外村史郎編	日本勞働年鑑	三・〇〇	〇三三	同
笹野堅編	ロシア語辭典	六・八〇	〇三三	同	大原社會問題研究所編	日本勞働年鑑	三・〇〇	〇三三	同
田中貢著	商業政策	二・五〇	〇二二	同	田中貢著	日本工業政策	三・〇〇	〇三三	同
田中貢著	日本工業政策	三・〇〇	〇三三	同	木村孫八郎著	經濟面の讀み方(産業篇)	一・八〇	〇二二	同
野田兵一著	經濟面の讀み方(金融篇)	一・五〇	〇二二	同	野田兵一著	經濟面の讀み方(金融篇)	一・五〇	〇二二	同
阿部賢一編	經濟記事の基礎知識	二・五〇	〇三三	同	阿部賢一編	經濟記事の基礎知識	二・五〇	〇三三	同
東京書籍發行	圖書總目錄	六・〇〇	〇三三	同	東京書籍發行	圖書總目錄	六・〇〇	〇三三	同

七六九

録目進 店書田栗 區田神市京東 目丁一町保神

振替東京 電話神田 一〇三二 四三二

三三三 七四六 九九七 九九八











出版界に異彩を放つ第一書房が  
昭和十年に刊行せる代表的名著

詳細記載せる「圖書目録」(四六判百五十頁美本)を、郵券十錢封入御申越の方にお送りいたします。



第一書房

東京市麴町區三番町

振替口座東京六四二二三  
電話九段(33)三三四四

文學博士 得能 文著 菊判定價二圓五十錢 永遠に哲學する旅人の「思索旅日記」である。

隨筆 沈黙の疑問 敬虔なる博士の古今獨歩の名隨筆集。

文學博士 佐野勝也著 菊判定價二圓五十錢 斯界の稀にみる大研究、著者の博士論文。

鳥井 博 郎譯 菊判定價一圓五十錢 キエルケゴール復興を意義あらしめる著。

岡田 正 三著 菊判定價一圓五十錢 現代人のために孟子を現代に生かした名講義。

岡田 正 三著 菊判定價一圓二十錢 絕對純正な漢文學習法の確立。

稲葉昌丸 安藤州一編 定價一圓八十錢 明治の親鸞、先生の定本文集である。

山田 靈 林著 菊判定價一圓五十錢 一月から十二月まで平易に禪を説く好著。

江原小彌太著 菊判定價一圓五十錢 多感多難路を行く青春の日の良寛。

和田日出吉著 菊判定價一圓五十錢 帝人事件の真相を描く問題の小説。

新居 格譯 菊判定價一圓五十錢 支那農民の生活を描く、パウルバックの傑作。

松岡 讓著 菊判定價一圓五十錢 現實と宗教の交流を語る明朗な隨筆。

堀口 大學著 菊判定價一圓五十錢 詩人である著者の初めての異色ある隨筆集。

上田 敏 遺著 菊判定價一圓五十錢 詩境の金字塔。永遠に輝く名詩集。

丸山 林 平著 菊判定價一圓八十錢 新鮮な文章を書きたい人は本書を讀め。

丸山 林 平著 菊判定價一圓八十錢 現代語法を解説する著者の第二作。

中河 與一著 菊判定價一圓二十錢 偶然論の全貌を説ける熾烈なる新精神。

小松 清編 菊判定價一圓 國際作家會議の全報告書ヒューマンイズムの宣言

花野 富 藏譯 菊判定價一圓五十錢 第二の小泉八雲といはれる著者の日本觀。

花野 富 藏譯 菊判定價一圓五十錢 徳島にあつてのモラエス島の盆踊

田部 重 治著 菊判定價一圓 山旅の父、著者の最近の紀行と隨筆集。

戸川 秋 骨著 菊判定價一圓五十錢 當代隨一の名隨筆。人生のプロムナード。

小泉 一 雄譯 菊判定價一圓五十錢 初めて發見された小泉八雲の愛の書翰。

萩原朔太郎著 菊判定價一圓五十錢 鋭き直観と強き意志の文學精神

理學博士 大島正滿著 菊判定價一圓五十錢 臺灣蕃地深く突進む學術探險寫真紀行。

穴戸 左 行著 菊判定價一圓五十錢 少年少女のための特殊出版。空前の美本。

大田 黒元 雄著 菊判定價一圓五十錢 音楽批評家としての名聲ある著者の隨筆。

大田 黒元 雄著 菊判定價二圓 歌劇のことは何んでも解る名著



# 本間久雄著 文藝學概論

## 第卅一二版發賣

夏書は「時」の試練を経て愈々其眞價を發揮し来る！  
著者廣く東西の文學論を涉獵し且つ歐洲近代美學の傾向を參照して、飽迄も穩健なる學究的態度にて文學の百般を講じ、例證を特に古今の日本文學に求め、文學原理の考察と共に、文藝鑑賞の實際に資す。編を分つ四、章を分つ十六。文學本質論より文學各論、文學批評論に至る迄、理路整然、資料豊富、文章亦明快、既に空前の好著として噴々の名聲を馳せたるもの。敢て大方讀書子の座右に薦む。

### 本間久雄著書目録

英國 唯美主義の研究 (限定版)	定價金 七、五〇
近世 滯歐印象記 (三版)	定價金 二、二〇
生活の藝術化 (四版)	定價金 一、八〇
吾等如何に生くべきか (三版)	定價金 一、八〇
婦人問題十講 (改訂版)	定價金 二、五〇
文學論 攷 (再版)	定價金 三、五〇

東京堂 (本店) 東京堂 (部賣小)  
東京堂 (部賣小) 東京堂 (本店)  
東京堂 (部賣小) 東京堂 (本店)

！業事大の史歴く輝に遠承てしと燦

第一卷 動物學 (一)	第一七卷 歷史 (一)
第二卷 動物學 (二)	第一八卷 歷史 (二)
第三卷 動物學 (三)	第一九卷 歷史 (三)
第四卷 植物學 (一)	第二〇卷 美術史 (一)
第五卷 植物學 (二)	第二一卷 美術史 (二)
第六卷 植物學 (三)	第二二卷 美術史 (三)
第七卷 生理衛生 (一)	第二三卷 文藝學 (一)
第八卷 生理衛生 (二)	第二四卷 文藝學 (二)
第九卷 生理衛生 (三)	第二五卷 文藝學 (三)
第一〇卷 理化學 (一)	第二六卷 地質學 (一)
第一一卷 理化學 (二)	第二七卷 地質學 (二)
第一二卷 理化學 (三)	第二八卷 地質學 (三)
第一三卷 地理學 (一)	第二九卷 地質學 (四)
第一四卷 地理學 (二)	第三〇卷 地質學 (五)
第一五卷 地理學 (三)	第三一卷 地質學 (六)

子供のためには…無盡蔵の智慧の寶庫・趣味溢る、自學自習書  
親のためには…子供の質問に應ずる鍵・最新文化の驚くべき展開  
先生のためには…各科教授資料大集成・豊富周到なる大教授書  
家庭のためには…無上の美麗なる裝飾・家族團樂の悦びの泉

日本に はじめ ての  
**兒童百科大辭典**  
全十三卷

顧問 文學博士 小西重直先生・編輯 玉川學園長 小原國芳

完結 小西博士全集 全五卷

第一卷 現代教育の實況 (内外古今の教育の方向を指示する)  
第二卷 學校教育 (日本に科學教育を名實共に確立したものの、日本教育文獻上の古典)  
第三卷 勞作教育 (勞作教育の意義とその實踐を論じた)  
第四卷 勞作教育 (勞作教育の意義とその實踐を論じた)  
第五卷 勞作教育 (勞作教育の意義とその實踐を論じた)

玉川學園出版部  
振替東京一五四二二番







生物學研究及採集品整理の必備の書

<p><b>植物名彙</b></p> <p>植物學上に於ては和名漢字を使用せしむるが、和歌俳句等文學上に於ては漢字を必要とする場合が尠くない。本名彙は志田義秀氏田中敬翁氏が日本植物園に採集した植物和名漢字集。四六判紙裝一三〇頁。頒布費十七錢。</p>	<p><b>昆蟲採集便覽</b></p> <p>日本昆蟲園(定価十五圓)の別冊附録として刊行せるもの。執筆者は日本昆蟲園の著者。圖版五十五個を挿入して昆蟲の採集保存法・雌雄鑑別法等について詳説してある。四六判紙裝七十頁。頒布費二十二錢。</p>	<p><b>動物採集便覽</b></p> <p>日本動物園(定価十五圓)の別冊附録として刊行せるもの。執筆者は日本動物園の著者。日本動物園(定価十五圓)の別冊附録として刊行せるもの。四六判紙裝七十頁。頒布費二十二錢。</p>	<p><b>學生版動物圖鑑</b></p> <p>學生諸氏・狩獵・釣魚・採集趣味家の野外携帶用たらしむべく、日本動物園(定価十五圓)を底本として編纂せるもの。鳥・獸・魚・貝・蟲其他の動物二七五〇種の姿態と名稱が一目瞭然。一家庭の教育資料としても快適。(内容見本通星)</p>	<p><b>應用動物圖鑑</b></p> <p>農林省畜産試験場長木村和誠 外六氏 共著</p> <p>四八頁 特選 八種 價五錢</p> <p>六〇頁 特選 八種 價五錢</p> <p>六〇頁 特選 八種 價五錢</p> <p>本邦唯一の動物利用指針書 (内容見本通星)</p>	<p><b>日本動物圖鑑</b></p> <p>理學博士 丘淺次郎 外二十一氏共著</p> <p>四二頁 特選 八種 價五錢</p> <p>五〇頁 特選 八種 價五錢</p> <p>五〇頁 特選 八種 價五錢</p> <p>原色圖廿一葉、形態圖四千一百個を掲げて鳥・獸・魚・介・蟲・その他凡ゆる動物と其の幼生を一種毎に圖解せるもの。巨大な體・肉眼で見えぬアミ・バ・人體内に寄生する虫までも動物相並んで本邦動物學界の代表的二大文獻。(内容見本通星)</p>	<p><b>日本植物圖鑑</b></p> <p>理學博士 牧野富太郎 外四博士執筆</p> <p>四一頁 特選 八種 價五錢</p> <p>五〇頁 特選 八種 價五錢</p> <p>五〇頁 特選 八種 價五錢</p> <p>植物と云へば牧野・牧野と云へば植物と云へば全世界にその名高き著者が三好學博士(地衣類)岡村金太郎博士(藻類)川村清一博士(菌類)岡村周吉博士(蘆薈)の協力執筆を得て、日本植物園(定価十五圓)の別冊附録として刊行せるもの。巨大な體・肉眼で見えぬアミ・バ・人體内に寄生する虫までも動物相並んで本邦動物學界の代表的二大文獻。(内容見本通星)</p>	<p><b>日本昆蟲圖鑑</b></p> <p>理學博士 江崎三三 外二十五氏共著</p> <p>四二頁 特選 八種 價五錢</p> <p>五〇頁 特選 八種 價五錢</p> <p>五〇頁 特選 八種 價五錢</p> <p>昆蟲世界の構成者二十六種が撰者の原色圖を撰註して著述せるもの。種圖の正誤を凡ゆる昆蟲の幼生を一種毎に圖解せるもの。於て断然類書に冠絶す。(内容見本通星)</p>
---	--	--	---	--	---	---	--

東京・京橋 町横・橋京・京東 北 隆 館 番〇五七京東替振

電話 一四一七 自話電 八四一七至橋京

内容見本通星御てへ添を手切錢貳は向の望希御本見容内

七八一

創業明治廿四年

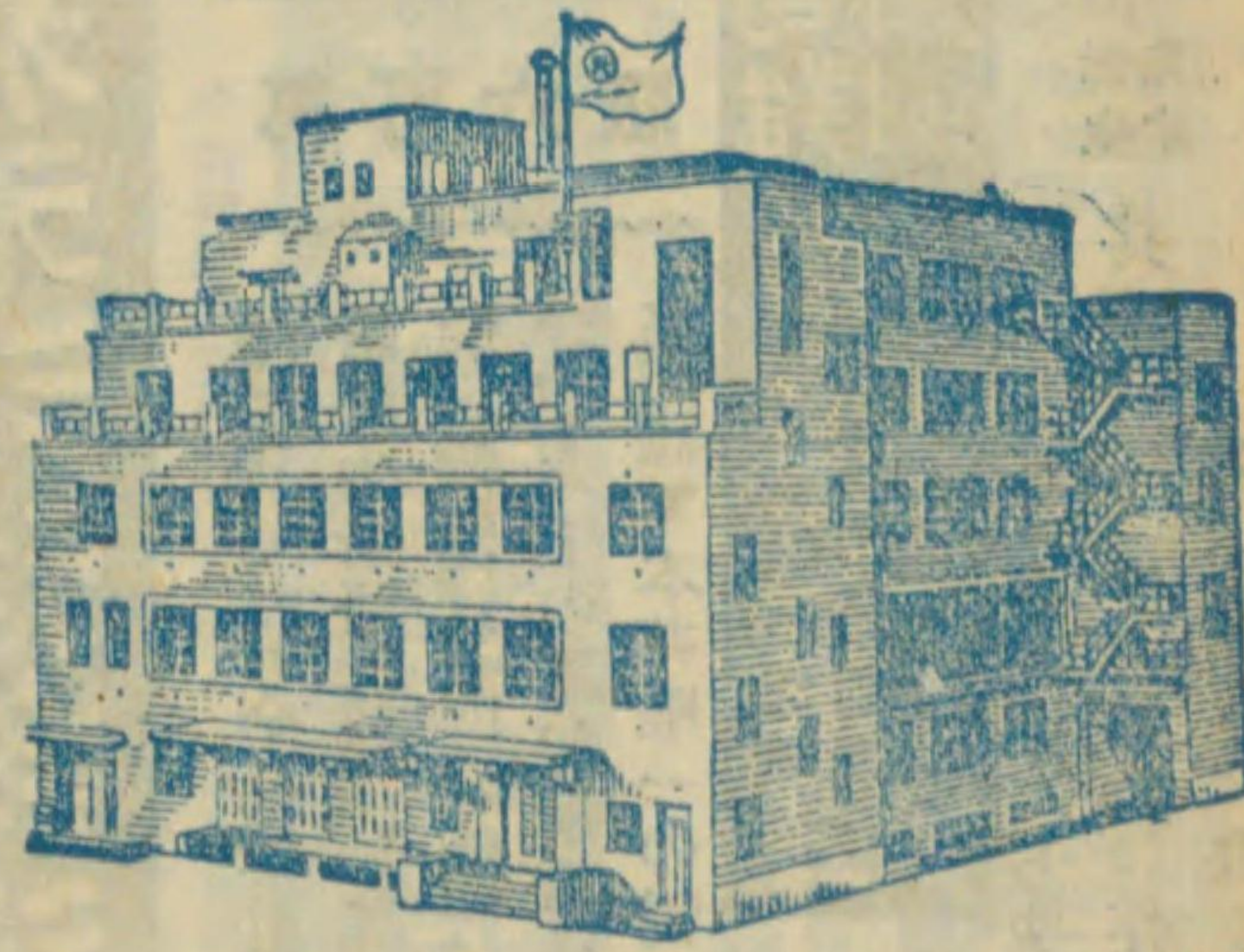
圖書雜誌新聞

元賣捌

東京・京橋

株式會社 北隆館

福田金太郎 福田良太郎



大日本水産會創立十五周年紀念出版 石川千代太郎 松田金丸 田中久丸 中尾俊 尾島暮 新海老名 尾島老海 實謙一 著共

原色 日本水産動物植物圖集

全二編 一冊裝表布金方三ト一ア・說解文兩英和・寸七尺一横寸二尺一豎

本圖集ハ水産國日本ノ代表的出版物ニシテ載録セル重要水産動物六九六種(一〇〇葉)ノ原色圖ハ、水産生物寫生ノ世界的權威者故伊藤熊太郎氏ガ畢生ノ事業トシテ、上掲共著者監修ノモノニ追眞ノ彩管ヲ揮ハレタル國寶的寫生圖。其ノ製版印刷・裝幀ハ斯界ノ重鎮山縣製本印刷株式會社ガ得意ノ技術ヲ以テセルモノ。和英兩文ノ適正ナル解説亦學界ノ範タリ。(内容見本通星)

御請求ハ郵券十錢ヲ要ス)

上下一揃 金五拾圓

送一内地・臺灣・樺太一貳圓 朝鮮其の他一貳圓卅錢

東京・京橋 町横・橋京・京東 北 隆 館 番〇五七京東替振

電話 一四一七 自話電 八四一七至橋京

七八〇



行發回數年錄目典古

# 和漢洋古典絶版書 本草醫籍——自然科學書

現在發賣中の新刊書は本年鑑中にて御満足ご存  
じますが絶版、品切或は貴重古典に至つては餅  
屋は餅屋の感が深い事です。何卒古き信用と新  
らしき頭の皆様の井上を御利用下さい。

## 井上書店

東京帝國大學正門前  
電話小石川四三五四番

### 御不用古書籍誠實買受

讀書家の雑誌

# 書籍雜誌月報

毎月一回一日發行

## 本月報の内容

月々の新刊書籍及び雑誌を盡く網羅して讀書家の便に供し、讀物として毎號文壇名士の隨筆を掲ぐ。外に季節の常識、漫畫等興味ある記事あり、短歌、俳句、詰碁等を懸賞にて募集し、之を毎月發表する等讀書家にとつては一時も手離せぬ新刊月報であります。御希望の方は一ヶ年分送料二十四錢を郵券にて御送り下さい。發行の都度御送り致します。

本誌を毎月御保存になれば完全な書籍雜誌總目錄が出来ます。

次取元誌雜書圖

## 株式會社 大東館

本店 東京市本橋一丁目九番  
支店 東京市本橋一丁目九番  
支店 東京市本橋一丁目九番  
支店 東京市本橋一丁目九番



黒崎幸吉先生・畔上賢造先生共著  
浅野猶三郎先生・石原兵永先生

# 新約聖書略註全

訂正四版  
◆本邦最初の解説法、獨特の註解書!! (送料十四錢)  
◆本文と註とを一つの文章に讀み下し得て容易に意味を取ることが出来る爲如何なる初心者と雖直ちに聖書の核心を把握し得る。けだし聖書は親しみ難き書であるとの觀念は消え去るであらう。

## 野邊地 天馬 兒童聖書物語 全十二卷

四六判十二ポイント各冊二百頁 定價金七十錢  
十二冊特價金七圓 (送料各冊六錢)

1	創世紀物語	7	列王時代物語
2	ヨセフ物語	8	ダニエル物語
3	モセ物語	9	子どもキリスト傳
4	士師武勇物語	10	聖ペテロ物語
5	サムエル物語	11	聖パウロ物語
6	ダビデ物語	12	聖ヨハネ物語

黒崎幸吉先生著

# 註解新約聖書 三ノ書簡

最新刊 菊判一四〇頁 定價一圓四十錢 (送料十二錢)

註解新約聖書既刊書目

版三	コリント前後書	菊判二百餘頁	定價一圓二十錢
版三	マタイ傳	菊判二百六十頁	定價一圓五十錢
版三	ヨハネ傳	菊判二百四十頁	定價一圓四十錢
版再	ヘブル書・ヤコブ書	菊判二百餘頁	定價一圓三十錢
版再	ペテロ前後書・ユダ書	菊判二百餘頁	定價一圓三十錢
刊新	ロマ書・ガラテヤ書	菊判二四〇頁	定價一圓四十錢

以下續刊

花鳥畫の本質	藤原紫峰	四六判	定價三、〇〇	著者の貴重なる體驗と研究の蓄蓄を傾けて花鳥の眞諦を説き花鳥畫の生命を傳ふ
藝術論	竹内勝太郎	四六判	定價三、〇〇	美は何處に如何にしてあるかどんな意味を持つかは本書に依つて徹底的に追及分析
西歐藝術風物記	竹内勝太郎	四六判	定價三、〇〇	歐米の文學美術音楽演劇舞踊等の藝術鑑賞と風物の描寫と交互に讀者の前に展開する
神護寺名寶展圖録	京都博物館	四六判	定價五、〇〇	國寶重寶數十點を收め精巧なる印刷に附す實に本邦各時代の佛教藝術の縮寫資料たり
世界文様圖案集成	鹿島英二	四六判	定價一五、〇〇	染織裝飾美術工藝家必携の萬國各時代美術工藝圖案大辭典にして精巧なる玻璃版に附す
踊の舞臺裝置	久保田金櫻	木版六圖	定價五、〇〇	簡易で素人にも容易に造り得られ充分演技の感興を助くる事を主眼として考案作畫
紫峰花鳥畫集	藤原紫峰	別大型版	定價五〇、〇〇	花鳥畫の名手紫峰畫伯の作品中代表的なるものを收め印刷製本最善の努力を拂ひしもの
家庭友禪法	永島信子	菊判	定價二、五〇	日本衣服史の姉妹篇にして家庭生活に資するに足る染術を簡明に記述せる一般家庭必需品
花鳥風月	岡本東洋	毎月一回	定價三、〇〇	東洋花鳥寫眞集全五十輯の續刊にして自然美藝術の一大殿堂一葉一葉既に繪畫である
百人一首小倉のにしき	飯田始晃	木版二十圖	定價二〇、〇〇	百人一首を圖案化せし最高のもの刷は我國固有の木版技術を極致まで發揮し装幀又優雅
鳥と藝術	金井紫雲	四六判	定價三、〇〇	既刊好評の花、草、魚介、樹木、動物、藻果、虫と藝術の續刊として新著のもの

◇美術圖書目錄御入用の方は實費郵券十錢御送附被下度候

東京東區本郷一丁目九番 英日堂 東京東區本郷一丁目九番 英日堂 東京東區本郷一丁目九番 英日堂

東京東區本郷一丁目九番 英日堂 東京東區本郷一丁目九番 英日堂 東京東區本郷一丁目九番 英日堂



責任講述者 谷口秀太郎	模範獨逸語講座(上下)	菊判、英文字 總頁五一六頁	各卷一・三〇(各〇八) 二・五〇(各一・二四)
明大教授 道部小島共著	日英獨逸語標準單語辭典	三六判布上製 二四八頁	〇・二〇六〇
日獨書院編輯部	例解獨逸文法力ード(動詞篇)	二〇刺六枚大	〇・〇五〇〇
東京外語教授 小笠原 稔	直載に 獨逸的印象的獨逸文法	三六判上製 一〇九頁	〇・〇八〇〇
東京齒科醫專 別府山田共著	獨逸文法大要	一四六判布上製 一〇四頁	〇・〇九〇〇
別府高橋共著	獨逸名詞・冠詞の研究	一四六判布上製 一〇〇頁	〇・〇一〇〇
東京外語教授 小笠原 稔	ムリお伽噺講義	二四六判紙製 二九一頁	〇・〇八〇〇
東京高校教授 小柳篤二譯註	クロイン獨逸日常生活	三五判クローリス 二二二頁	〇・〇三〇〇
日獨書院編輯部	帝大獨逸語問題と解答	三六判クローリス 一〇〇頁	〇・〇七〇〇
第四高校教授 小原 度正	帝大獨逸文抄釋	三六判クローリス 一〇〇頁	〇・〇四〇〇
醫學博士 濱田三郎	日獨臨床短文例	一三六判布裝 一〇二頁	〇・〇一〇〇
共立女子藥專教授 中山 久	獨逸物理と化學	一三六判クローリス 一〇三頁	〇・〇一〇〇
東京醫專教授 松室重行	獨逸モナル傑作短篇集	一三六判クローリス 一〇一頁	〇・〇一〇〇
日獨書院編輯部	對譯ナール傑作短篇集	一三六判クローリス 一〇一頁	〇・〇一〇〇

發行所 東京市本郷區 湯島二ノ五 日獨書院株式會社  
電話 小石川三三七 振替 東京六二六五六

七八六

# 世界農業史論

菊判特製 500頁  
內容見本進品

北大地長 高岡 熊雄著  
定價二・〇〇(送料・二二)

橋本農學博士 譯クルチ  
定價三・〇〇(送料・三三)

京大教授 大槻 正男譯  
定價二・五〇(送料・二二)

東大教授 久間健一著  
定價三・五〇(送料・三三)

農學博士 佐藤 寛次著  
定價二・〇〇(送料・五七)

元北大總長農學博士  
男爵 佐藤昌介 共著  
貴族院議員農法學士  
男爵 稻田昌植

★定價五圓・三十三錢

第一卷三冊・第二卷四冊  
一冊費二・〇〇(送料・二二)

京大農經調查室編  
定價六・〇〇(送料・二二)

二博士序 山崎 磐男著  
定價三・八〇(送料・三三)

農學博士 森 周六著  
定價二・五〇(送料・二二)

卜藏 梅之丞著  
定價七・五〇(送料・三三)

農學博士 高橋 偵造著  
價一七・八〇(送料・六九)

農學博士 高橋 偵造著  
定價四・八〇(送料・三三)

農學博士 齋藤 道雄著  
定價四・八〇(送料・三三)

農學博士 中村賢太郎著  
定價四・〇〇(送料・三三)

林學博士 三浦伊八郎著  
定價三・八〇(送料・三三)

農學博士 吉津良恭著  
定價四・五〇(送料・三三)

東大造園研究會著  
價各二・五〇(送料・三三)

農學博士 雨宮 育作著  
定價三・〇〇(送料・三三)

農學士 衣川 義雄著  
定價五・〇〇(送料・三三)

畜試 永田 厚平著  
定價三・〇〇(送料・三三)

農產製造學 上中下

農產製造實習法

乳と乳製品の物理學

育林學原論

林業實驗と實習

農業と經濟 合本

京大式農家經濟簿

蔬菜果物の荷造と販賣

農業用揚水機

農業作物病害要説

最新花壇園藝 應用自在

造園研究合本 (冊三) 九五—一二

日本水産學

最新養兔法

最新養豚法

發行所 東京市本郷區 湯島二ノ五 日獨書院株式會社  
電話 小石川三三七 振替 東京六二六五六

七八七







# 現代法令全集

法學博士 末弘嚴太郎責任編輯

何人も容易に買へる大法令集、八百頁の豪華版一冊一圓といふ驚異的廉價で、全十八卷が九ヶ月に完了、分類編纂は合理的且實用的、法令の改廢については月報と追加録發行によつて報道の遺憾なきを期し、校正の嚴密・印刷の鮮明・用紙の優秀・製本の堅牢を誇る。とに角實物を御覽下さい。

**現代法學全集の姉妹版**

一、各般の現行法令を網羅し事項別に分類輯録す。  
 (但し極めて特殊なもの・局部的・一時的なものはこれを省略した)  
 二、分類は學理的且つ實際的なを期した。  
 三、二つ以上の事項に亘る法令は緊切なりと認めたる事項に之を掲げ、他の事項には法令名を記し檢索に便ならしめてある。  
 四、法令の改廢・制定に對しては、1法令月報に於て逐次これを追補し、2相當期間毎に分類整備せる追録を發行する(但し第一回の追補は第十八卷に於てこれを爲す)  
 五、第十八卷は總目錄、總索引並に第一回の追録を以て終る。

全十八卷内容

第一卷	皇室篇・憲政篇	※
第二卷	官職篇	※
第三卷	財政篇(上)	※
第四卷	財政篇(下)	※
第五卷	地方篇・教育篇	※
第六卷	兵事篇	※
第七卷	士木事篇	※
第八卷	交通篇	※
第九卷	通信篇	※
第十卷	宗教篇・社會篇	※
第十一卷	警察篇・衛生篇	※
第十二卷	裁判篇・刑事篇	※
第十三卷	民事事篇	※
第十四卷	經濟篇(上)	※
第十五卷	經濟篇(中)	※
第十六卷	經濟篇(下)	※
第十七卷	國際際篇	※
第十八卷	總索引及附錄	※

社論評本日 四ノ三橋京・京東 東 東 組段二號六製上判六四  
 番六—京東 番 外 内 頁 百 八 册 一  
 冊 一

# 俳句讀本

俳句の作り方と味はひ方は、俳壇の巨匠盧子先生によつて、痒い所に手が届くやうに説明してある。大家も入門者も本書だけは是非一讀して頂きたい。讀んだその日から、作句にも、鑑賞にも、メキメキと進境があらはれるといふことは、數萬の讀者の一致した感想である。(定價一圓五十錢送料十四錢)

## 讀本シリズ

法學博士 上杉慎吉著	憲法讀本	定價一圓二十錢
法學博士 穂積重遠著	民法讀本	定價一圓二十錢
經濟學博士 太田正孝著	經濟讀本	定價一圓五十錢
平田晋策著	陸軍讀本	定價一圓八十錢
平田晋策著	海軍讀本	定價一圓八十錢
友松圓諦著	宗教讀本	定價一圓二十錢
小山松吉著	日本精神讀本	定價一圓五十錢
山田耕筰著	音樂讀本	定價一圓五十錢
東大助教授 橋爪明男著	銀行讀本	定價一圓八十錢
法學博士 松井茂著	警察讀本	定價一圓八十錢

社論評本日 番六—京東 番 一 九 一 六 橋 京 話 電  
 番四—番一

# 萬葉讀本

日本萬葉學の生みの親たる佐佐木博士が平生の蘊蓄を傾けて、あらゆる角度、あらゆる方面から、越大な萬葉集の全貌を、一卷に収められたのが本書である。古典藝術の理解のために、作歌の眞髓の味得のために、醉乎たる日本精神の把握のために、國民必讀の名著である。(定價一圓五十錢送料十二錢)



- 去來抄新講(上) 藤宇田 久著 布装函判 五・二〇
- 俳人許六の研究 藤鈴井 雅著 紙装函判 一・八〇
- 俳諧史上の人々 幸高田 裕著 紙装函判 二・〇〇
- 其角五元集全解 岩本梓 石著 紙装函判 二・五〇
- 俳人惟然の研究 顯鈴原 重藏著 布装函判 二・五〇
- 俳句季寄せ 俳書堂編 布装函判 一・〇〇

俳書 専門 俳書堂

東京丸の内  
三菱廿一號館  
電話九の内四八〇〇番  
振替東京一七一〇九番

目錄内容見本進呈

# 俳書

- 俳句用語 俳書堂編 輕紙装 〇・七〇
- 俳人北涯 船山草花著 布装函判 一・二〇
- 句集くぢら 宇田零雨著 紙装函判 一・二〇
- 連句入門 包山梓月著 輕紙装 一・二〇
- 故人春夏秋冬 大須賀乙字著 布装函判 一・八〇
- 子規句集講義 虚子鳴雪著 布装函判 一・八〇

東京帝國大學史料編纂官 文學士 後藤丹治先生新著

## 最新刊 戰記物語ノ新研究

〔本書内容〕 本書は帝國學士院推薦論文にて今回高松宮殿下より獎學資金拜受の光榮に欲せし學術研究の最新の良書たり。賣切れぬり内に先一本を……  
北海道帝大教授 松浦一理學博士理學士・權藤安武理學士・明峰俊夫共譯

## 最新刊 モルガンの著遺傳子説

〔本書特長〕 本書は松浦先生特長の遺傳研究なり本書出來により他書には絶對必至の最新の遺傳研究書たり。農大學生圖と書して一本備へ専門的研究あらん事を  
内田清之助・北村榮次共著

## 最新刊 實際養狸

〔本書特長〕 近時養殖熱盛んな今日不況時代の副業として狸の養殖は皮及肉にて損する事絶對になし本書手引書一本備へ今時の不況打解されん事を薦む。

發行所

東京 神田 錦町一ノ九

一進堂書店

振替東京七三六七六番  
電話 神田三三〇四番







アインシュタイン著

(石井友幸共譯)

定價金 壹圓八拾錢

# 我が世界觀

ナチスの行動を別抉し、ソヴェトを不満とし科學的自由主義を高唱せる不朽の名著!!

## 自由主義進歩主義を代表する科學者の世界觀!!

本書は……純粹な理論的學術的なものではないが、然し其の十數年の講演論文の全篇、若しくは一部を適宜に分類排列して此の科學的天才の面影を寫さうとして居る。蓋し、アインシュタインの如く其の一生の中に於て榮枯盛衰の轉變を而あたり経験した學者は頗る稀であらう。初めは猶太兒童として迫害せられ、後、瑞西の名もない一技師となり孜々として學を攷究したが、其の説が伯林の先輩に認識せられるに及んで一躍其地の教授となり、次で世界に名聲を博して國寶視せられたが、一朝にして當局者の忌諱に觸れ、終に獨逸政府の排斥を受けて屢々身邊の危險をさへ傳へられるに至つた。而して此の間の消息は此の書に細く明にすることが出来るのである。(桑木嚴翼)

眞理研究の論說有り、書簡あり、手記有り、隨筆有り、政治論文あり、一片一毫悉く科學者の世間觀として人生及社會の深奥や疑問に觸れた貴重の文字のみである。本書一度出るや忽ち數ヶ國語に翻譯され目下續々として十數ヶ國に譯されつつある。

東京 神田區 白揚社  
電話 四五〇〇  
東京 神田區 白揚社  
電話 四五〇〇

## 世界的著名

### 記念寫眞帖

卒業記念、團體記念、組合記念、旅行記念等の記念帖調製

### 寫眞アルバム

手札形より四ツ切形迄特製、上製、並製等其の他別誂もの調製

### 新年繪葉書

年賀用繪葉書と文字はがき毎年二百餘種發行好評にして年五百萬枚以上の賣行

### 名所繪葉書

原色版、コロタイプ刷二色刷  
其の他の印刷

### 記念繪葉書

落成記念、開校記念、祝賀記念等の繪葉書印刷引受

### 寫眞燒付と引伸

手札形ポスト形燒付  
四ツ切平均全紙等引伸引受

◎御申越次第見積致します

東京市下谷區仲御徒四丁目拾番地

石川松聲堂

電話 五六一  
電話 五六一  
電話 五六一



巖松堂書店編輯

# 新體六法全書

◇改訂增補 標準大型六法 新法令追補◇

四六判二段組編革裝幀  
爪掛・葉附一三三頁  
精撰法令一八〇索引附  
特價三円二十錢  
送料二十二錢

「新體六法全書」は大正七年を以て初版を發行し、爾來版を重ねること幾次、常に新法令を追補増訂したり。昭和八年更に改訂増補を行ひてより愈々其の眞價は認められ、所謂「標準六法」たるの榮譽を擔へり。

蓋し▽法令の選擇たる「常用六法」たるの利便を考慮し極めて適宜、▽法令改廢の沿革等に付き遺脱なく、▽然も編輯整理、索引援用に不便を感じしめざると共に、▽適度を超ゆる活字の縮小を避けて鮮明なる印刷を施し、▽堅牢淡雅の裝幀當時の閱覽愛用に至便ならしめられたればなり。

本版に於ては手形法及小切手法より身元保證法、農業動産信用法、自動車交通事業法、不正競争防止法並に衆議院議員選舉法、同法施行令の改正並に昭和十年度公布の最近の新法令たる裁判所構成法中改正法律、辯護士法中改正法律、民事訴訟法中改正法律、刑事訴訟法中改正法律、著作權法中改正法律、商標法中改正法律、鑛業法中改正法律より内閣審議會官制、同調査局官制及倉庫業法等に至るまで全部之を収録したれば改訂又は増補したる法令實に三十有餘に及び、内容愈々整備完全せり。

東神京東 田神京東 二町保 巖松堂書店 振替五五 東五 京六

七九八

代數 受驗の合鍵	釣狂五十年	新 俳畫講座 全	常用 最新字典	通 增鏡讀本	增 鏡解釋
松岡文太郎	松岡文翁	俳畫講座 刊行會	同編	同	塚本哲三著
價一・一〇 一〇八	正篇一・〇〇 續篇九〇 〇六	畫帖解説 特價七・五〇 一三〇	三五判八〇頁 特價一・八〇 〇六	四六判一〇〇頁 價六〇 〇八	簿判六二〇頁 價三・五〇 一三二
省略算	代數因子分解活法	幾何學軌跡作圖	算術學力增進法	訂四國文考へ方	訂三幾何學考へ方
金澤卯一	松岡文太郎	佐久間謙	松岡文太郎	同	同
價一・一〇 〇六	價一・一〇 〇六	價一・一〇 〇六	價一・一〇 〇六	價一・一〇 〇六	價一・一〇 〇六
九二九五一京東替振 八八〇三 (24) 話電	堂魁文野青	堂魁文野青	堂魁文野青	堂魁文野青	堂魁文野青

七九九



養研所技師  
醫學博士  
原徹一著

# 學校給食と献立の知識

菊判函入全一冊・定價金三圓五十錢・送料二十二錢

我が國の學校給食研究者中の第一人者たる著者が、其の眞實なる研究を經とし、該博なる見聞を緯として公にせる本書は、前篇を學校給食篇として著者の高説をもつてし、後篇は献立篇として主力を注ぎ、附録に各種實際例を見易き表として挿入し、もつて給食の標準寶典たらしめたる名著である。

## 三元堂

振替東京七九四〇九番  
電話神田五三三番

東京市神田區錦町  
一丁目十七番地

東京女高師講師  
金子彦二郎著

# 手紙文實習講話

四六判美本・金二圓二十錢・送料十四錢

本書はJ・O・A・Kから「實用文講座」として全國民に呼びかけ、絶讃を博した名講義の全部に、未發表の先生獨特の講話を倍加増補し、是に手紙の新文例を百八十篇を加へたる萬人向の實用書である。

◎生かす爲の公民科教授  
文部省社會教育官 千葉敬止著  
上巻金二・五〇 下巻金二・四〇・千各一・四

◎學校兒童養護の實際  
東京女高師附小及附幼 篠崎ハル著  
全一冊・定價金二・二〇・送料金一・四

◎歐米の幼稚園及教育の實際  
東京女高師附小主事 堀 七藏著  
全一冊・定價金二・八〇・送料金一・四

國寶建造物 第二期 矢野國太郎 四〇〇 △三枚	南朝之砥柱 大西源一 非 ◎三三	增京郡叢書二〇 井出時秀 〇 ◎三六	日本書紀講話 加藤玄智一 一・五〇 〇三六	楠木氏新研究 生田目經德一 一・五〇 ◎三三	記者生活二十五年を 顧みて 島田信次一 一・〇〇 〇一七	岩波訓讀日本書紀中 黑板勝美 一・〇〇 〇三六	同 同 同 〇 〇三二	現代業界人物集 中島從宜 一・〇〇 △三三	昭和學位大系博士 氏名錄 井關九郎 一・五〇 △三三	〔七月〕 應兒郷土史大系 島縣六島津中興史上 杉下重資二 一・五〇 ◎四四	歴史科學の方法論 相川春喜二 一・〇〇 ◎三三	ピスマーク 鶴見祐輔一 一・五〇 〇三三	平家物語(中) 〇三六			
有朋堂 太平記・下 探本哲三 非 ×六六	横山信毅 大谷荒太郎 二・〇〇 〇三三	枋木縣史五(政治編) 田代善吉 四・五〇 ◎五〇	廣瀨中將遺稿 廣瀨誠二 非 ◎一九	贈正一位 橘朝臣正成公傳 中村孝也 非 ◎三九	大楠公誠忠錄 德富猪一郎 一・〇〇 ◎三三	近世日本國公武 德富猪一郎 〇 〇三三	近世日本國民史一〇 同 〇 〇三三	豊臣氏時代概観 同 〇 〇三三	物語日本 藤村 作 〇 〇三三	文學十二 平家物語 藤村 作 〇 〇三三	糖界功罪史 石川悌次郎 二・〇〇 〇三三	日本新聞十年史 小松光男 非 〇三三	日本傳説研究 四藤澤衛彦 二・〇〇 〇三三	史料大成(二三) 川俣馨一 三・三〇 ◎四八	西園寺公望 木村毅 一・五〇 〇三三	伯國著名政治家略傳 海外興業株式會社 〇 〇三三
國寶建造物會社 龜町	愛洲顯彰會 三重	增補京郡叢書刊行會 京都	章華社 目黒	吉川弘文館 京橋	和山草舎 山口	岩波書店 神田	同 同	經世社出版部 品川	發展社出版部 谷世田	杉下重資 鹿兒	白揚社 神田	大日本雄辯會 小石	三教書院 中野			
有朋堂 神田	大谷荒太郎 神田	田代善吉 枋木	廣瀨誠二 枋木	中村孝也 枋木	德富猪一郎 神田	同 同	同 同	藤村 作 神田	藤村 作 神田	石川悌次郎 神田	小松光男 神田	四藤澤衛彦 神田	川俣馨一 神田	木村毅 神田	海外興業株式會社 東京	



書名	著譯者	定價	頁數	形態	發行所
近世日本 尊皇攘夷篇	徳富猪一郎	五・〇〇	〇	〇	民友社 神田
類傳記大日本史 (忠臣志士篇)					
有朋堂 太平記(上)	塚本哲三	非	×	〇	山開堂 神田
戦後歐洲に於ける 土地制度改革史論	田邊勝正	四・〇〇	〇	〇	協調會 芝
廣瀬中將の面影	陸軍大學校 將校集會所		〇	〇	前田岩太郎 總町
歴史科 學	中村徳二郎	一・〇〇	〇	〇	白揚社 神田
平家物語(下)					
日本史蹟大系(三)	熊田葦城	二・八〇	〇	〇	三教書院 中野
始政四十 臺灣征討史	大槻正秋	非	〇	〇	平凡社 日本橋
周年記念 舊事紀之玄旨(一二)	川之助	一・〇〇	〇	〇	臺灣懇話會 總町
新譯 古事記	笛木謙治	二・〇〇	〇	〇	精修會 高見
至誠名鑑	秦野新兵衛	非	〇	〇	秦野新兵衛 千葉
同 願 七 十 年	永瀧久吉	非	〇	〇	永瀧久吉 流橋

書名	著譯者	定價	頁數	形態	發行所
大日本文庫國史篇 神皇正統記愚管抄		非	〇	〇	春陽堂 日本橋
佐渡年代史(上)	伊藤純逸	同	〇	〇	佐渡郡教育會 新潟
物語日本(江戸)	富岡直方	一・八〇	〇	〇	三陽書院 總町
日本産業組合史	東浦庄治	一・五〇	〇	〇	高陽書院 神田
黒船(前後)	服部之總	〇・八〇	〇	〇	清和書店 同
民 日本歴史(封建)	白柳秀湖	一・五〇	〇	〇	千倉書房 同
日本傳説研究(五)	藤澤衛彦	二・〇〇	〇	〇	三笠書房 京橋
有朋堂先哲像傳	塚本哲三	非	×	〇	有朋堂 神田
文庫 近世名人傳					
おもい 時計の歴史	イリイノ	七・〇〇	〇	〇	ナウカ社 同
日本精神 太古の聖史	佐々木俊雄	〇・六〇	〇	〇	松華堂書店 同
嶽南史(五)	鈴木覺馬	同	〇	〇	嶽南史刊行會 山口
世界各國史	野村佐一郎	四・五〇	〇	〇	崇文堂出版部 神田
日本消費組合史	奥谷松治	一・五〇	〇	〇	高陽書院 同

書名	著譯者	定價	頁數	形態	發行所
日本經濟四季 年報(第三輯)	日本經濟研究所	一・〇〇	〇	〇	東京銀行 同
銀行叢書 赤字財政と 第二五編 其克服策	大口喜六	非	〇	〇	東京銀行 同
本邦輸出陶磁器ニ對スル諸外國ノ輸入關稅定率表	宮崎 浩	〇・六〇	〇	〇	名古屋陶磁器輸出組合 愛知
家庭經濟と豫算	前田繁一	〇・五〇	〇	〇	社會教育協會 川小石

**ハチカンの壁畫**

ローマ法王國の考古學會議において、最近法王國博物館長ノガラ及び、パチカン美術館長ピアヂエツテイ兩教授は、シスチネとボオリン禮拜堂の修復結果を報告したが、それによると、二つの新しい発見がもたらされた。

シスチネ禮拜堂の有名なミケランジェロの壁畫「最後の審判」は、法王の命令で、昨年七月に二百枚の寫眞に撮られた。その結果、これ迄肉眼で見分ける事が出来なかつた様な細部まで判然として来たのであるが面白いのは、「最後の審判」の場面にダンテが居るといふべく然とした想像説が、明かになつたことだ。寫眞を檢討すると、最後の審判で、「選ばれし者」の一人として、キリストの近くに見出される人物が、即ちダンテで、その容貌は、ヂオット、ラファエル、バツサリ等において描かれたダンテの肖像に酷似してゐる事が判明した。

ボオリン禮拜堂の壁畫「聖ボオロの會話」と「聖ベテロの受難」の修復に當つては、空及び背景をなす風景の部分に、何人かによつて、何時の時代に塗り換へられたといふ事が発見された。ピアヂエツテイ教授はミケランジェロの力強い筆によつて描かれた、深い群青の空が塗り消された繪の具の下から所々現れて、光り輝いてゐるのが見えるといつてゐる。



印刷の順序

- (1) 機械運轉準備
- (2) 平臺又は輪轉機に版面組付
- (3) 用紙、インキの配給
- (4) 試刷
- (5) 胴張り、ムラ取り
- (6) 印刷工程に入る
- (7) 印刷刷了
- (8) 表紙付け
- (9) 斷裁
- (10) 製本成る

製本の順序

- (イ) 上製本
  - (1) 刷本受取
  - (2) 刷本受取
  - (3) 製品調査
  - (4) 紙折及び丁合點檢
  - (5) カガリ
  - (6) 背固め
  - (7) 天金の場合は金付け
  - (8) 表紙クロス及ボール(斷裁及中眞裏打)
  - (9) 表紙貼り合せ
  - (10) 表題及び裝飾金版彫造
  - (11) 箔 押
  - (12) 仕上げ
  - (13) パラピン包装
  - (14) 函 入
  - (15) 製本成る
- (ロ) 並製本
  - (1) 刷本受取
  - (2) 員數調査
  - (3) 製品調査
  - (4) 表紙繼合せ
  - (5) 紙折及び丁合點檢
  - (6) 針金綴
  - (7) 背固め

(一六) 社 會

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
日本勞働年鑑 (昭和九年)	高野岩三郎	四〇〇	〇八一	栗田書店 神田
混迷時代の生活態度	清澤 洌	一五〇	〇三八	千倉書房 京橋
眞日本建設論	合田新義	〇	〇三三	合田新義 大阪
平等を求むる心	津村秀松	二五〇	〇三六	大阪寶文館 同
本邦勞働者及農民事情	高野岩三郎	非	〇八九	栗田書店 神田
人は何故に貧乏するか?	岡野忠弘	二〇〇	〇六六	政治批判社 荏原
Current Thought 16	木倉幾三郎	非	〇八二	政界往來社 芝
世界の青少年運動	小尾範治	一三〇	〇三三	青年教育會 神田
川口鑄物業に於ける勞働運動十年史 (上卷)	井堀繁雄	非	〇五三	東京鐵工組合川口支部 埼玉
川口鑄物業に於ける勞働運動十年史下卷	井堀繁雄	非	〇六三	東京鐵工組合川口支部 埼玉
日本家族制度批判	玉城 肇	二〇〇	〇三〇	福田書房 神田
マルクス徹底否認と新興文化の道標(上)	鈴木傳七	九〇〇	〇九七	反マルクス會 本郷
日本中世室町時代社會史	笠原 修	五〇〇	〇一七〇	白揚社 神田
支那社會史	サファロフ	二六〇	〇四九	同 同
東京大罷業市電記念寫眞帖	古崎平三郎	〇八〇	〇〇〇	東京交通會 京橋
フアツシズム批判	河合榮治郎	一八〇	〇五〇	勞働組合 同
東電組合運動史	佐良土英彦	一三〇	〇三六	日本評論社 同
現代社會學批判	早瀬利雄	二〇〇	〇四五	佐良土英彦 豊島
動く日本の姿	田邊三郎	一五〇	〇二九	同 文 館 神田
社會學(2)民族と國家	尾高邦雄	二〇〇	〇四七	岩波書店 同
思想問題小輯西歐近代思想と日本國體	藤澤親雄	三〇〇	〇九〇	日本文化協會 麹町
同國文學と民族精神	久松潜一	三〇〇	〇三〇	同 同
同 革 命 論	平泉 澄	一五〇	〇五〇	同 同







書名	著譯者	定價	頁數	發行所
生活文化の東西	鼓 常良	二・五〇	〇	三章 華社
アメリカ批評の研究	佐久間 原	一・八〇	〇	三六 研究社
日本 禮 讚	エルトン 小澤 覺輔	二・九〇	〇	二四 日比谷書房
近代史上に顯はれたる事實と國民の覺悟	岡田儀三郎	〇	〇	三六 岡田儀三郎
昭和八年死囚統計	内閣統計局	△	〇	三五 内閣統計局
世界 觀 學	船山信一	一・三〇	〇	二五 叢文閣
新日本の建設と配給權の確立思想の統一と各地日本神社建立の提唱	田原義男	非	〇	三三 大和ラヂオ會
其國家理論	五來欣造	〇	〇	一八 青年教育會
日本主義労働運動	芳陵龍夫	非	〇	三三 大月社會問題研究所
産業協力運動の徹底を叫んだ同盟大阪金屬労働年次大會	同	同	〇	三三 同
滿洲國皇帝陛下を奉迎して	笠井重治	同	〇	六 日滿中央協會
社會學綱要	松本潤一郎	一・七〇	〇	二七 朝日新聞社
新開	大道弘雄	一・三〇	〇	六二 朝日新聞社

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
日本の人口問題	近藤常次	一・三〇	〇	三五 南社
唯物辯證法教科書	早野共譯	一・〇〇	〇	四九 白揚社
日本社會の國體的改造	里見岸雄	〇	〇	一五 化學見日本文社
惱みは深し 臨時工問題	芳陵龍夫	非	〇	五 大月社會問題研究所
近世西歐漫畫史	太平 章	二・〇〇	〇	六 日本漫畫會
明治大正保險史料	玉木爲三郎	非	〇	六 生命保險會
蒙古慣習法の研究	佐藤貞次郎	一・七〇	〇	四五 東亞經濟研究所
國策運動バ國策運動ンフレットを提唱す	大矢 潔	二・〇〇	〇	三 日本經濟研究所
部落問題の過去 現在 未來	西原佐喜市	〇	〇	六 部落問題研究所
外蒙及新疆の近況	陸軍省	〇	〇	陸軍省新聞班
皇道維新の前奏曲	吉田天風	〇	〇	三 吉田慶三郎
西伯利亞日記	廣瀬彦太	四・〇〇	〇	二 海軍有終會
米を農民と米商の鬭争	長野拓郎	二・〇〇	〇	四 泰文館
最近歐羅巴の事情	米田 實	二・〇〇	〇	三 東京商會

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
國際カーレント	内藤民治	三・〇〇	〇	三三 國際日本協會
昭和五年國勢調査報告	内閣統計局	一・三〇	〇	二六 東京統計協會
各國アナーキズム思想史英國の部一	伊藤悦太郎	二・五〇	〇	二 萬人社
昭和九年中に於ける社會運動關係消息概	楠原祖一郎	〇	〇	二 社會思想對策調査界
統計學總論(上)	錦織理一郎	一・八〇	〇	一八 巖松堂
辯證法談叢	三枝博音	一・五〇	〇	三七 中央公論社
飯の社會學	吉方廣一	一・五〇	〇	三九 日本公論社
社會理想の研究	ノヴゴロドフ	二・〇〇	〇	五四 日露通信社
國家宣傳統制	森崎善一	非	〇	一五 宣傳統制局
朝鮮義勇バンフレット	李 熙 成	三・〇〇	〇	三七 朝鮮義勇團
朝鮮民族の自覺を促す	同	同	〇	同
改訂 滿蒙太平記	米田華紅	一・五〇	〇	三三 日本書院
外人の見た日本の横顔	山中忠雄	一・五〇	〇	二九 日本旅行協會
爪哇みやげ	木村銳市	〇	〇	二九 日本海時代社

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
訂改 社會政策原理	河合榮治郎	四・〇〇	〇	六三 日本評論社
大阪ニ於ケル第十六回メーデー	芳陵龍夫	非	〇	三 大月社會問題研究所
犯罪豫防と失火と	中村義正	一・〇〇	〇	二七 東洋探檢社
強盜と窃盜	同	一・〇〇	〇	同
同 詐 欺	同	一・〇〇	〇	同
九・一八前後	村上知行	二・〇〇	〇	四八 福田書房
八百萬圓の消費事件	新開編輯局	〇	〇	三 精華書房
被壓部落 大眾は叫ぶ	芳陵龍夫	非	〇	三 大月社會問題研究所
躍進臺灣の現勢	山本昌彦	五・〇〇	〇	三三 改造日本社
人口理論と人口問題	南 亮三郎	二・五〇	〇	四三 千倉書房
世にも盲目村民と稀なる余土村の自治	石田傳吉	二・五〇	〇	四四 弘明堂書店
脹 膨 の 日 本	鶴見祐輔	〇	〇	三六 大日本雄辯會
世にも利口な男の話	大泉行雄	〇	〇	一三 同
一九三六年何のその	椎尾 調	二・〇〇	〇	二六 同
社會と個人上	清水幾太郎	二・八〇	〇	三〇 刀江書院



書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
極東存榮策論	鍋島創一	二・三〇	〇二六	大日社	移民地哀話	新里貫一	〇二五	〇三三	新報社
支那の奇習と異聞	井出季和太	一・五〇	〇三三	平野書房	政界淨化の機來る	盛田 曉	二・〇〇	〇三二	人文社
大阪市風水害誌	大阪市	〇三三	〇三三	大阪市	〔六月〕				
光輝 護れ祖國	春口輝夫	三・三〇	〇三六	大阪見島	日本は挑戦する	アプトン	二・〇〇	〇三六	白揚社
三千年の生命線	塚本義隆	三・五〇	〇三六	新開聯合社	滿洲國皇帝陛下	菊地守之助	二・〇〇	〇三六	帝國軍備
世界は何處へ	松本潤一郎	一・八〇	〇三三	弘文堂書房	御來訪記念寫眞帖	研究會	二・〇〇	〇三六	帝國軍備
社會學原論	美太郎	非	〇三三	太平洋問題	因襲打破論	村岡靜五郎	二・〇〇	〇三六	關東水部
太平洋問題資料一八	美太郎	非	〇三三	調查會	原始共產社會	早川二郎	二・〇〇	〇三三	白揚社
ランカシャーを訪ね	忠孝之	一・八〇	〇三三	忠孝之日本社	日本は英米の	安部 龜	非	〇三三	松井秀吉
滿洲國皇 記念大	石井秀雄	一・〇〇	〇三三	協和書院	最近に於ける	秋山斧助	〇三三	〇三三	關東水部
帝御來訪 寫眞帖	上岡好美	二・〇〇	〇三三	經濟調查部	勞働市場の統制	遊佐敏彦	一・〇〇	〇三三	關東水部
日本の過去	合田秋義	一・〇〇	〇三三	假事務所	獨逸國民に告ぐ	水木梢譯	二・〇〇	〇三三	高路社
現在及び將來	高島榮次郎	三・〇〇	〇三三	交通經濟社	支那の奇習と異聞	井出季和	一・五〇	〇三三	平野書房
社會の發展に就いて	高島榮次郎	三・〇〇	〇三三	出版部	公娼制度の必要性	米田哲男	二・〇〇	〇三三	大衆國威聯盟
暴力行爲の重因	芳川 赴	三・〇〇	〇三三	大月社	と廢娼論の檢討	永井哲二	二・〇〇	〇三三	大衆國威聯盟
眞日本建設論	芳川 赴	三・〇〇	〇三三	大月社	轉 向 手 記				
簡易保險實務解説	芳川 赴	三・〇〇	〇三三	大月社					
海員組合分裂寸	芳川 赴	三・〇〇	〇三三	大月社					

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
赤箱マツダ考現學	坂口 宏	非	〇三三	株式會社	世界は動く皇國	井上四郎	二・〇〇	〇三三	帝國飛行協會
柳田民 社會問題	大内兵衛	二・五〇	〇四四	株式會社	消費組合運動の	崎 勉 治	二・〇〇	〇三三	開拓社
藏全集	大内兵衛	二・五〇	〇四四	株式會社	倫理的基礎山	水本清一郎	二・〇〇	〇三三	全國水部
新帝展問題の解剖	芳川 赴	三・〇〇	〇三三	二松堂書店	水人社バン	姉崎正治	二・〇〇	〇三三	全國水部
暴力團狩雜記	芳川 赴	三・〇〇	〇三三	二松堂書店	フレット扉を開く	カール	二・〇〇	〇三三	全國水部
神戸市公設市場	芳川 赴	三・〇〇	〇三三	二松堂書店	文化の原動力と	マルクス	二・〇〇	〇三三	全國水部
疑獄に踊る人々	芳川 赴	三・〇〇	〇三三	二松堂書店	その轉機の問題	文庫	二・〇〇	〇三三	全國水部
生産黨の勞働	芳川 赴	三・〇〇	〇三三	二松堂書店	岩波 賃勞働と資本	長谷川	二・〇〇	〇三三	全國水部
日本を中心とする東	芳川 赴	三・〇〇	〇三三	二松堂書店	印度の婦人	G. Venkata	二・〇〇	〇三三	全國水部
洋諸民族文化研究叢	芳川 赴	三・〇〇	〇三三	二松堂書店	斯くして我が日本民	井頭利榮	二・〇〇	〇三三	全國水部
現代社會と人格生活	芳川 赴	三・〇〇	〇三三	二松堂書店	族は世界を統一する	Chakrabarti	二・〇〇	〇三三	全國水部
神 政 主義	芳川 赴	三・〇〇	〇三三	二松堂書店	我が大陸經營	綾川武治	二・〇〇	〇三三	全國水部
ソヴェート	芳川 赴	三・〇〇	〇三三	二松堂書店	失敗の真相	高橋天民	二・〇〇	〇三三	全國水部
地獄を語る	芳川 赴	三・〇〇	〇三三	二松堂書店	是からの社會改造	芳川龍夫	二・〇〇	〇三三	全國水部
變動期の農村運動	芳川 赴	三・〇〇	〇三三	二松堂書店	世の中と社會改造	芳川龍夫	二・〇〇	〇三三	全國水部
今日の昭和十年	芳川 赴	三・〇〇	〇三三	二松堂書店	新官僚再分析	芳川龍夫	二・〇〇	〇三三	全國水部
問題前半年期 版	芳川 赴	三・〇〇	〇三三	二松堂書店	〔七月〕				
徳川時代の賄賂秘史	芳川 赴	三・〇〇	〇三三	二松堂書店	太平洋問題資料一九	美松 太郎	二・〇〇	〇三三	太平洋問題
日支關係は	芳川 赴	三・〇〇	〇三三	二松堂書店	米國の生産と消費	美松 太郎	二・〇〇	〇三三	太平洋問題
どう動く?	芳川 赴	三・〇〇	〇三三	二松堂書店	岩波 東洋思潮	美松 太郎	二・〇〇	〇三三	太平洋問題
社會學要講	芳川 赴	三・〇〇	〇三三	二松堂書店	産業組合主義	賀川豊彦	二・〇〇	〇三三	太平洋問題
	芳川 赴	三・〇〇	〇三三	二松堂書店	國家改造論	賀川豊彦	二・〇〇	〇三三	太平洋問題



書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
フアツシズム論	ダバトム	二・八〇	〇四三	濃電文業員閣	我が國家社會の本質	川合貞一	・五〇	〇元	日本文化協會
東從バンフレット	松原宏一	非〇	〇九	組合教育	米國新聞團訪日記	兒玉球一	〇二〇	〇二〇	日本新聞協會
資本主義と労働組合	岩永榮一	非〇	〇九	出版部	農村問題解説	栗原藤七郎	一・〇〇	〇二二	明文堂
家作を貸す秘訣	細木盛枝	二・〇〇	〇三三	三樂書房	支那邊疆と英露の角逐	入江啓四郎	四・〇〇	〇六七	ナウカ社
斯くて新日本は	森吉義旭	二・〇〇	〇三三	先愛社研究室	紳士亡國論	齋藤正義	二・〇〇	〇〇	精神文化
未開社會の思惟	山田吉彦	四・八〇	〇四三	小山書店	大日本忠孝労働組合結成に際して	山崎常吉	二・〇〇	〇三	大日本忠孝労働組合
國民精神文化類輯五	西晋一郎	・五〇	〇七	文化研究所	職業婦人を女房に持てば	讀賣新聞社	二・〇〇	〇〇	結成準備會
教學と思想統一	日本國民軍	非〇	〇五	統管府	米國新聞記者の見た日本と滿洲	兒玉璋一	〇二〇	〇二〇	日本新聞協會
日本國民軍趣意書	讀賣新聞社	二・〇〇	〇〇	婦人部	最近における我國共產主義運動の概要	楠原祖一郎	非〇	〇七	社會思想對策會
國家改造計畫大綱	讀賣新聞社	二・〇〇	〇〇	婦人部	沈み行く東京	阿閉吉男	一・八〇	〇三三	雄風館書房
何が私を不良にしたか	讀賣新聞社	二・〇〇	〇〇	婦人部	歐米スパイ物語	那須宗一	一・三〇	〇二九	上田泰文堂
國難日本の新方向	瀧澤操六	〇〇	〇〇	先愛社研究室	南京政府の實相	鈴木六平	・八〇	〇三九	平路社
日本イデオロギイ論	戸坂潤	一・五〇	〇三三	白揚社		中島信一	非〇	〇九六	東亞會
上海に於ける朝鮮人の實情	島津潤	非〇	〇〇	中央朝鮮協會					
大東京の現勢	高山中助	二・〇〇	〇八三	東京毎夕社					
思想國難ニ直面シテ青年同志ニ訴フ	淺野常瑞	非〇	〇〇	淺野常瑞					
支那の奇習と異聞	井出季和太	一・五〇	〇三三	平野書房					

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
アジアを跨ぐ	副島次郎	一・五〇	〇四八	言海書房	プロレタリアの戦術	伊藤悦太郎	二・〇〇	〇三	パンフ發行會
南方生命線の危機	八幡博堂	二・〇〇	〇〇	改造日本社	鮮滿視察旅行	石川馨彦	非〇	〇五	石川馨彦
岩波東洋思潮(十一)	岩波書店	〇〇	〇〇	岩波書店	法網を潜る人々	黒頭巾	二・三〇	〇六八	大京堂書店
人生問答	伊藤道海	一・三〇	〇三七	實業之日本社	エチオピアとは	民族研究普及會編輯部	・五〇	〇四	文崗社
支那邊疆概観	平山敬三	・五〇	〇一	調査局	中央細亞事情	外務省調査部	一・五〇	〇二八	日本國際協會
逆説法	孫六一	一・五〇	〇三七	千倉書房	ソ領中亞及新疆	時事新報	・五〇	〇二八	森山書店
暴力團狩後始末	柳澤善衛	二・〇〇	〇六	自由社	景氣の謎を解く	伊藤千眞三	一・八〇	〇三〇	東洋書院
唯物論近代唯物論	森宏一	・八〇	〇三三	笠書房	日本精神	水島齊	一・〇〇	〇一五	國際思想研究所
社會學研究(一)	東京社會學研究會	二・八〇	〇四八	良書普及會	國民思想の動向	柳田國男	一・五〇	〇四七	刀江書院
最近の労働問題と労働運動	平野學	・二五	〇五	社會大衆黨出版部	郷土生活の研究法	高廣三郎	・五〇	〇二二	友生書院
劃下の日本と歐米事情	前田善教	一・五〇	〇三六	昭文社	新日本主義の提唱	津村秀松	一・八〇	〇三三	双雅房
宇宙の大理	村山惣作	・五〇	〇二〇	五色屋書房	社會小景	野中盛隆	一・五〇	〇三〇	現代文化社
世界は日ノ本に歸る	三島章道	・五〇	〇三三	東學社	支那青年より日本帝國の青年に與ふ	王世民	・三〇	〇二七	隣人之友社
改訂日滿健兒工作	藤澤親雄	・二〇	〇二五	日本外交協會	帝國の青年に與ふ	野中盛隆	一・五〇	〇三〇	千倉書房
國際思想と國家觀念に就いて	淺草風景	一・〇〇	〇四三	警察思潮社	帝國の青年に與ふ	野中盛隆	一・五〇	〇三〇	千倉書房



書名	著譯者	定價	頁數	發行所
本邦社會運動團體總攬	小西嘉雄	二〇〇〇	三三〇	政治經濟事情調査所
偽れる議員と偽れる議會	大井一哲	三〇〇〇	〇	日本社會問題研究所
逆境の恩寵	東邦彦	一三〇〇	〇	刑務協會
歴代國務大臣の親族姻族(後編平民の卷)	村田耕堂	三三〇〇	〇	日本國関叢書刊行會
滿洲事變勃發滿四年	陸軍省新聞班	〇	〇	陸軍省新聞班
觀て來た滿鮮	杉山佐七	非	〇	小石工業學校
伸び行く日本南洋の横顔	安達猪山	二〇〇〇	〇	校友會同窓會
德島の盆踊	花野富藏	一五〇〇	〇	第一書房
皇世界社宣言外三篇	宮東孝行	一〇〇〇	〇	皇世界社
國教奉戴運動趣旨綱領	淺野一翁	非	〇	淺野一翁
生活と雑話	馬場光三	〇	〇	言海書房
黑人帝國エチオピア	土田豊	一〇〇〇	〇	日本國際協會
静岡は何處へ行く	中村初	二〇〇〇	〇	日本交通新聞社出版部
神道眼で觀た歐米	小谷徳水	二〇〇〇	〇	立命館出版部
社會學概論	今井時郎	二五〇〇	〇	米國新聞日本記者の見たと滿洲
米國新聞日本記者の見たと滿洲	兒玉璋一	一八〇〇	〇	米國新聞日本記者の見たと滿洲
マルクス主義社會學諸原理の批判	米田庄太郎	一〇〇〇	〇	廣島武夫
辨證法的唯物論實踐捜査手續論	直井武夫	一〇〇〇	〇	廣島武夫
「生長の家」の暴露スル	岩谷芳松	三〇〇〇	〇	久世健介
社會構成論	久世健介	二〇〇〇	〇	久世健介
船内労働時間制	石川茂一	非	〇	永住道雄
労働組合はなぜ必要か附選舉肅正問題	渡邊清一	〇	〇	渡邊清一
日本人こゝにあり	澤田晋次郎	一五〇〇	〇	和辻哲郎
風土(人間學的考察)	和辻哲郎	二五〇〇	〇	和辻哲郎
南洋群島の研究	矢内原忠雄	三〇〇〇	〇	矢内原忠雄
世界は動く	岡本鶴松	二〇〇〇	〇	岡本鶴松
臺灣の全貌	池田龜壽	一八〇〇	〇	池田龜壽

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
私の行き方	小林一三	一五〇〇	〇	斗南書院
朝鮮を語る	宇垣一成	〇	〇	實業之日本社
裏から見た支那民族性	豊島擴	一〇〇〇	〇	日本外事協會
支那游記	室伏高信	一五〇〇	〇	日本評論社
社會思想問題の展望と教化	川那邊慧正	〇	〇	大谷研究所
轉向者の思想と生活	小松杜人	一五〇〇	〇	大谷研究所
本邦人の増加の傾向及び數量的變動に就いて	館 稔	〇	〇	人口問題研究会
ソヴェト刑務所物語	クレオンカ	〇	〇	現代文化社
東亞聯盟パンフレット	大下晋平	〇	〇	現代文化社
醒と團結	洪埃杓	〇	〇	東亞聯盟總部
人生觀の問題	由良哲次	一〇〇〇	〇	日黑書店
新聞學	小山榮三	五〇〇〇	〇	三省堂
川島義之と渡邊鏡太郎	松下芳男	二〇〇〇	〇	今日の問題社
ナチスの國を見る	鈴木東民	一八〇〇	〇	福田書房
中外商業新報	三輪美嘉久	二〇〇〇	〇	中外商業新報
第七回國際共產黨大會に於ける日本及び中國共產黨代表演說内容	大倉一榮	〇	〇	第七回國際共產黨大會に於ける日本及び中國共產黨代表演說内容
亞細亞之現勢	寺澤範雄	非	〇	亞細亞之現勢
日本財閥の實質を語る(後卷)	三宮維信	非	〇	日本財閥の實質を語る(後卷)
犯罪者の心理と手口	美山一郎	二〇〇〇	〇	犯罪者の心理と手口
社會浪漫派パンフレット	成田龍平	〇	〇	社會浪漫派パンフレット
義研究	長谷川了	〇	〇	義研究
北支那とソヴェト	押切奥美	〇	〇	北支那とソヴェト
現下の國情と國防	植村諦開	〇	〇	現下の國情と國防
マルクス主義對社會主義	春口輝夫	〇	〇	マルクス主義對社會主義
國際スパイ一九三五	讀賣新聞社	〇	〇	國際スパイ一九三五
護れ祖國の生命線	西村繁次郎	〇	〇	護れ祖國の生命線
匪賊物語	山田幸夫	〇	〇	匪賊物語
警民一如	ボクシ	〇	〇	警民一如
封建主義崩壞論	山田幸夫	一五〇〇	〇	封建主義崩壞論
辯證法的唯物論(一)其の史的發展	西雅雄	二〇〇〇	〇	辯證法的唯物論(一)其の史的發展



書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
週刊朝日文庫(九) 丸ビルの女達	大道弘雄	・三〇	×三三	朝日新聞社 大阪
男性への抗議 女性への反駁	讀賣新聞社	・二〇	〇	森田書房 麹町
伸び行く日本 南洋の横顔	安達猪山	・二〇	〇	東海通信社 京橋
始めて暴露された 市丸エロ行状記	松井政治	・二〇	〇	東京大勢社 同
現代知識社會學論	新明正道	・二〇〇	〇	巖松堂書店 神田
國民精神文化類輯八 古典とその精神	志田延義	・三〇	〇	國民精神文化研究所 品川
同 自由主義の批判	藤澤親雄	・三〇	〇	同
米國の秋朗	塚本義隆	・五〇	〇	新開聯合社 京橋
東京市家族統計	東京市役所	・七〇	〇	東京市役所 麹町
風雲日本の景氣	安田龍太郎	・二〇	〇	小冊子書林 神田
歐亞點描	山下將美	・二〇	〇	本社 神田
日系市民の 日本留學事情	山下草園	・二〇〇	〇	文成社 神田
唯物史觀講話	永田廣志	・一三〇	〇	白揚社 同
金と人間	石山賢吉	一・五〇	〇	千倉書房 京橋
昭和十年日本國勢圖會	矢野恒太	一・〇〇	〇	國勢社 同
筋肉労働三十年	安倍貞松	・三〇	〇	觀流社 在原
日本財閥の現勢力	長谷川	一・五〇	〇	千倉書房 京橋
人生は三十から	野崎信夫	一・三〇	〇	野崎書房 中野
蘭領印度を語る	竹井十郎	・二〇〇	〇	平野社 橋本
國精講習(小輯一)	青森縣教育會	非	〇	青森縣教育會 青森
社會問題體系(八)	河田嗣郎	・三〇	〇	有斐閣 神田
神兵隊事件に關する 調査資料(その一)	楠原祖一郎	非	〇	社會思想對策會 京橋
郷軍を擁し政府重臣 に迫る三六俱樂部の 組織的全貌	大倉一榮	・二〇	〇	日本政治經濟調查所 京橋
唯論 現代唯物論	永田廣志	・六〇	〇	三笠公房 神田
新聞の實際問題研究	フオロド	一・五〇	〇	日本公論社 同
最近の北支事情	橋源太郎	・三〇	〇	東洋協會 麹町
奈良のはたごや	山上昶	・三〇	〇	同
小林一三	小林一三	一・〇〇	〇	同

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
浴室風景	景竹内逸	・二〇〇	〇	同
國民やまと心	中山敬川	一・八〇	〇	同
北米日記通信	田中文男	非	〇	同
國際カレント(三)	内藤民治	・三〇	〇	同
東亞調查會 講演集(三)	平井三男	非	〇	同
當面の社會 事業諸問題	山田節男	・六〇	〇	同
日本精神と我が國土	寺田貞次	一・〇〇	〇	同
唯物史觀講話	永田廣志	一・三〇	〇	同
エチオピア國情	庄子勇之助	非	〇	同
獨立比律賓を語る	今村忠助	・二五〇	〇	同
國民精神文化研究 思想左傾の原因 及び其の經路	岡田恒輔	・六〇	△	同
同 日本精神と社會の 本質構造との關係 に關する研究序説	川合貞一	・三〇	△	同
近世時様風俗	齊藤隆三	・四〇	〇	同
文化の擁護	小松清	一・〇〇	〇	第一書房 麹町
國際阿片問題の經緯	宮島幹之助	一・〇〇	〇	日本國際協會 麹町
辯護士生活の回顧	原嘉道	五・〇〇	〇	法律新報社 同
昭和國勢調(第三) 五年查報告(卷上)	內閣統計局	二・七〇	△	東京統計協會 京橋
明治時代の 日本主義思潮概觀	米持格夫	・三〇	〇	早稻田大學 澁橋
我が世界觀	石井友幸	一・八〇	〇	白揚社 神田
神兵隊事件に關する 調査資料(その二)	楠原祖一郎	非	〇	社會思想對策會 京橋
東北地方に於ける社 會並に經濟上の特異 性に關する	協調會	一・三〇	△	同
星に映る鮮滿支	中村順三	非	〇	同
朝鮮同胞は語る	金洪澳	・五〇	〇	協和互助會 名吉
支那!(削除版)	野田豊	・二〇	〇	野田經濟研究所 橋本
世界の皇化	滿川龜太郎	・三〇	〇	惟神顯修會 澁橋
國際阿片問題の經緯 (削除版)	宮島幹之助	一・〇〇	〇	日本國際協會 麹町
怪文書清算論	山科敏	非	〇	同



書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
日本民族	松村 瞭	三〇〇	四七〇	岩波書店	江戸時代の男女關係	堀 伊八	〇	四〇〇	自然社
蒙古	古山本實彦	二〇〇	四〇〇	改造社	國策郷土に還れ	松尾小三郎	七〇	一六〇	豆滿江協會
皇國日本を説く	小倉鏗爾	〇	二八〇	二松堂書店	蒙古と新疆	村田孜郎	二五〇	三三〇	日本公論社
都市計畫に於ける	加藤善吉	七〇	九〇	地域制攻究會	増補 國性	高田義一郎	一八〇	四〇〇	博文館
薩藩の文化	鹿見島市	〇	三九〇	鹿見島市	非常時と我が國民の覺悟	野村吉三郎	非	〇	國民協會
岡辰式絶好の	孫六	一五〇	〇	日本書院	生活權と社會施設	研究會	三〇	〇	現代パンフレット通信社
國際阿片問題の経緯	宮島幹之助	一〇〇	〇	日本國際協會	恐 慌 論	カワヅキカヲ	一〇〇	〇	同
純正日本主義運動	高崎信吉	二〇	〇	新開大衆社	伊エ紛争に就き	譯者 松崎敏太郎	一〇〇	〇	同
純正日本主義運動	高崎信吉	二〇	〇	新開大衆社	日本國民に對ふ	高木友三郎	二〇	〇	同
協同委員會の本質	林 貞四郎	三〇	〇	彰會出版部	歐米の習慣作法	瀧本二郎	三〇〇	〇	同
重臣プロックを暴く	出口 剛	三〇	〇	彰會出版部	ルルージユ事件	ガブリオ	一六〇	〇	同
日本精神の眞髓	林 惠海	一三〇	〇	彰會出版部	社會教育パンフレット	小松謙助	二五〇	〇	同
社會有機體	林 惠海	一三〇	〇	彰會出版部	アトニ三一	田中早苗	一〇〇	〇	同
出埃及記釋義	C.H.M. 大竹進	一三〇	〇	同	於ける國家主義團體	同	〇	〇	同
驚天動地大民難問題	畑野代十	〇	〇	同	我國に於ける	同	〇	〇	同
昭和の維新は?	大河原基	二〇	〇	同	エチオピアの實情	同	〇	〇	同

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
今日の話題	大道弘雄	四〇	〇	朝日新聞社	新更論集(四)	神崎照恵	一五〇	〇	新更會刊行部
本邦労働者及農事情昭和十年度	高野岩三郎	非	〇	栗田書店	勝利生活	大江專一	一〇〇	〇	實業之日本社
隣邦の内面觀	坂西利八郎	二〇〇	〇	同	御指圖(前編)	瀧川孝一郎	非	〇	瀧川孝一郎
支那人口問題研究	館 稔	三〇	〇	同	季節	恩地孝四郎	一〇〇	〇	アオイ書房
盜難防止の研究	平山喜久松	非	〇	同	歐米	遠山正路	非	〇	遠山正路
御指圖(後編)	瀧川幸一郎	非	〇	同	昭和国际調査速報	内閣統計局	〇	〇	東京統計協會
國際スバイ戰	R.W. ロイワソ	一三〇	〇	中央公論社	十年世帯及人口	同	〇	〇	同
皇紀二千六百	野津輝彦	一三〇	〇	中央公論社	支那閩房秘史	瀧川玄耳	四〇	〇	白水社
民族の問題	高橋順次郎	三〇	〇	大阪毎日	農村更生の丁抹	市木 勝	非	〇	福岡縣
東亞文化論集	高田保馬	一六〇	〇	日本評論社	右翼第三黨	三田村志朗	五〇	〇	時事研究社
國家法人説の崩壊	小笠原省三	三〇〇	〇	東亞民族協會	皇國大日本と其使命	三田村志朗	五〇	〇	時事研究社
全國民諸君に訴ふ	佐治謙讓	一〇〇	〇	日本評論社	北海道の新	鹽田盛道	五〇	〇	建國講演會
與國皇民黨創設	岩橋和多利	二〇	〇	同	支那はどうなる	和田藤吉	一五〇	〇	北海春秋社
北支事情	上石丸甫	二〇	〇	同	現代パンフレット	三田村武夫	二五〇	〇	時事研究社
日本は世界に怖れか	高山菊次	二〇	〇	同	合理的革命と呼ばるる國家ボーマス案	桐生悠々	二〇	〇	新東京社



書名	著譯者	定價	頁數	發行所
社會學(三) 豊川鐵道 争議の教訓	尾高邦雄	二・〇〇	三三三	岩波書店 神田
日本公娼制度論	大倉一榮	〇・三〇	二二	日本政治 經濟調査所 京橋
國民革命の社會學	大隅末廣	二・〇〇	二四九	吳鸞會出版部 神田
賣られ行く娘の問題	新明正道	〇・八〇	〇三三	甲文堂書店 同
昭和九年 人口動態統計	三浦精翁	二・〇〇	〇三三	三浦精翁 杉並
國際戦を呼ぶ 爆彈支那	内閣統計局	二・〇〇	△三八	東京統計協會 京橋
不思議なユダヤ人	相馬 基	〇・三〇	〇一七	東京日々 新聞發行所 麹町
海の生命線南洋	エルセル 基	〇・九〇	〇三一	ホーリネス 教會出版部 澁橋
國家及家族 感情の起原	有澤和夫	一・三〇	〇三五	トウシン 社 神田
男の危険期	三井捷平	一・三〇	〇三五	中席出版 社 芝
ドイツ ファシズム論	西山道夫	〇・八〇	〇一七	時潮 社 芝
妖雲漂ふ皇國を語る	西 勝造	〇・三〇	〇二三	中庸出版 社 京橋
滿蒙の秘密室	ビツキト	一・〇〇	〇三三	叢文 閣 麹町
	吉田榮一 譯	〇・二〇	〇六〇	田代強 八 京橋
	田代強 八	〇・二〇	〇六〇	田代強 八 京橋
	平野零兒	〇・三〇	〇三三	田代強 八 京橋

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
失業の研究	山口 正一	一・五〇	〇三九	弘濟會授産場 大阪
日本民族學研究	柳田國男	二・三〇	〇五五	岩波書店 神田
輝く滿洲帝國の現勢	小原正忠	〇・三〇	〇三六	軍人會館 出版部 麹町
現代社會惡化 救済と生活保證	金井博治	〇・八〇	〇三三	未來社 中野
精神國防	佐藤鐵太郎	非	〇三三	大日本四恩 會事務所 京橋
謹みて太平洋橫斷飛行の經過を報告す	山崎照道	非	〇三三	報知新聞社 麹町
近代戰爭に於ける 思想闘争の重大性	青木武雄	非	〇三三	報知新聞社 麹町
歐洲の近情	横井彦三郎	二・〇〇	〇三三	正劍社 愛知
我等の滿洲	武者小 路公共	非	〇三三	霞山會館 麹町
勞働契約ニ於ける 給付ノ諸問題	能勢徳次郎	〇・三〇	〇四〇	時局教育協會 川小石
日本勞働組合總聯合會ノ組合會議退宣言	須崎義利	非	〇三三	工親會事務所 福岡
これがエチオピアだ	津村寅男	二・〇〇	〇三三	同 同
國民更生の根本義	荒木貞夫	〇・三〇	〇三三	億兆社 芝
官廳・公衙・銀行 社・工場・商店 從業員待遇法大鑑	大島俊夫	五・〇〇	〇三三	從業員待遇法 大鑑刊行會 大阪

佛フアツシヨ黨と文士

十一月月上旬に左翼派の思想家、評論家、作家よりなる政治、文學、諷刺の記事を主とした週間新聞『金曜日』が發刊された。アラン、ジャン・リツシャル・ブロック、シュランベルジュ、ツヤン・カツスウ、ジャック・カイゼル、クロード・アヴリンヌ等を主要な報告者とした反フアシズム、デモクラシイと文化の擁護を標榜した戦闘紙である。その第二號に、例の佛蘭西フアツシヨ國體である「火の十字團」の文化政策を野次つた諷刺言がのつてゐる。それによれば在來貧弱を極めてゐた文士群を擴大強大化しようとしてクロワ・ド・フウの最高幹部は所謂文壇のスターを獲得しようとしてあらゆる術策を講じてゐるらしい。一般大衆の人氣作家であるアンリ・デュヴェルノアや、純文學派ではそれも矢張りブチブル、知識階級や青年達の中に相當普遍的な潜勢力をもつてゐるアンドレ・モロワ、ジャック・ド・ラクルテル、ポール・モランなどは恐らく参加するであらうと思はれてゐるし、またその魔手は漸次左翼のオボテニスドたちの間にまで延びて行きつゝあるやうだ。また行動派文學者の一人であり、最近「フアシズム的社會主義」を説いて論壇に一波瀾を起したドリユ・ラ・ロツシエルもクロワ黨に参加すると豫想されてゐる人々のリストにのつてゐるらしい。

この國に松本學あり、フランスにド・ラ・ロツク(クロワ・ド・フウの首領)ありと云へよう。



文學的探偵

サア・バシル・ザハロフは最も巨大な死の神の化身である。彼は大戰中いづれの側へも武器を賣りつけて幾億弗の富を獲得したといはれ、イギリスからはナイトの爵位を授けられ、フランスからは名譽あるレジオン・ドヌールの勳章を授けられてゐる。しかも彼は、この兩國の敵方に彈丸を賣りつけて、兩國の數多の忠勇な兵士を殺してゐるらしい。兩國から與へられた名譽は、

さうした間接の虐殺への皮肉な感謝のしるしでは勿論なくして、彼がオクスフォードとソルボンヌ兩大學へ新講座設置の基金を寄付し、またフランスへは「バルザックの如く書く作家」への賞金を寄贈したからである。

さて、そこまでは大した謎ではないが、謎であるのは、世に出るまでの彼の生涯である。第一、彼は何處で生れたかも知られてゐない。數年前に「カレント・ヒストリ」誌がそれを問ひ合

彼の傳記作者ドイツ人ロバート・ノイマンの非常な努力にも拘らず、今日のところではまだ彼の誕生の地も生年も明らかにされてゐない。ノイマンは彼自身を文學的探偵になぞらへてゐる。

(一七) 數

學

〇算術 〇代數 〇幾何  
〇三角 〇高等數學

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
おもしろい 數の神秘	林 正一	・八〇	〇二二三	ナウカ社 神田
續 數學讀本	井出彌門	一・二〇	〇二五〇	古今書院 同
補習 微分學	今野武雄	二・〇〇	〇三三〇	友社 同
きつとすきに 數學なる根本的講義	佐川安宣	四・五〇	〇四六〇	敬文社 麹町
新 高等實用數學	北村友圭	三・〇〇	〇四〇〇	高岡本店 神田
〔三〕 月				
高等 微分積分學	岡田良知	三・八〇	〇四二〇	内田老鶴園 日本橋
岩波 講座 數學(二十八)	岩波茂雄		〇六册入	岩波書店 神田
〔四〕 月				
高等 立體圖學	市浦健	三・三〇	〇三三〇	内田老鶴園 日本橋
平面幾何學演習	秋山武太郎	三・五〇	〇三六〇	共立社 神田
平面幾何學演習	關口雷三	三・八〇	〇三三〇	同 同
統計的法則の根據	宗藤圭三	非	〇一三〇	弘文堂書房 同
補習 算術問題新選	帝國數學會	三・三〇	〇六六〇	西東社 同
同 幾何問題新選	同	三・三〇	〇六六〇	同 同
同 學習女子算術	同	三・三〇	〇六六〇	同 同
同 受驗問題新選	同	三・三〇	〇六六〇	同 同
初級の代數講義	岩間綠郎	・八〇	〇二八〇	同 同
師範大 數學教育	宮邊富次郎	非	〇三册入	建文館 牛込
鐵道 會計	平山孝	二・五〇	〇五三〇	鐵道書院 日本橋
〔五〕 月				
實用珠算の彈き方	芳野國雄	一・三〇	〇二三〇	東洋出版社 東京
代數受驗の合鍵	松岡文太郎	一・二〇	〇二〇〇	青野書店 日本橋



書名	著譯者	定價	頁數	發行所
新定算術の使命と其の實際方案	山中孫一	二・五〇	〇四三	南光社 神田
消防組織小論	岡村周美	非	〇三五	株式會社 刷奈良
應用數學の土臺幾何の基礎から△へ	椎尾 調	三・三〇	〇二冊	裳華房 麹町
高等數學講義	松村宗博	三・〇〇	〇三九	内田老鶴圃 日本橋
〔六月〕 輓近高等數學講座 實驗算術の原理と實際	吉江琢兒 外一名 森 三郎	非 二・五〇	〇二箱入 〇三三	共立社書店 神田 厚生 關 麹町
會計事務管理應用 證憑式會計と傳票の作り方	宇原義豊	一・六〇	〇一六	森山書店 神田
産業組合會計	徳永一之丞	一・五〇	〇三四	高陽書院 同
〔八月〕 岩波數學(三〇)講座			〇七箱入	岩波書店 神田
新修輓近高等數學 學講座(二七) 立體解析幾何學	三村征雄	非	〇一七	共立社書店 同
新修輓近高等數學 學講座(二五) 詳論				

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
新修輓近高等數學講座一 初等微積分學	高木貞治	同	〇二四	共立社 神田
〔十月〕 絶體微分學概要	松村宗治	二・三〇	〇二五	内田老鶴圃 日本橋
高等數學總括	野村武衛	二・三〇	〇二五	培風館 神田
電氣高等數學入門家 (微積分篇)	大河内治	三・〇〇	〇三九	コロナ社 小石川
〔十一月〕 算術の心理學	ダソイケン 永野芳夫譯	二・五〇	〇四一	モナス 小石川
商業簿記學 師範教育講座 理科教育 一三	寺澤正雄	三・〇〇	〇三四	雄風館書房 本郷
唯物論數學論 全書數學	今野武雄 ウ・アイン ピラン・ド	非 五箱入	〇三五	建文館 牛込
定積分表	編者 功部	一・八〇	〇七七	岩波書店 同
無線用數學	谷村 功部	三・〇〇	〇四六	誠文堂 同

著者の國外出版

革命前に於ける西班牙出版書籍の對米輸出は平均一年六千萬部を降ることがなかつたに拘らず、昨(一九三五)年の調査に於ては實に千二百萬部に激減してゐる。國內出版物の増加はほとんど三倍に近い状態なのに、どうした理由に歸因するものであらうか。それについて、ラファエル・ヒメネス・シレス氏は語る『その最も主たる原因は世界經濟界の不振であり、國際政局の危機であるが、その他に見逃すべからざる原因は西班牙に於て出版されたる著書が、そのまゝ、直ちにアメリカに於て刊行されること、著者の知らないうちに、出版されてゐることも度々だといふことである。勿論、著者が承諾して、アメリカと西班牙との二ヶ所から同時に出版することも、近來急激に増加してきてゐる。しかし、たとへ著者としては印税にして損をしないとしても國內出版業のために、國産保護のために著述家はよろしく國內に於て出版すべきである』と。だが、發行部數その他の條件がよければ、この國外出版の傾向は降下せず、随つて對米輸出は益々減少の他なからうと言はれてゐる。日本に於ても爲替關係に不利な外書輸入業者は外國の著者と契約しては如何。各方面を益することと思ふ。

新修輓近高等數學 學講座(二七) 立體解析幾何學	中川餘吉	非	〇三七	共立社書店 神田
數學史研究(第一輯)	小倉金之助	二・三〇	〇三四	岩波書店 同



長尾景弼氏の贊碑

東京書籍商組合二代目の組長（明治廿二年—廿四年）博聞社社長尾景弼氏の贊碑が向島木母寺（梅若堂）の境内堂に向つて右手に建てられて現存して居る、其の碑文は左の如くで、正面上部に「贊壘還」とある。

從二位勳一等伯爵土方久元篆額

長尾君諱景弼播磨人以印書發兌著及歿東京同業者相謀勒石垂不朽囑文於予  
嗚呼士之立業爲國開利而已君事予其一樂道之明治初君創博聞社予爲外史素不相識會君以事至局眉目溫秀言語愉愉從是往來驩其一當酒酣自叙曰吾龍野藩士本股野氏竭力所仕藩廢至京稟有三百金耳僑愛宥下抄官令定期布印其活如掃始知活版有大益乎治道迺設解築地鑄字印刷欲兩利并舉拮据方苦雖然世路猶行山失於前而得於左右不足憐也遂徙銀座坊廓張規模遭薩肥亂因復困頓不敢屈撓比亂熄事既整所主在頒布法令朝野賴便其業駸駸旺盛致貳巨萬不敢自有糜諸工費凡鑄版刻鏤彩色印刷之事有利卽試刻意闡究所開其多竟無蓄蓄君寬厚沈毅工思縝密處事公正精粗兼宜時都下書肆立約結合圖通便益未能克諧推君爲長君君勉匡糾洗鋤樊根截然就矩人稱其能因留任四期獲病而退僉愛惜之贈銀瓶以表功廿八年二月六日病漸不起年五十有六

從五位勳五等 久米邦武撰

正四位勳三等 櫻井能監書

廣群鶴刻

明治廿九年七月

東京書籍出版營業組合有志者建之

(一八) 理 學

〇〇物理 〇〇動物 〇〇植物 〇〇化學  
〇〇礦物 〇〇天文 〇〇地文 〇〇地質

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
天體の話	渡邊精一	一・五〇	〇三三	小石川
開花植物繁殖法(上)	田中諭一郎	二・〇〇	〇三四	明文堂
實用農作物病害要説	ト藏梅之丞	七・五〇	〇三六	西ヶ原刊行會
最新アミノ酸製造法	木下淺吉	三・〇〇	〇三三	木下醸造研究部
生物統計學	上田常吉	六・〇〇	〇五七	岩波書店
航空機ニ關スル外國特許要覽(五)	林守雄		△二〇三	日本學術會
ゴム及びエボナイト配合(押出機篇)	森山藤吉郎	二・〇〇	〇一四〇	厚生會
養鶏生産物の利用及加工法	佐々木	一・八〇	〇三三	西ヶ原刊行會
現代化學概觀	中瀬古六郎	二・〇〇	〇三六	カニヤ書店
生物學精義	岡村周諦	六・五〇	〇三四	文堂
ソヴェト科學の達成	大竹博吉	三・〇〇	〇三七	ナウカ社
富民協會本山考古	末永雅雄	非	〇三六	岡書院
世界及生物の起源と終滅	石井重美	二・〇〇	〇四六	白揚社
人類の起源	大知達雄	一・五〇	〇四二	同
昭和十年太陰位置表	水部	・五〇	〇四一	水路部
濠青道表面病理工法	山本亨	二・〇〇	〇一五	都市工學社
エネルギー使用法	ビトキン	一・五〇	〇四三	實業之日本社
内植物原色(十一)	村越三千男		△一六九	植物原色大圖鑑刊行會
外大圖鑑	喜多卯吉郎	一・〇〇	〇七	紡織雜誌社
ハイドラフトの理論と實際	山本正英	四・五〇	〇六五	朋文堂
實用園藝	伊藤純一郎	非	〇六〇	植物文獻會
Species Plantarum 1	同	非	〇六一	同
科學から觀た人生	中西準太郎	一・五〇	〇二四	文松堂出版部



書名	著譯者	定價	頁數	形體	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	形體	發行所
熱電子管(三)	伊藤庸二	三・三〇	〇	三〇	小石川	滿洲博物篇	小川運平	一・五〇	〇	二七	北岐學會
新編高等無機化學	岩永源作	三・五〇	〇	三〇	神田	通信生命保險數學	佐藤峯太郎	二・三〇	〇	三三	生命保險會
家畜衛生學要攬	田中丑雄	一・六〇	〇	一六	本郷	現象學の問題	高階順治	二・〇〇	〇	三三	數學會
新改森林家必携	本多靜六	二・八〇	×	五〇	淀橋	應用寫真化學	長口宮吉	四・〇〇	〇	三七	鈴木昇
世界發明物語	大道弘雄	二・〇〇	〇	一八	大阪	日本動物誌(3)	伊藤純一郎	非	△	三三	植物文獻會
色彩學通論	佐藤昌二	二・五〇	〇	二五	下谷	家畜去勢法	境野惠佐	二・五〇	〇	二五	成美堂書店
纖維素及び其誘導體の研究	中島正一	一・五〇	〇	二五	大阪	藤澤博士遺文集(上)	高木貞治	非	〇	三三	藤澤博士會
耶馬溪彦山地方の植物景觀	竹内亮一	一・〇〇	〇	六	大分	高等建築學(上)	柳澤彰	非	〇	三三	常磐書房
高等化學總括	橋本吉郎	二・七〇	〇	二九	神田	メタン瓦斯講話	南種康博	二・〇〇	〇	三六	成美堂書店
高等動物學	飯塚啓	四・八〇	〇	六六	龜町	氣象學(上)	岡田武松	三・五〇	〇	四四	岩波書店
商店陳列家具設計圖集	平岩敏二	三・七〇	△	五〇枚	牛込	基本圖案學	金子清次	一・八〇	〇	一七	共立社
乳と乳製品の物理學	齋藤道雄	四・八〇	〇	四四	赤坂	搾乳衛生	池田錫	一・三〇	〇	一七	有誠堂書店
物理學要論(下)	一瀬正己	三・三〇	〇	四三	神田	日本住宅建築のコツ	喜多島勝司	非	〇	三三	喜多島勝司
城宮渦巻ポンプ	宮城番五郎	三・五〇	〇	三九	日本	積算電力計の取扱及接続方法	福田正輔	八・五〇	×	一六	オーム社

書名	著譯者	定價	頁數	形體	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	形體	發行所
建築寫真類聚九ノ七	高梨由太郎	一・三〇	〇	五〇枚	牛込	日本水産學	雨宮育作	三・〇〇	〇	二九	西ヶ原刊行會
新物理學講義	東京理學會	三・〇〇	〇	五九	神田	少年少女科學は語る	ウバツシ	二・三〇	〇	二四	永吉書房
防空の科學	保科貞次	一・八〇	〇	三〇	目黒	上高地及び梓川水系の水棲動物	杉浦淺一	三・〇〇	〇	二六	岩波書店
内外植物原色大圖鑑(六)	村越三千男	一・三〇	×	一三	神田	蘭科植物の栽培	岡見勇男	二・五〇	〇	二六	誠文堂
成形圖說(四)	鹿兒島藩藏版	五・〇〇	〇	六三	澁谷	光化學(前編)	柴田雄次	五・〇〇	〇	四三	裳華房
内外植物原色大圖鑑(十一)	村越三千男	一・三〇	×	二二	神田	高等家事物理學	造賀常一	三・三〇	〇	三三	培風館
眼鏡と眼鏡	坂原愛治	二・五〇	〇	五〇	本郷	高等物理學提要(上)	大島久次郎	二・八〇	〇	三三	高岡本店
風神・雷神	杉山一之	一・〇〇	〇	二六	板橋	内外植物原色大圖鑑(七)	村越三千男	一・三〇	〇	一八	植物原色大圖鑑刊行會
最新高等手藝染色法	青木良吉	二・〇〇	〇	三一	大森	洋風住宅外觀集(一)	高梨由太郎	一・三〇	〇	一八	菊野吾洋社
物理學(上卷)	脇本臺治	二・〇〇	〇	二六	龜町	染料化學講義	田中宗愛	二・〇〇	〇	三〇	富山房
實驗生物學魚類の集成(四)	川本信之	二・八〇	〇	三六	本郷	新高等物理學(下)	出射榮	四・〇〇	〇	四六	丸善株式會社
圖解定理分析化學	河村文一	二・七〇	〇	三六	澁谷	地震とその研究	石本巳四雄	三・三〇	〇	三六	古今書院
鳥獸調查報告(七)	農林省畜産局	〇	〇	一六	龜町	天文學通論	關口鯉吉	三・八〇	〇	四二	地人書館
最新寫真科學大系一	編輯部	〇	〇	二册	神田	越前國敦賀郡植物誌	廣比岐	非	〇	三三	廣比岐



書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
物理學測定實驗	小山秀次郎	一・八〇	◎一五〇	前野書店	岩波動物學辭典	谷津直秀	三・〇〇	△二五三	岩波書店
最新物理學精義	堀口君子	三・八〇	◎一八〇	東京開成館	鳩	岡田彌一郎	〇・〇〇	△一三三	三省堂
自然科學十二講	高橋 惠	一・八〇	◎一六〇	科學展望社	原色新蝶類圖	松本 興	一・三〇	◎一三三	三省堂
生物學顯微鏡	石川光春	二・〇〇	◎一六〇	內田老鶴園	櫻の日本	佐藤太平	二・五〇	◎一四七	雄山閣
自習用 實習指針	石井勇義	四・〇〇	◎二五〇	文堂	內外植物原色大圖鑑(八)	村越三千男	〇・〇〇	△一六四	植物原色大圖鑑刊行會
原色東洋蘭圖譜	早田文藏	一〇・〇〇	△三六八	內田老鶴園	防災科震災	岩波茂雄	〇・〇〇	◎三七七	岩波書店
植物分類學(二)	鷺見瑞穂	二・八〇	◎二四〇	養賢堂	最新化學講義(上)	極本竹治	四・三〇	◎一八三	新光閣
被子植物學	高木誠司	四・〇〇	◎二五二	日本藥報社	綜合自然科學	向坂道治	二・八〇	◎二七〇	敬文堂
實驗生物學集成(五)	同	二・〇〇	◎一九〇	同	一般物理學	小林辰男	五・〇〇	◎一八六	華房
定理分析化學(上卷)	同	二・〇〇	◎一九〇	同	高等物理學	三村剛昂	二・八〇	◎一四四	中文館書店
定理分析化學(下卷)	同	二・〇〇	◎一九〇	同	昆蟲學講話	大形繁	一・五〇	◎一四六	同
日本昆虫大圖鑑	松村松年	一〇・〇〇	◎一五〇	刀江書院	昆蟲插話	石井辰郎	〇・八〇	×二七五	三笠書房
小動物教材研究	福井玉夫	二・五〇	◎一三〇	培風館	有機化學要說	越山季一	三・〇〇	◎一三三	內田老鶴園
無機化學要說	越山季一	二・七〇	◎二八〇	內田老鶴園	內外普通脊椎動物誌	秋山蓮三	三・五〇	◎一三六	受驗研究社
わが有機化學(上)	山岡 望	三・〇〇	△一五二	同	有機化學要說	越山季一	三・〇〇	◎一三三	內田老鶴園
生活理化(下卷)	山岡修治	二・八〇	◎一七〇	精華房	內外植物原色大圖鑑	村越三千男	〇・一八	〇	植物原色大圖鑑刊行會
天文星空通路	武者金吉	二・三〇	〇	大勝館	ウエルズ生命の科學	小野俊一	二・八〇	◎一六七	凡社
地文航海學	酒井 進	三・八〇	◎一八〇	萬山房	氣象と人生	藤原咲平	〇・七〇	〇	岩波書店
解說と獨逸シエ	有坂光雄	三・六〇	◎一七〇	帝國軍用會社	昆蟲と氣候	素木得一	三・八〇	◎一三八	養賢堂
寫眞我がラジオの文	平塚七六郎	一・〇〇	〇	ラデオ科學社	岩波有機化學	漆原義之	〇・八〇	×二四八	同
物理學小論	田幸彦太郎	三・五〇	◎一六〇	前野書店	昆蟲と氣候	素木得一	三・八〇	◎一三八	同
物理學本論(上)	本多光太郎	二・五〇	◎一七〇	內田老鶴園	岩波原子物理學概論	菊池正士	〇・八〇	×二二七	岩波書店
水理學解說	丹羽健藏	一・三〇	◎一三〇	鐵道圖書局	防災科學	水災と雪災	岩波茂雄	〇・五二	同
名勝及天鳳來寺	梅村甚太郎	二・〇〇	△一五〇	梅村甚太郎	鳥類寫生圖譜	小泉勝爾	△四枚	鳥類寫生圖譜刊行會	
然記念物山植物誌	椎名其二譯	一・五〇	〇	叢文閣	理論化學要說	越山季一	三・〇〇	◎一三〇	內田老鶴園
昆蟲記	同	一・五〇	〇	同	氣象學	同	〇・三〇	同	
訂動物學概說	同	三・〇〇	◎一八〇	成美堂書店	同	同	〇・三〇	同	
氣象常用表	影井剛介	一・五〇	◎一三〇	氣象學會	同	同	〇・三〇	同	

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
無機化學要說	越山季一	二・七〇	◎二八〇	內田老鶴園	昆蟲學講話	石井辰郎	〇・八〇	×二七五	三笠書房
わが有機化學(上)	山岡 望	三・〇〇	△一五二	同	有機化學要說	越山季一	三・〇〇	◎一三三	內田老鶴園
生活理化(下卷)	山岡修治	二・八〇	◎一七〇	精華房	內外普通脊椎動物誌	秋山蓮三	三・五〇	◎一三六	受驗研究社
天文星空通路	武者金吉	二・三〇	〇	大勝館	有機化學要說	越山季一	三・〇〇	◎一三三	內田老鶴園
地文航海學	酒井 進	三・八〇	◎一八〇	萬山房	內外植物原色大圖鑑	村越三千男	〇・一八	〇	植物原色大圖鑑刊行會
解說と獨逸シエ	有坂光雄	三・六〇	◎一七〇	帝國軍用會社	ウエルズ生命の科學	小野俊一	二・八〇	◎一六七	凡社
寫眞我がラジオの文	平塚七六郎	一・〇〇	〇	ラデオ科學社	氣象と人生	藤原咲平	〇・七〇	〇	岩波書店
物理學小論	田幸彦太郎	三・五〇	◎一六〇	前野書店	昆蟲と氣候	素木得一	三・八〇	◎一三八	同
物理學本論(上)	本多光太郎	二・五〇	◎一七〇	內田老鶴園	岩波有機化學	漆原義之	〇・八〇	×二四八	同
水理學解說	丹羽健藏	一・三〇	◎一三〇	鐵道圖書局	昆蟲と氣候	素木得一	三・八〇	◎一三八	同
名勝及天鳳來寺	梅村甚太郎	二・〇〇	△一五〇	梅村甚太郎	岩波原子物理學概論	菊池正士	〇・八〇	×二二七	岩波書店
然記念物山植物誌	椎名其二譯	一・五〇	〇	叢文閣	防災科學	水災と雪災	岩波茂雄	〇・五二	同
昆蟲記	同	一・五〇	〇	同	鳥類寫生圖譜	小泉勝爾	△四枚	鳥類寫生圖譜刊行會	
訂動物學概說	同	三・〇〇	◎一八〇	成美堂書店	理論化學要說	越山季一	三・〇〇	◎一三〇	內田老鶴園
氣象常用表	影井剛介	一・五〇	◎一三〇	氣象學會	同	同	〇・三〇	同	



# 本讀事工電氣

著者 池田榮一氏 序 伊藤奎二氏 工學博士 文部省建築課

大きさ…横 5 寸, 縦 7 寸 頁數…各冊 170 頁内外  
 表裝…厚紙表紙美裝 冊數…全 三 冊  
 申込金不要 内容見本 無代送呈

- 第一編 「配電と法規編」 定價 80 錢 郵税 6 錢
- 第二編 「材料と機器編」 定價 1 圓 郵税 8 錢
- 第三編 「工事と配線圖編」 定價 1 圓 郵税 8 錢

昭和十年十月から電氣工事人取締規則が施行せられることになつた爲め今後は電氣工事人免許試験に合格しなくては資格が貰へなくなつた。

本書は電氣工事人取締規則に掲げられてある試験項目に従つて電氣工事人の免許試験合格を目標として執筆した最適の参考書である。

内容は平易、尋常小學校卒業程度の知識で容易に理解出来る様、又電氣材料及機械器具の實物を知らない者にも諒解出来る様多くの挿圖で説明してある。

電氣工事人の資格を有する人でも本書によりて再認識しなくては時代に後れる。

◎是非獎めて下さい、賣れること請合ひ◎

發行所 **オーム社** 東京神田區錦町 大阪北區堂ビル

電氣會社及其關係者に呼びかけると無駄なく賣れる

電氣屋並ラチオ屋さんに見せると必ず賣れる

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
パラデ植物生理學	大賀一吉 禎	セ〇〇	〇七六	内田老鶴園 日本橋
趣味の植物採集	牧野富太郎	一五〇	〇二六	三省堂 神田
昆虫記	アブリン	一五〇	〇二六	三省堂 神田
人生動物學	椎名其二郎	四〇〇	〇二六	裳華房 神田
本邦の動物界に於ける野兎病の研究	大原八郎	三〇〇	〇二六	大原病室 神田
岩波 東亞植物	中井猛之進	〇六〇	〇二六	岩波書店 神田
海藻の化學	大谷武夫	三〇〇	〇二六	岩波書店 神田
圖説植物の繁殖生活	富士川 正一	一八〇	〇二六	岩波書店 神田
裏から見た地球	岩井 清	一五〇	〇二六	鳴鳳社 神田
圖説藥用植物	石井傳一	一五〇	〇二六	鳴鳳社 神田
レニンと自然科學	西山森太	三〇〇	〇二六	厚生閣書店 神田
動物學通論	阿部余四男	二八〇	〇二六	三省堂 神田
青いレンズ	杉田平十郎	二〇〇	〇二六	新科學社 下谷
小植物教材研究	松原益太	二五〇	〇三六	培風館 神田
犬正しい飼方と病氣の手當	板垣四郎	二五〇	〇三六	培風館 神田
雲表縦走	佐治正次郎	一八〇	〇三六	三省堂 神田
科學界の偉人	吉松虎暢	二〇〇	〇三六	裳華房 神田
昆虫記(四)	アブリン	一五〇	〇三六	裳華房 神田
増補 日本産魚類圖説	椎名其二郎	六〇〇	〇三六	裳華房 神田
人類學雜誌帖	谷口虎年	一三〇	〇三六	大地書院 府下
ウエ生命の科學(五)	小野俊一	二〇〇	〇三六	仁誠堂書店 四谷
水の知識	松田良身	一五〇	〇三六	社會教育協會 日本橋
養生と藥性より見たる動物の研究(下)	東方 籌	二〇〇	〇三六	金鷄學院 小石
自然科學動物寫眞	星 三郎	三〇〇	〇三六	教育資料協會 小石
日本化學總覽 第五卷	眞島利造	三〇〇	〇三六	日本化學協會 京橋
自然科學ト學術叢書	黒澤 惇	三〇〇	〇三六	日本化學協會 京橋
自然科學ト學術叢書	大早野川 勲	一三〇	〇三六	社會教育協會 神田

理學



同	行政學會編方	同	渡邊香治編	同	同	同	行政學會編方	內務省編	文部大臣官房編	農林・商工大臣官房文書課編	記内閣官房編
現行令規全集	現行學令類纂	鐵道工程及乘車便覽	會計法規輯覽	實例判入市制町村制及府縣制	逐條索引租稅判例總覽	現行神社法令類纂	現行兵事法令類纂	健康保險關係法規集	文部法令彙纂	農林商工法令輯覽	現行法令輯覽
各府縣別に發行す	各府縣別に發行す	全菊判一加除册式	全菊判二加除册式	全菊判一加除册式	全菊判一加除册式	全菊判一加除册式	全菊判三加除册式	全菊判一加除册式	全菊判二加除册式	全菊判三加除册式	全菊判十加除册式
		二・五〇	二〇・〇〇	八・〇〇	五・〇〇	六・〇〇	一〇・〇〇	八・〇〇	一八・〇〇	三八・〇〇	八〇・〇〇
		・二一	・五七	・三三	・三三	・三三	・六九	・三三	・四五	・六九	三・二一四
番三一京東替振・一ノ七西座銀區橋京市京東											
行發會學政行方地國帝											

月刊 雜誌	大阪中央放送局編	東京中央放送局編	日本放送協會編	日本放送協會編	日本放送協會編	平塚七六郎著	柴田一能著	玉置船晃著	福井眞琴著	長井眞琴著	廣瀬一著	島田一著	秋月胤繼著	飯島忠夫著	曉島敏著	河野省三著
放送	こと	野菜篇	肉類篇	衛生篇	家庭衛生	我がラジオの父	持法華問答	觀音經禮讚抄	觀心報恩品	梵網經抄	先松生規七則講話	中廣士規七則講話	大廣士規七則講話	孝經講話	太聖子十七條憲法講話	建國史話
一年部 三四八錢	再教育	定價一圓七十錢・送料各十四錢 定價一圓三十錢・二冊共二十二錢	定價一圓五十錢・送料各十四錢 定價一圓五十錢・二冊共二十二錢	定價一圓三十錢・送料各十四錢	定價一圓三十錢・送料各十四錢	定價一圓三十錢・送料各十四錢	定價一圓三十錢・送料各十四錢	定價一圓三十錢・送料各十四錢	定價一圓三十錢・送料各十四錢	定價一圓三十錢・送料各十四錢	定價一圓三十錢・送料各十四錢	定價一圓三十錢・送料各十四錢	定價一圓三十錢・送料各十四錢	定價一圓三十錢・送料各十四錢	定價一圓三十錢・送料各十四錢	定價一圓三十錢・送料各十四錢
一年部 二四四錢	ラヂオ科學	谷村功著	關英男著	日本放送協會編	全國ラヂオ商工人名錄	ラヂオ一〇〇問一〇〇答	ラヂオと計算	技術試驗解答集	技術試驗解答集	技術試驗解答集	技術試驗解答集	技術試驗解答集	技術試驗解答集	技術試驗解答集	技術試驗解答集	技術試驗解答集
一年部 四四三錢																
日本放送出版協會 振替東京49701番 電話銀座707番																

麹町區内幸町  
一丁目幸ビル





學書の御用は

金原 へ  
カネ ハフ

新刊・改版書の一部

著者	書名	定價	送料
古屋芳雄	醫學統計法の理論と其應用	三・八〇	一四
古畑種基	血液型の文獻集	五・〇〇	一四
山田詩郎	内科醫學臨牀の爲に	四・〇〇	一〇
國際醫學協會編	國際醫學講演錄(第一輯)	二・〇〇	一〇
大崎仲丸	在診ポケット型體溫表實用	一・八〇	〇
荒井實	臨牀諸検査一覽表	三・〇〇	〇
藤井尙久	對症診斷より治療まで	五・五〇	一〇
大里俊吾	對症診斷より治療まで	五・五〇	一〇
調來助	光線療法	四・五〇	一〇
東恭則	外科臨牀の爲に	四・五〇	一〇
安井修平	實驗產科學	八・〇〇	一三
吉松駿一	新婦人科學	八・五〇	一三
内村良二	對症小兒科學	四・〇〇	一〇
萩原省三	小兒傳染病の豫防學	一・〇〇	〇
徳永覺二	皮膚科類症鑑別の實際	三・〇〇	一〇
石谷嚴一郎	下疳と横痃	三・五〇	一〇
土宅鑽一	眼科暗室検査法	一・五〇	〇
三宅鑽一	精神病学餘歴	四・五〇	一〇
杉田直樹	神經衰弱症(臨牀解説)	二・〇〇	一〇

[詳細なる醫學書總目錄呈上]

醫學書出版 株式會社 金原商店  
醫事醫學雜誌發行  
醫科器械製作販賣

東京市本郷區湯島切通坂町21  
電話小石川 3840, 4322, 5903  
振替口座東京 3 5 3 5

大阪市西區江戶堀上通2ノ42  
電話土佐堀2413 振替大阪6463  
京都市上京區丸太町西詰  
電話上4114 振替大阪29619

世界地理掛軸

日本地理掛軸

軸壹拾全

×兩半球圖 ×亞細亞洲圖 ×支那全圖 ×南部亞細亞洲圖 ×歐羅巴洲圖 ×西歐羅巴洲圖 ×阿弗利加洲圖 ×北亞米利加洲圖 ×亞米利加合衆國圖 ×南亞米利加洲圖 ×大洋洲圖

軸壹拾全

◎關東地方圖 ◎奧羽地方圖 ◎本州中部地方圖 ×近畿地方圖 ×中國四國地方圖 ◎九州地方圖 ×沖繩羣島地方圖 ×北海道樺太地方圖 ◎朝鮮地方圖 ◎大日本總圖 ×兩半球圖

尺九・三横尺三・五縱 軸縱◎  
尺九・三縱尺三・五横 軸横×  
錢拾五圓四 軸各價定  
圓 貳 價特大

岩垂憲徳

日支文化交渉史

送特價一、三〇  
價一、二〇

日向正善

式軟テニスの理論と戰術

送特價一、三〇  
價一、二〇

岡澤武

智的の生活講義

送特價一、三〇  
價一、二〇

星兵三郎

易い孝經評解

送 價 〇、六〇

柳井道民

英文新論語選

送特價一、〇〇  
價一、〇〇

長谷川正道

國民百々集

送 價 〇、四〇

人生地理

守屋荒美雄著

◎御覽下さいましたか

動的世界地理の主唱者(此の隨筆的地理教科書界の覇者)の一大快著を

布製洋裝紙箱入四六豪華版  
紙數四五〇頁挿繪畫二五〇個  
アイト紙ブリニューラック刷  
定價値に 金貳圓八拾錢

院書國帝 三ノ一田神西・田神京東  
(京東座口替振) 番四一〇七六



# 東雲堂新刊圖書

尋常小學マンガ國語讀本	尋常小學マンガ算術	增訂自漢和新辭典	知識日常寶典	新式日用辭典	模範書翰辭典	社交挨拶式辭と演說
-------------	-----------	----------	--------	--------	--------	-----------

東雲堂編輯所編  
規格判色刷一〇〇餘頁 尋常一、二學年  
卷一、二、三、定價各金二十五錢 送料六錢

東雲堂編輯所編  
規格判色刷一〇〇餘頁 尋常第一學年  
卷上、下、定價各金二十五錢 送料六錢

後藤朝太郎先生編  
四六版新編總ポイント組六百七十餘頁  
定價 上 八十錢 並 五十錢  
送料各 金 十二錢

東雲堂編輯所編  
ポケット型美本 紙數四百餘頁  
定價金 參拾錢 送料金四錢

東雲堂編輯所編  
ポケット型美本 紙數四百餘頁  
定價金 參拾錢 送料金四錢

東雲堂編輯所編  
ポケット型美本 紙數四百餘頁  
定價金 參拾錢 送料金四錢

八三九

東京市保神田區目 株式會社 東雲堂 振替 東京 三二九

# 箏のふほん

## と歌本

## 和樂器一式

カタログ  
御報進呈

東京市日本橋區浪花町

## 博信堂 樂器出版部

電浪花 67 四七〇二  
振替東京 二七四一〇  
支店 大阪 名古屋

八三八



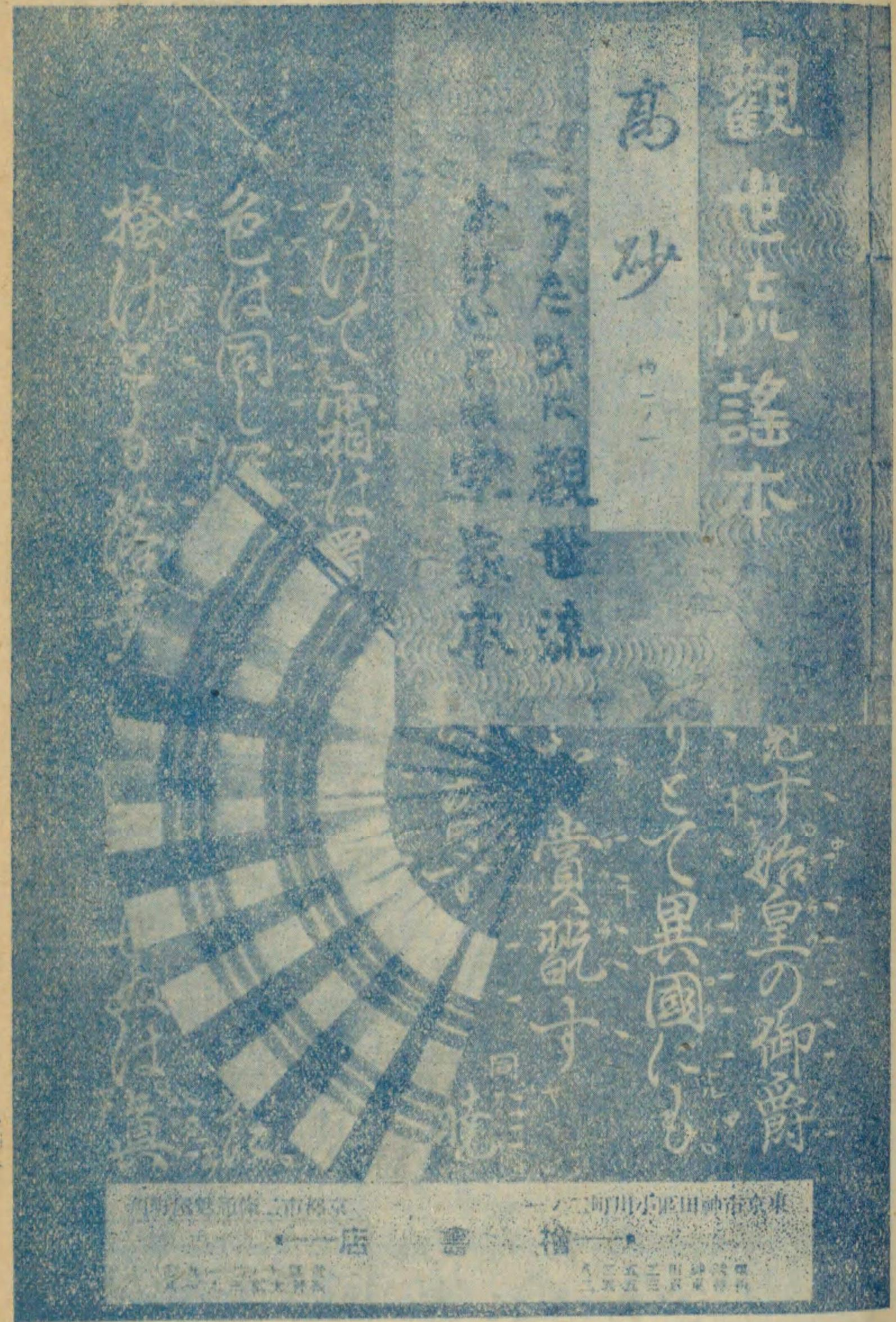
絶対に追隨を許さぬトウシン社の經營書!!

商 店 經 營 全 集

- |    |             |       |
|----|-------------|-------|
| 1  | 商店經營の能率     | 上野陽一  |
| 2  | 合理的な販賣計畫    | 栗屋義純  |
| 3  | 商店の會計       | 太田哲三  |
| 4  | 新時代の小賣形態    | 伊藤重次郎 |
| 5  | 團體的商店經營法    | 福富恒樹  |
| 6  | 商店の改善策      | 萬田一治  |
| 7  | 店頭の外交販賣     | 倉本長治  |
| 8  | 現代の商人道      | 渡邊玄   |
| 9  | 陳列裝飾の要領     | 中里研三  |
| 10 | 最も効果的な廣告と宣傳 | 長岡逸郎  |
| 11 | 顧客應待の訓練     | 相原壽   |
| 12 | 仕入のコツと狙ひ    | 山下貞次  |
| 13 | 店員の指導と訓練    | 山田正治  |
| 14 | 經營苦心三十年     | 相馬愛藏  |
| 15 | 商店と商業組合     | 大島永明  |

賣れる店のやり方 中外商業新報社 福富恒樹著 四六判 一圓五十錢  
 商店繁昌讀本 明治大學講師 栗屋義純著 四六判 六十六錢  
 お得意倍加一ヶ年計畫 西下貞次著 四六判 一圓二十錢

金儲け無手勝流 山崎武久著 四六判 一圓二十錢  
 海の生命線南洋 三井捷平著 一圓三十錢  
 發行所 トウシン社 東京市東區神田區下町三番

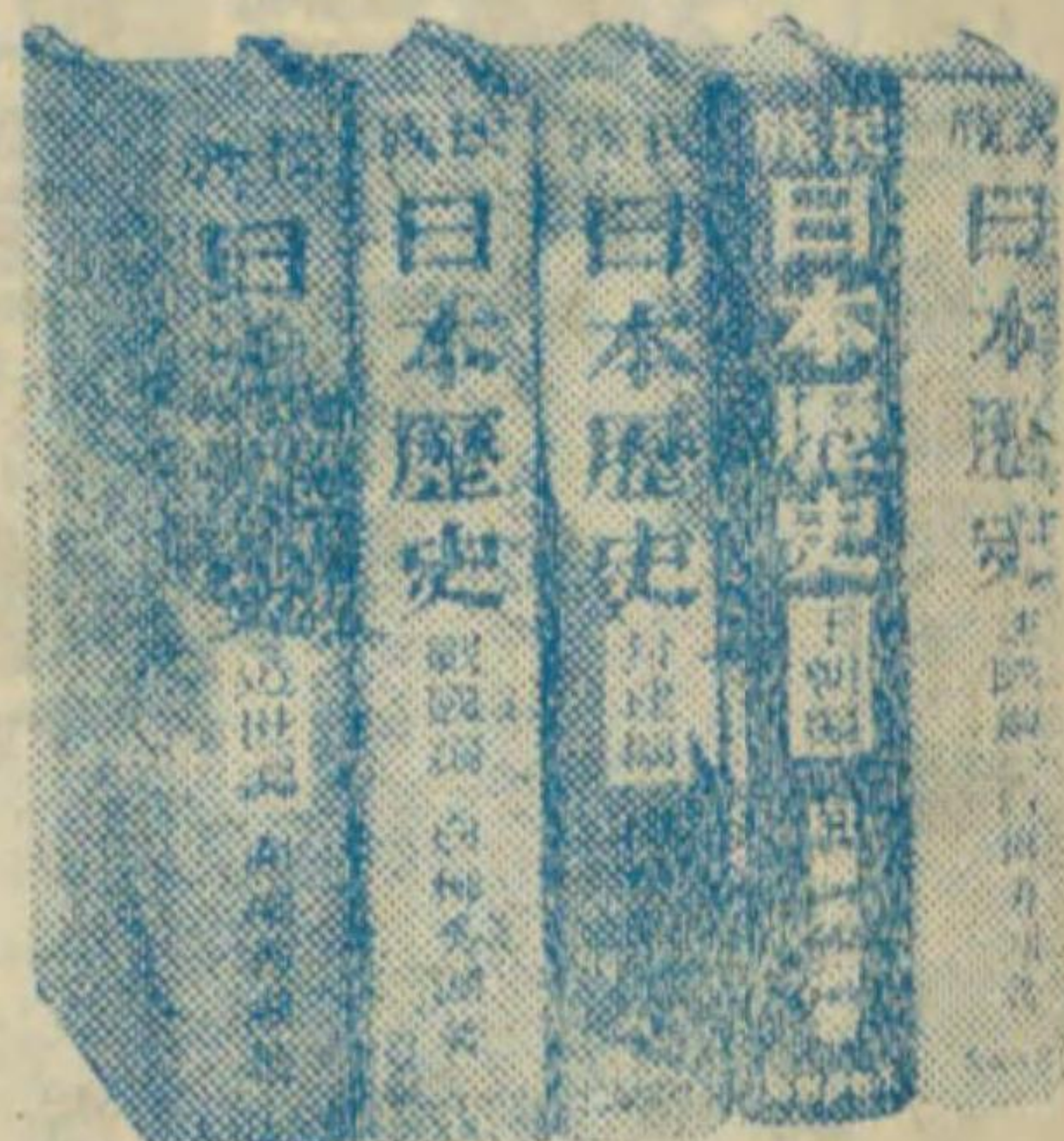




昭和大史豪名之遂完成す

# 民族 日本歴史

白柳秀湖著



**現代人の日本歴史、遂に現代に甦生す。**

この歴史は、藝術以上の藝術、科學以上の科學だ。各時代の人間の姿が、見事なる山脈のうねりを描ける如く、雄渾なる思想と感情とが、冷徹・又、各時代の如く、生活と思想と感情とが、冷徹・又、緻なる史眼を以て、解き流し、民族の生命が、ど見よ、三千年の時空を流し、民族の生命が、ど教訓と暗示と希望と反省の素材を、ほしきまに撮取せしめてあるのだ。

建國編	王朝編	封建編	戰國編	近世編
-----	-----	-----	-----	-----

各冊分買自由  
各價一圓十五錢  
送料各二十錢

東第一 京相 橋本 千倉書房 振東 替京 八七九

八十三

# 教育東西南北

日本の教育界の 熾烈な新面貌

- ★ 定價二十錢 送料一錢 一年二圓四十錢
- ★ 辛抱づよい 教育者が語る經驗談
- ★ 地方に光る 時代的教育經營物語
- ★ 隠れたるほんたうの學校探訪記
- ★ 現代を指導する熾烈な教育事實
- ★ 教授主事校長若集る

## 綴り方俱樂部

兒童文藝の美化！ 美！

★ 全國小學校に讀者を有する實に五萬餘！

★ 日本兒童文藝は一路健康へ改質された！

★ 永遠に子供を生かす母乳のごとき雑誌！

定價三十錢 送料一錢  
一年 一圓八十錢  
半年 三圓六十錢

★ 兒童詩 北原白秋選評  
★ 兒童文 千葉春雄選評

八四二

あなの方 なたさ のおどろ 様子ぞ

東京市麹町區六番三  
振替東京二六二番四  
**東宛書房**





優良参考書精選

東京神田區司町二 振替東京四七七〇七 司書院

市河三喜序 堀川三四郎著	新編英文解釋法	定送 1.50 .08
林鶴一序 林昌平著	代數學重要整理と問題集	定送 1.50 .08
天野一之丞著	代數の講義(上)	定送 1.30 .06
同	代數の講義(下)	定送 1.50 .08
同	平面幾何の講義(上)	定送 2.30 .10
岡田實廣共 神戶榮著	自修英文法作文教本 <sup>初級</sup>	定送 1.50 .10
同	自修英文法作文教本 <sup>上級</sup>	定送 1.30 .08
山田巖著	英文法の講義	定送 2.00 .10
商業教育編 研究会編	學習英文商業文新研究	定送 1.50 .08
同	學習最新商業簿記研究(上)	定送 1.80 .10
山田寬著	最新外國貿易實踐提要	定送 1.20 .06
パイロット社 編輯部編	新模範英和單語集	定送 .40 .04
同	新模範和英單語集	定送 .40 .04
同	新模範英語熟語集	定送 .40 .04
スプリング ノート刊行會編	明快ノート(既刊十九冊)各冊	定送 .35 .04

八四五

學生參考書界唯一無二の寵兒!

優良虎の巻は  
パイロット詳解  
見明瞭讀了解  
カード式使用自在

ますます躍進のパイロット社詳解

類あつて比なき吾がパイ  
ロット詳解は今や名實共  
に日本一と推賞せられて  
居ります。

各種詳解約四百種出來  
たして居ります。評判よ  
御店には評判よき詳解を  
御常備下さいます様御願  
いたします。

商業英語 英文法 英作文 英語リーダス  
商業簿記 漢文 國語

八四四

〇一〇五一京東替振 社トツロイパ 區田神市京東  
二一三田神話電 四十ノ二町司



江口義雄著

四六倍判 三〇〇餘頁  
寫真圖版 五六〇餘個

▼定價・三圓八十錢  
▼送料・二十二錢

本圖解住宅建築設計の知識

建築費の計算、土地の選定、基礎工事より落成に至る各部門を詳述する新らしく家を建てる人の準備知識である。模範設計圖二百數十を示し、一々懇切平易を極めた一般住宅建築の虎の巻だ。

江口義雄著

菊判美装 二〇〇餘頁  
寫真圖版 一〇〇餘個

▼定價・二圓四錢  
▼送料・十錢

新築アパートの模範設計

近代人の感覺と生活様式を理解せずしてアパート建築の設計は至難である。本書は歐米の新様式と日本人の生活様式を研究綜合して新築を示し、下宿屋を改造して時代に適合せしめ、アパート経営法の實際的指導方法に及べり。

松平英明・本間五郎著

四六倍大判 三四四頁  
寫真圖版 五六〇餘個

▼定價・三圓八十錢  
▼送料・二十二錢

家相本位の住宅設計圖案集

運命を支配する科學的家相の神秘！本書は家相學と科學とを綜合研究して示せる住宅設計圖案である。一々實例を掲げて解説を付せる新しい住居論であり、實際的圖解式の指導書である。

京都市立第二工業學校  
建築裝飾科長 森

規矩郎著

▼定價・一圓八十錢  
▼送料・十圓四錢

左官壁の作り方

本書は著者多年の實地經驗を基礎とし、建築學生に、或は自分の家を建てる人の施工監督者のために、ものせらるる左官の施工法、技法指導書として、曾て未だ類書を見ざる無二の資料教材である。

運命學大成  
第二卷 岡本

陽著

▼定價・二圓三十錢  
▼送料・二十二錢

圖解指導家相と住宅

家相と生活とは深い哲學的根據がある。決して無視すべきでない事は吾等の日常に於て明白である。本書は誰にも解るやう平易に圖解本位の家を建てる人借家住ひの人に其簡易な改造法を詳述す

兒童讀物類は評定ある文化書房

三浦藤作者	少年西郷隆盛傳	栗原登著	子供のための	三、三〇
松本浩記著	少年フォード傳	同	日本美術家物語	三、三〇
志垣寛著	少年ナポレオン傳	同	世界美術家物語	三、三〇
三浦藤作者	少年ワシントン傳	同	發明發見家物語	三、三〇
松井宗一郎著	少年ニユートン傳	岡本瓊二著	總理大臣物語	一、五〇
内田庄次著	少年コロンプス傳	同	農村振興大地に働く人々	一、五〇
遠藤早泉著	少年フランクリン傳	同	商業振興街頭に働く人々	一、五〇
小林茂著	少年マクドナルド傳	同	工業振興工場に働く人々	一、五〇
蘆間圭著	少年ネルソン傳	三浦藤作者	空飛ぶ巨人	一、五〇
岡本瓊二著	少年エチソン傳	遠藤早泉著	八犬傳物語	一、五〇
蘆間圭著	少年ムツソリニ傳	岡本瓊二著	少年日清戰爭物語	一、五〇
遠藤早泉著	少年乃木大將傳	志垣寛著	少年世界大戰物語	一、五〇
岡本瓊二著	少年遊澤榮一傳	三浦藤作者	少年日本武勇傳	一、五〇
吉松祐一著	子どもの我等の帝都物語	蘆田圭著	少年源平盛衰史	一、五〇
木下徹著	カレンターの旅	同	エライ八歳・九歳・十歳・十一歳・十二歳のころ	一、五〇
金山秀一著	子供科學讀本	奥野庄太郎著	えらい十三歳の頃	一、五〇
	續正編		一年、二年、三年、四年	各三、三〇
			五年、六年生の文庫	各三、三〇

發行所 東京本郷區生町三 文化書房 (東京東區五七三番)



小林房太郎先生著

四六倍判六號四段組  
最上製函入 800頁

定價各拾圓

書留送料  
四十五錢

# 世界地名大辭典

世界地理の最高原據  
上・中・下卷完成發賣  
研究家必須の寶典として  
全國各地より注文殺倒！

本書の五大特色  
▲最新最要の取材  
▲純科學的な記述  
▲範圍の豊富正確  
▲簡易連絡的説明  
▲編輯法の斬新

本書はその規模、組織内容の充實全て  
の點に於て世界に類例なき大地名辭典  
である、地球上のあらゆる地名と地理  
を全三冊に壓縮せる本書は全世界の地  
理的知識の一大寶庫である。

索引出來！  
定價八圓  
稅四十五錢

今後の地理教育 東西四高師訓導共著  
價二圓五十錢 稅十四錢  
地形學原論 香川幹一著  
價三圓五十錢 稅十四錢  
生物地理學 井土梅吉著  
價三圓五十錢 稅十四錢

今後の國史教育 東西四高師訓導共著  
價二圓五十錢 稅十四錢  
勞作教育の理念と 東京小島小學校編  
其の實際經營 價一圓八十錢 稅十四錢  
學校・家庭・文明傳染病の話 本村・加藤兩醫學士共著  
價一圓 稅十錢

○三ノ一町保神・田神・京東  
番七五七五京東替振  
行發社光南

實踐究明の國史教育原論 池澤彦治先生著  
定價一圓三〇錢 稅十錢  
新日本の修身と訓練 野瀬寛顯先生著  
定價二圓五〇錢 稅十四錢  
飛躍日本の移植民地理 角井靖一先生著  
定價二圓五〇錢 稅十四錢  
集說國史指導案の新研究 各科教育研究會編  
定價二圓四〇錢 稅十錢  
一點凝視の讀方教育 沖山光先生著  
定價二圓 稅十錢  
女性は動く 小泉郁子先生著  
定價一圓八〇錢 稅十錢

本邦教育學說史 木村泰夫先生著  
定價一圓八〇錢 稅十錢  
明日の女性教育 小泉郁子先生著  
定價一圓八十錢 稅十四錢  
人間生活の教育 山本儀重先生著  
定價一圓六〇錢 稅十錢  
革新的修身教育原論 河野清丸先生著  
定價二圓五十錢 稅十四錢  
新定算術の使命と其の實踐方案 中野・山本兩先生著  
定價二圓五〇錢 稅十四錢  
新小學國語讀本指導案 卷一 岩瀨六郎先生著  
卷六 定價二圓五〇錢 稅十四錢

## 優良教育書は

東京・神田の

## 南光社へ

東京・神田・神保町一ノ三〇  
振替東京五七七五番

新裁縫研究(コート編) 松井和哥先生著  
定價一圓五〇錢 稅十四錢  
新女性の洋装 田中千代先生著  
定價二圓五〇錢 稅十四錢  
高一新家事教科書精說 石澤吉磨先生著  
定價二圓五〇錢 稅十四錢  
二高一新家事教科書精說 石澤吉磨先生著  
定價二圓五〇錢 稅十四錢  
尋常新圖畫學習指導案 泉節二先生著  
定價二圓七〇錢 稅十四錢  
小學新圖畫學習指導案 藤木源吾先生著  
定價二圓 稅十錢  
公開實驗に應用される趣味の理化實驗 定價二圓 稅十錢

新小學國語讀本指導精說 卷一 淺黄俊次郎先生著  
卷六 定價二圓五〇錢 稅十四錢  
今後の綴方教育 東西四高師訓導共著  
定價二圓五〇錢 稅十四錢  
高一新地理指導精說 佐藤保太郎先生著  
定價二圓五〇錢 稅十四錢  
二高一新地理指導精說 佐藤保太郎先生著  
定價二圓五〇錢 稅十四錢  
植物學講話 牧野・和田兩先生著  
定價三圓五〇錢 稅十四錢  
理化化學講話 倉林源四郎先生著  
定價五圓 稅十四錢







法學博士 高窪喜八郎監修 法律評論社編

# 法律年鑑

每年一回發行

四六判背革六號密植

第一卷	價九圓	第六卷	價九圓
第二卷	價八圓五拾錢	第七卷	價九圓
第三卷	價十圓	第八卷	價九圓
第四卷	價拾二圓	第九卷	價九圓五拾錢
第五卷	價十圓	第十卷	價九圓
		第十一卷	價八圓

各最近一個年間雜誌及新聞紙上に發表せられたる學說●判例  
●決議●訓令回答の要旨全部●著書●雜誌●諸統計●諸法令  
●裁判所職員●在野法曹●學校職員等法律に關する事項及純  
學理に涉るもの並に補助科學に關する事項をも集録し之を民  
法商刑法以下十部門に分ち精密なる目次及イロハ索引を附  
したるを以て最近一個年間の法律學說判例を一目して知り得  
べき良書なり

高窪博士監修 法律評論社編

## 法律學說要旨集

第一卷	價八圓	送料	內地 廿七錢	屬領 五十五錢
第二卷	價八圓	送料	內地 廿七錢	屬領 五十五錢
第三卷	價十三圓	送料	內地 卅六錢	屬領 七十五錢
第四卷	價六圓	送料	內地 廿七錢	屬領 五十五錢

法學博士 高窪喜八郎編

法律學說總覽(正) 民法商法 全貳十冊

法律學說總覽(續編) 民法七冊 既刊

法律學說總覽續編 商法四冊 既刊

破產法(上下) 定價各八圓

送料內地三十錢 屬領六十五錢

和議法(完) 定價八圓

送料內地三十錢 屬領六十五錢

發行所 法律評論社  
東市市神田區小川町三丁目二十八番地  
振替東京一六一六七 電話神田二七三二

藤井達吉先生著

(參百部限定出版再版絕對不可能)

# 達吉染織圖案集

〔內容〕

外箱圖案一・表紙圖案一・扉圖案三

本圖五十葉

(圖案十一圖)

特色

- 木版手摺十數度刷
- 應用範圍は廣汎
- 學校に圖書館に應接室に織元に外國人への贈物に到る處で大歡迎
- 比類なき超豪華版
- 染織圖案界の驚異
- 染織圖案界へ革命的衝動を與へる大圖案集

收められたところの本圖案五十葉六十一畫のオリヂナルは、染織の圖案と標識してはゐるけれども、裝幀に、  
印刷に、陶器に、刺繍に、硝子に、木工に、總ゆる工藝及圖案一般に應用して、いさゝかの遺憾のないもの  
ばかしの刀の切れたもの、紙質は、著者の郷土の山奥にて漉かされたものであり、木版また第一人者たる山岸  
紙の木の版から切れたもので、外箱の装飾品の装ひから、表紙から、扉繪から、まことに高尚にして、優雅な圖案集  
と、また家庭の趣味的な工藝家、一般手工藝家、及び廣く教育家、文藝家並に實際營業者の左右に必携  
の作家として推薦する所以である。

杉浦非水 先生著 非水創作圖案集一

全五十葉八十八圖何れも 定價拾八圓  
木版十數度摺の豪華本 送料內地五圓

八五三

發行所 東京市神田區小川町三丁目二十八番地 文雅堂

八五二



法學博士慶大教授 栗栖赴夫著

# 商法概論 總則篇

會社篇

◇改正商法の定本、實務家學生に推す◇

【東洋經濟新報一六三二號批評】本書が持つ特殊の最大なるものは、蓋し所謂講壇學徒の單なる机上空論的概念遊戯でない點であらう。著者は學者であると同時に熱心な實務家、それのみならず法技術家でない金融融通の實際に携る銀行家でもある。従て其の法規の解釋に方つて實際の調和を試みる。その見解を採らるゝ類論と實際との兼ねを以て、この商法改正の綱目も精神も近時大に問題とされてゐる。これを要するに及ぶも、新法の研究に及んで附録を以ては、極まる簡易書である。實務明家にとつては、便利なるは、

菊判上製 定價金三圓卅錢 送十八錢

八五四

增訂交通事故と賠償責任

判 事 佐瀬昌三著  
上製 ¥ 1.50  
六判 ¥ .12  
四價送

實踐倫理講話

中六教授 小林一原著  
上製 ¥ 2.80  
六判 ¥ .16  
四價送

論理學

文學士 共著 中島・松岳  
上製 ¥ 2.50  
六判 ¥ .14  
四價送

東洋哲學史概説

中六教授 見尾勝馬著  
上製 ¥ 1.80  
六判 ¥ .12  
四價送

新註妙法蓮華經

文學士 小林一原著  
上製 ¥ 4.50  
六判 ¥ .18  
四價送

# 大東京の表現地圖

地形社編  
▲横三尺六寸・縦二尺六寸  
▲A模造紙精密六色刷袋入  
定價金二十八錢  
(送料 四錢)

東京・日本橋・人形町角

われ等の市民地圖・新發賣!

この地圖一枚  
わが手にあらば  
大東京を縦横に  
駛驅するも易し

東都地圖界に定評ある地形社が新編圖表現法を應用した市街地圖にして特筆すべき内容は町名・地番の精細無比・交通・道路網の段階的展開・全市域の人家密集地帯の聚落地理學的表示等である。地圖製作上の要素たる正確・明瞭・鮮麗の三點を完備した「われ等の市民地圖」として好評絶頂なり。



事業用大東京白地圖	・三八・〇四
三十五區大東京區分地圖	一區・四五・〇二
ポケット型コンサイス東京地圖	・七〇・〇六
同	メガネ版
時局概要日滿支・展開地圖	・八五・〇六
同	近刊

# 地形社

七七六二七東京替振・一〇四五場茅話電

八五五



家事の良書専門出版!

著者	書名	定 價	送 料
日本女子大學校長 井上秀子 (文檢委員)	最新家事提要	4.50	(Sen) 24
	家政新論	3.00	18
	家事教育兒法提要	3.00	16
	家事經濟提要	1.50	10
東京女高師講師 松平女子 (文檢高等家事委員)	家事經濟要說	1.20	10
	高等家事經濟教科書上下	2.00 1.50	12 10
東京工業大學教授 菱山衡平 (文檢高等家事委員)	衣服材料の基礎知識	4.00	24
	家事衣類整理綱要	2.00	12
奈良女高師講師 中原イネ	最新割烹指導方案	2.50	18
	家庭實用支那料理	60	6
海軍師高木真一	精説榮養と食物	7.00	28
長崎醫大教授川上登喜二	最新榮養概論	2.30	12
醫學博士紺戸廉平	新育兒法綱要	1.50	10
醫學博士井口乘海	家庭看護法提要	2.40	12
醫學博士藤原九十郎	家事衛生要義	2.50	16
家事教授研究會	家事教授法要義	1.30	10
	最新家政學講義	7.00	28
	專攻科家事衣服論・食物論・住居論 高等科家事育兒論・看護論・經濟論 (各册)	1.00	10
山崎敏一	洗濯汚點拔磨物	1.50	10
文學博士深作安文	日本道德要義	1.50	10
大元茂一郎	簡明國民道德要領	1.30	10
	簡明教育大意	1.00	8
西村壽美子	贈答響應婚禮作法	1.10	10

八五七

發行所 東京四谷本村町二七  
振替東京六六二二一

文光社

店書黒目

臺河駿田神京東  
九〇八二京東替振

權威ある學習受験參考書

出版圖書目錄  
詳細內容見本

贈呈

發行所

書肆

文

修

堂

東京市神田區錦町壹丁目

電話 振替 東京 五八七八二三

前東京商大教授 米本新次三大名著  
好評噴々たる弊堂發行の著書は全國各中等學校に於いて指定參考書、或は準教科書として採用の榮譽を擔ひ絶讃を博してゐる。比類なき内容の充實さと、廉價とを以つて、その優秀を誇るものである。

改訂 英語の第一歩 五十五版  
四六判總、クロス上製、¥ 1.20  
530頁、挿繪豊富、葉付、〒 .12

英作文の第一歩 二十八版  
四六判總、クロス上製、¥ 1.20  
530頁、葉紐付、極美裝、〒 .12

英文法の第一歩 二十八版  
四六判、總クロス上製、¥ 1.20  
460頁、葉紐付、極美裝、〒 .12

理學士 藤村與市二大名著  
忽拾版  
學習受験 化學の第一歩  
四六判、總クロス上製、550頁、¥ 2.00  
圖版350個、三色版、寫真版、3頁、〒 .14

忽最新版刊  
學習受験 物理學の第一歩  
四六判、500頁、總クロス上製、¥ 2.00  
圖版、700個、別刷寫真三色、40頁、〒 .14

忽十版  
佐野一郎 田所正躬共著  
學習受験 力の英語  
四六版、總クロス、上製優雅 ¥ 1.60  
500頁、別刷寫真三色、一色16頁、〒 .14

八五六



大蘇芳年翁筆 (縦一尺三寸 横九寸)

うき 婦人風俗三十二相

極彩色オフセット十數度刷  
錦繪三十二枚目次一枚揃  
一組特價金六圓 畫帖一冊金八圓

芳年翁一代の傑作江戸三百年美人風俗を網羅したる寔に得易からざる作品で艶麗風雅のもの  
現今浮世繪は非常の高價であるべきを今回上記の廉價で頒つ事の出来るのは本堂の美術上の  
貢獻しようとする微意に外ならないのです是丈け揃つた婦人風俗錦繪は他になく錦繪中の白  
眉です

八田松籟編書

本書は一般世人の日常使用する語彙を集めた良書也。本書は近時の流行文字を採りて、簡便に書し、良書也。

新書体 ペン書翰日用文

ペン日用語辞典

活きた文例 軍人書簡文集

菊半截二百餘頁 定價金五拾錢 郵送料金四錢  
菊半截貳百餘頁 定價金五拾錢 郵送料金四錢  
三六判三百餘頁 定價金八拾錢 郵送料金四錢

發行所 東京市本町一丁目橋本區 網島書店 電話東京一四三二番

陸軍中將男爵 菊地武夫閣下題字 陸軍歩兵少佐 尾本 二校

教師と母の爲の心理學 中江順市郎氏著 價一圓二角 爲に、最も判り易く且つ科學的に説明す。師範專攻科用として好評  
教師と母の爲の哲學 中島義一氏著 價一圓二角 著者の千葉師範附屬主事時代の著にして好評十二版。日常生活を  
教育 貧しき子たち 寺田彌吉氏著 價一圓二角 曾ての名著推名校長の「生きる悲哀」にも劣らぬ教育哀話三篇。

世の教師、すべての親達に必ず讀まるべき國民讀本!!  
子供の育て方、躾け方の急所秘傳を教へる世界的に著名な二冊、本邦始めての完譯成る!! 正に壓倒的好評!!

最新刊 完譯我が子の美德  
ザルツマン原著 四六判美本三八八頁 價一圓八角 料一圓  
田制佐重氏譯 爲に、最も判り易く且つ科學的に説明す。師範專攻科用として好評

七十版 完譯我が子の惡徳  
ザルツマン原著 四六判美本三七八頁 價一圓八角 料一圓  
田制佐重氏譯 發行後間もなく文部省の認定書となりし名著。如何にすれば子供を惡徳ならしめるか、といふ皮肉にも辛辣な逆説法を用ひて全篇三十餘章に分ち、世の父母教育者への警告の文字を以て埋む。子蟹の横這ひを警むる親蟹の愚を學ばざる事にこそ、子供の躾け方育て方の秘奥があるのだ。十七版!!

發行 院書教文 東京市本町一丁目橋本區 網島書店 電話東京一四三二番



横に全世界に亘り、縦に人類史を貫いて、現代文明が有つ萬有知、一切識の巨大なる寶藏である。

# 大百科事典

全廿八卷完結

規畫 四六倍大判、七ボ四段組。一頁二千八百八十  
十字。每卷八百頁内外。(別刷原色版寫真版  
等百五十頁餘)  
裝幀 A 特レザークロース裝背金空押模樣上製  
B 背革角革天金背金堅牢豪華美本  
定價 A 金壹百拾五圓 (全廿八冊)  
B 金壹百四拾參圓 (大揃)

東京市日本橋區吳服橋三ノ五  
平凡社

電話日本橋(24) 二二二二  
振替東京二九六三九番 三五五五  
三五五五 九八七番

斯く完備せる大百科事典がかかる廉價にて提供せらるゝは世界の驚異であり日本出版界の誇りである。

## 我國最初の綜合的大辭典!!

# 大辭典

全廿四卷 定價冊一五圓  
豫約特價 四圓

四六倍大判一冊六五〇頁  
一頁二十一字詰三十六行四段組  
七ボ大收容活字數三千二十四字  
背革角革背金文字模樣天金  
クロース裝・明朗壯麗空色高級美本  
最高級單式オフセット印刷  
別漉淡肉色上質紙使用

全學界、讀書家の絶大なる期待、聲援裡に今や歩一歩、完璧無比の綜合的國語「大辭典」は日に日に完成への一路を辿りつつある。

綜合・總和

日本人が嘗て用ひまた現に用ひつゝある一切の「辭」を網羅する從て本辭典一部あれば、  
法律大辭典・國語辭典・隱語通語大辭典・政治外交大辭典  
漢和辭典・有職故實大辭典・故事成語大辭典・五體漢字大辭典  
動植物大辭典・經濟大辭典・但辭典・古語大辭典・歷史大辭典  
地名大辭典・人名大辭典・文法大辭典・辭典・音韻大辭典  
美術大辭典・音韻大辭典・宗教大辭典・醫學大辭典・商業大辭典  
方言大辭典・社會大辭典・科學大辭典・家庭大辭典・遊藝大辭典  
等々の用をも兼ね備へる事が出来る

從來の辭典は一人の編纂者とこれを助け  
る數人の助手によつて撰ばれたから、偏  
りがあり、解説が淺薄であり、脱漏があ  
り、勝ちだつたが、本辭典は、數百人の專  
門的權威者が、一語一語最も適切に模範  
的解説を與へてをる。尙新らしい試み  
として、語彙を原文から拾つた。現代  
用語にアクセントを附した。漢字の親字を音(漢  
音吳音宋音)で排列した。

一語一語の權威的解説

平凡社  
東京市日本橋區吳服橋三ノ五  
振替東京 二九六三九番



  
**ペンドリアルペン**  
 在庫豊富 新型頻出

**カタロク進呈**

営業名印刷の封筒又は押印にて御申込を乞ふ

- ▼寫 眞アルバム
- ▼レコードアルバム
- ▼寫 眞コーナー
- ▼全ネームタイトル

- ▼繪葉書アルバム
- ▼スタンプアルバム
- ▼全ネームタイトル
- ▼全ネームタイトル

単式、折疊式、クロス、セロフワン  
 金銀、………等々二十數種あり

**東京圖書印刷株式会社**

本店 東京 神田 萬世橋  
 出張所 満洲 奉天 青葉町

交學士坂井衡平著 <b>日本國民性の史的研究</b> 後藤照林大臣題字 石田傳吉著	文藝博士 羽太銳治著 <b>梅のもつ興國性</b>	哲學士 木村秀吉著 <b>哲學序說</b>	大日本學術協會主幹 岡田怡川著 平易に解 文檢教育大意	大日本學術協會主幹 岡田怡川著 平易に解 文檢國民道德要領	前文部省囑託 堀尾實善著 <b>教育の施設とその精神</b>	浦木金太郎著 小學校教員 系統的教科問題研究 受驗參考	長崎師範教諭 野口三郎著 <b>現代作文の基礎論と實際並に鑑賞</b>	帝國記壇協會長 渡邊彰平著 ウエーバーの英語壹萬暗誦法 法則による	東京女高師講師 松平友子著 <b>家專經濟讀本</b>	活版用紙として 岡本徳代著 新洋服
送定 四六判 五〇〇頁 料價 三〇〇	送定 四六判 寫眞多數 料價 一五〇	送定 菊判 三九〇餘頁 料價 二八〇	送定 四六判 四〇〇頁 料價 二〇〇	送定 四六判 四〇〇頁 料價 二〇〇	送定 四六判 三三〇頁 料價 一八〇	送定 四六判 五〇〇頁 料價 二五〇	送定 四六判 二七〇頁 料價 一三〇	送定 三六判 三〇〇頁 料價 一五〇	送定 菊判 三四〇餘頁 料價 一五〇	送定 菊判 插圖多數 料價 一七〇
日本手藝美術協會所長 新坂柴舟著 <b>手藝染色藝術</b>	醫學博士 羽太銳治著 家庭・學校 性教育の研究 資料と實際	吉村ヨシ子・吉村巖共著 <b>四季漬物二百五十種</b>	吉村ヨシ子・吉村巖共著 <b>四季飯物二百五十種</b>	吉村 巖著 <b>四季食用茸の培養</b>	飯塚芳松・飯塚稔共著 <b>仙人掌栽培の秘訣</b>	清浦信賢編著 岩田冠平編著 <b>書道秘訣集成</b>	梁山加藤延太郎編書 <b>ペン三體千字文</b>	梁山加藤延太郎編書 <b>草書便覽</b>	柳理佐藤隆一編書 趣味と實用 <b>ペン習字とペン畫</b> を兼ねたる	柳理佐藤隆一編書 <b>模範ペン習字</b>
送定 菊判 寫眞多數 料價 二五〇	送定 四六判 七〇〇頁 料價 三〇〇	送定 三六判 三四六頁 料價 一五六	送定 三六判 二六八頁 料價 一四八	送定 四六判 二八〇頁 料價 一五〇	送定 四六判 美裝本 料價 一七〇	送定 四六判 和製本 料價 一三〇	送定 三六判 美裝本 料價 一〇八	送定 三六判 三七〇頁 料價 一五〇	送定 四六判 美裝本 料價 一五〇	送定 菊判 折手本 料價 一七〇

**文書堂發行** 東京 東區 本町五丁目 番地  
 東京 神田區 本町五丁目 番地  
 電話 二〇二六



文求堂版支那語辭典

大阪外語教授 井上翠著  
井上ホケツト支那語辭典  
總インデックス紙刷型

井上日華新辭典  
縮刷版  
三六六頁

宮原民平・土屋明治共編  
支那破音字典  
四六半截型  
四百餘頁

佐々木微笑著  
日支書翰文辭典  
四六判・クロース  
製本・四一六頁

宮原民平・土屋明治共編  
支那國音字典  
全一冊  
三六六頁

東京市本郷二丁目二番地  
文求堂書店  
振替口座東京二一八番

東亞植物圖說一ノ一	中井猛之進	一・五〇	△	八春陽堂	日本橋	國民科學の成立	作田莊一	二・五〇	△	三五	弘文堂書房	神田
植物と傳説	松田修	二・〇〇	〇	四四明文堂	神田	動物の情愛	松下眞幸	一・〇〇	〇	三四	叢文閣	麹町
實驗生物學	柘植秀臣	三・八〇	〇	四九養賢堂	本郷	〔九月〕						
物理學通論	土井不曇	三・三〇	〇	三八中和會事務所	京橋	牧野植物集說上	牧野富太郎	非	△	四八	誠文堂新光社	神田
科學點景	寺尾新	七・〇〇	〇	一三時潮社	芝	化學戰の展望	小柳津政雄		〇	七	川流堂	麹町
天文や氣象の話	藤原咲平	一・三〇	〇	三八岩波書店	神田	化學戰の展望	有賀孝治	四・五〇	〇	四三	南江堂	本郷
馬學(種類篇)	久合田勉	三・六〇	〇	四四養賢堂	本郷	氣象學(下)	岡田武松	四・〇〇	〇	四二	岩波書店	神田
防災火災(五)			〇	三九岩波書店	神田	中等物理學講義	岡邦雄	三・八〇	〇	七三	三省堂	同
標準造園植物と配植	西田富三郎	三・〇〇	〇	三六明文堂	同	氣象の研究と其の應用	藤原咲平	三・三〇	〇	七二	三省堂	同
增補日本産魚目録	田中茂穂	六・〇〇	△	大地書院	東京府	植物形態學汎論	田原正人	五・〇〇	△	二三	華房	同
改訂類圖說至三	山本八州雄	一・〇〇	〇	一八叢文閣	麹町	昆蟲記(六)	アブリアン	一・五〇	〇	二一	叢文閣	同
近代科學の發達	岡邦雄	二・〇〇	〇	三一白揚社	神田	分析化學	太秦康光	三・八〇	〇	四九	工政會出版部	神田
自然科學史講話	石井勇義	三・五〇	△	誠文堂新光社	同	造園植物大圖說	上原敬二	五・〇〇	△	三〇	平凡社	日本橋
原色花卉類圖譜	田中薰	三・三〇	△	一八古今書院	同	應用理科要説	田中芳雄	四・〇〇	〇	六九	富山房	神田
地學寫眞	小野俊一	二・八〇	〇	三六平凡社	日本橋	化學構造ト生理作用	高瀬豊吉	一・五〇	△	二四	カニヤ書店	京都
ウエ生命の科學(六)												



書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
高等物理學提要(下)	大島久次郎	二・八〇	三〇〇	高岡本店	解説と獨逸シエ	シフオ	一・六〇	三〇八	帝國軍用大
綜合自然科學	向坂道治	二・三〇	一六〇	敬文堂書店	寫眞パート犬	フアユツ	一・六〇	三〇八	協成會
基礎有機化學實習法	森 武雄	二・九〇	二八一	昭 晃 堂	本邦礦物結晶圖譜一	伊藤貞市	一・六〇	△	大地書院
圖式靜力學(上)	大野 陳	四・〇〇	四三三	淀屋書店	物理學本論(下)	本多光太郎	三・五〇	三〇〇	内田老鶴園
〔十月〕					日本動物分類 第六卷第	山口英二	一・七〇	三〇〇	三省堂
高等物理學提要下卷	大島久次郎	二・八〇	三〇〇	高岡本店	同 第六卷第四・五・六編	佐藤隼夫	一・五〇	四〇〇	同
宇宙古代宇宙觀から	鈴木敬信	三・三〇	五七〇	恒 星 社	岩波文庫 動物發生學	大飼哲夫	一・八〇	三三七	岩波書店
膨脹宇宙觀まで	福田光治	三・五〇	三〇〇	山海堂出版部	改訂 新風景	竹内時男	一・五〇	一六三	三省堂
新興物理學	永田廣志	一・三〇	一七〇	白 揚 社	增補 生物學通論	大島正滿	四・五〇	七〇〇	富 山 房
唯物史觀講話(下)	戸坂 潤	一・八〇	三〇〇	笠 書 房	有機化學	佐伯 孝	三・〇〇	六三三	甲榮社出版部
全書 科學論	千谷利三	五・〇〇	四〇〇	華 房	日本 生態寫眞圖集	日本鳥學會	二・五〇	△	集林書房
解き換へられた	千谷利三	五・〇〇	四〇〇	華 房	鳥類	日本鳥學會	二・五〇	△	集林書房
重水素と重水	千谷利三	五・〇〇	四〇〇	華 房	〔十一月〕				
昆虫記(七)	アンブル	一・五〇	五〇〇	文 閣	昆虫記 八	アンブル	一・五〇	四〇〇	文 閣
話題の科學	アンブル	一・五〇	五〇〇	文 閣	新高等物理學(下)	アンブル	一・五〇	四〇〇	文 閣
解題新物理學	アンブル	一・五〇	五〇〇	文 閣		アンブル	一・五〇	四〇〇	文 閣

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所	
わが有機化學(下)	山岡 望	二・〇〇	△	二九	内田老鶴園	古典草木雜考	岡 不崩	三・八〇	三六五	大岡山書店
化學平衡論	岡山義雄	三・五〇	三九〇	工政會出版部	實驗用動物解剖學二	津崎孝道	九・五〇	三六八	金原商店	
瓦斯反應編	緒方信助	三・五〇	四〇〇	日東書院	植物と水	マキシモフ	五・〇〇	四三三	内田老鶴園	
高等物理學一般	長倉快一郎	四・五〇	四七〇	東洋圖書株式	唯論 現代物理學	石原 純	一・八〇	三三三	笠 書 房	
動物學汎論(下)	高瀬豊吉	一・五〇	△	一六	式合資會社	礦物學入門	吉村豊文	一・五〇	三三三	今 書 院
化學製造と生理作用(一〇)	高瀬豊吉	一・五〇	△	一六	式合資會社	日本天文史料	望月勝海	一・五〇	三三三	今 書 院
トオキイ技巧概論	高瀬豊吉	一・五〇	△	一六	式合資會社	日本天文史料綜覽	同	同	同	
要説化學分析法	大塚好治	一・八〇	三三三	京 極 書 店	遺傳子説	モルガン	三・八〇	三七七	綜合科學	
化學語要解	橋本吉郎	二・五〇	三三三	太陽堂書店	化學概説二(總論)	松浦一外	三・八〇	三七七	綜合科學	
植物成分研究法	宮道悦男	九・〇〇	七〇〇	南山堂書店	岩波全書 實驗遺傳學	白井俊明	二・三〇	三七七	岩波書店	
食用植物學	近藤 健三	九・〇〇	七〇〇	南山堂書店	天氣と天氣豫報	梶間百樹	一・三〇	一七三	古今書院	
〔十二月〕					流星の研究	小椋孝二郎	二・三〇	三三三	恒 星 社	
昆虫記(九)	アンブル	一・五〇	五〇〇	文 閣	日本天文史料	東京天文臺	一・五〇	四三三	丸 善	
天體物理學	關口鯉吉	一・八〇	三三三	岩波書店	日本天文史料綜覽	同	同	同	同	
生物學大觀	石川光春	二・〇〇	三三七	内田老鶴園						
岩波全書 六六光	木内政藏	一・八〇	三三七	岩波書店						



ローマ字の統一

明治廿八年以來過去廿二年間に互つて論争しつゞけてきた田中館愛橋博士を中心とする日本式ローマ字(日本ローマ字社派)と櫻井鏡二博士を中心とする標準式(ローマ字ひろめ會派)の兩派の綴方に最後の斷案を下すローマ字調査會第三次主査委員會が一月卅一日文相官邸で開かれた、出席者は委員長林博士以下三邊、添田兩文部次官、大橋法制局長官、吉野商工次官、新村京大教授、戸澤東京外語校長、岡倉田三郎、中目覺氏から各委員のほか、オブザーヴァとして日本式の總帥田中館博士、標準式の巨頭櫻井博士および阪谷芳郎博士出席、前二回の委員會に引續いて協議を重ねた結果、兩式とも一長一短あつて、いづれにも軍配をあげられぬとなし、兩者相歩み寄つて次の如き折衷案をつくり決定を見ることになつた、廿二年にわたるローマ字ひろめ會と、日本ローマ字社との氣の永い論争は、こゝに一切解決し、陸海軍では日本式を、鐵道省では標準式を、と云つた綴り方の不統一不便は全く一掃されることになつた。

折衷決定案

サ行 sa si su se so    タ行 te ti tu te to    ハ行 ha hi hu he ho  
 ザ行 za zi zu ze zo    タ行 da zi zu de do

サ行の「シ」タ行の「チ」「ツ」「ハ」行の「フ」ザ行の「ジ」はいづれも日本式を採用、一般に永年使ひ馴れた標準式の「シ(chi)」「チ(chi)」「ツ(tsu)」「フ(fu)」「ハ(hi)」は今後一切使はぬことになりタ行の「フ」は日本式の bu を廢して標準式を、また同じくザ行の「ヂ」は日本式 di 標準式 ji の兩者とも廢して新たに(zi)を發音は(n)で表はす

(一九) 醫學・衛生

○醫學○診斷○治療○藥學○生理

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
眼科診療新書	小柳美三	八・五〇	△四三	江 堂 本郷
茂木外科各論(中)	茂木藏之助	八・〇〇	△五六	南山堂書店 同
新纂看護婦學	長尾折三	五・〇〇	◎六五	南 江 堂 同
産婆開業術	久保五百吉	一・五〇	〇二七	同 同
法醫學提要	土井十二	二・八〇	◎二六	凡 進 社 京都
新撰看護學教科書	本庄快三	三・八〇	◎四三	南山堂書店 本郷
改訂新藥詳解	藥業の友社	八・〇〇	◎二九	藥業の友社 小石川
産婦臨牀鑑別	岩田正道	二・〇〇	△一四	克誠堂書店 本郷
人科診斷學(一)	大高 誠	四・五〇	△二六	南山堂書店 同
レントゲン	大高 誠	四・五〇	△二六	南山堂書店 同
小兒科學	山本康裕	四・〇〇	◎四三	南 江 堂 本郷
眼科診療の實際	庄司義治	三・〇〇	◎八六	南山堂書店 同
赤面恐怖の療法	森田正馬	二・五〇	〇三三	人文書院 京都
性的神經衰弱	長濱 繁	一・〇〇	×三五	實業之日本社 京橋
臨牀と榮養	織戸正滿	四・五〇	〇七六	吐鳳堂書店 本郷
基礎內科學	藤井尙久	四・三〇	◎三六	金原商店 同
日本耳鼻咽喉科學	久保猪之吉	二・五〇	△一六	克誠堂書店 同
圖解經穴學並ニ取穴法詳説	辰井文隆	四・五〇	◎四五	辰井高等鍼灸學院出版部 大阪
根管治療	檜垣麟三	二・〇〇	◎一八	齒 苑 社 本郷
細谷耳鼻咽喉科學	細谷雄太	七・五〇	◎五二	南山堂書店 同
藥理學(藥學生のため)	宮崎三郎	六・五〇	◎七九	柏泉書店 芝
簡明外科各論(上)	小川 蕃	七・〇〇	△三三	金原商店 本郷
病理學提要	大野章三	七・五〇	◎五九	南 江 堂 同
初學より合錢灸醫學	柳谷素靈	四・五〇	◎四三	半田屋出版部 同



書名	著譯者	定價	頁數	發行所
臟器藥品化學緒方	緒方章	八・〇〇	△五五	南堂
ボケ結核療養	高野六郎	三・〇〇	×一〇五	アールス
性的惡習と神經衰弱の新療法	長濱繁一	一・三〇	〇五八	實業之日本社
鍼灸大成	岸原鴻太郎	三・〇〇	〇一八	半田屋出版部
保健西式質疑	西勝造	一・〇〇	〇三六	大日本西會
瘵養應答集2	大澤一六	一・五〇	〇二七	荻原星文館
益軒養生訓	小田平義	非	△六六	醫學會
第二日本醫學會々誌	同窓會	六・五〇	〇六三	金原商店
稻田教授講演集(續)	高橋信美	八・五〇	△六三	吐鳳堂書店
外科總論	外三名	二・五〇	〇三四	二松堂書店
實不老強精の秘訣	山下頼尙	二・五〇	〇三四	二松堂書店
微生物學研究叢書5	小野獻吉	一・〇〇	△二四六	京都帝國大學內皮膚科
再熱熱-スピロヘ	石尾貞朝	三・五〇	×六三	京都帝國大學內皮膚科
常用新藥と處方	石尾貞朝	三・五〇	×六三	京都帝國大學內皮膚科
日本鍼灸學教科書(後編)	山本新梧	六・〇〇	〇〇	關西鍼灸學院

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
禿に關する研究	本村儀作	五・〇〇	〇七四	關山閣
新撰眼科學(上)	菅沼定男	九・〇〇	〇二五	南山堂書店
簡明看護學教科書下	星川長之助	二・〇〇	〇三八	金原商店
脊椎「カリエス」の診斷と治療	前田和三郎	二・五〇	〇一八	診療と治療社
學校應危手當看護法	延川靖	三・〇〇	〇二五	右文館
人體解剖圖譜	坂本貢	五・五〇	〇二九	東京高等鍼灸醫學校出版部
白木產科學後編	白木正博	四・五〇	〇二六	南山堂書店
Anatomischen Institutes der Kaiserlichen Universität Kyoto	舟岡省五	〇一六	〇一六	京都帝國大學醫學部解剖學教室第三講座
不老支那養生訓	深尾瀨人	一・〇〇	〇一五	成光館書店
新看護學下	平井文雄	四・八〇	〇六四	鳳鳴堂書店
糖尿病の自宅療法	加用信憲	一・三〇	〇二三	南江堂書店
治療法ヲ中小兒科心トセル臨牀	長尾美和外	×二二〇	〇二三	治療及處方社
結核治療の理論と實際	北原鐵雄	非	〇七九	アールス

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
齒科藥物學	佐藤運雄	五・〇〇	〇五五	齒科月報社
日本漢方學變遷史	小泉榮次郎	二・〇〇	〇五九	池村隆正
開腹術の前後(二)	松尾巖	三・〇〇	△三四	消化器病會
醫學煙草考	宇賀田爲吉	一・八〇	〇三三	隆章閣
本草學論攷(三)	白井光太郎	四・五〇	〇五八	春陽堂
醫籍考(四)	多紀元胤	一・五〇	〇〇〇	國本出版社
溫泉療養	酒井谷平	二・八〇	〇三七	一葉社
產科手術學會	磐瀨雄一	四元	△三四	同仁會
The Microphysiology of Nerve.	加藤元一	四・〇〇	〇二五	丸善株式會社
長壽法新論	石橋衛	一・〇〇	〇二八	醫海時報社
濟生家庭藥餌醫典	家庭藥餌研究會	一・〇〇	×二九	成光堂
盲腸炎に就て	渡邊祐五郎	五・〇〇	〇二二	法體質本
お灸の常識	中川清三	一・〇〇	〇二二	曲本堂
便秘	西勝造	二・〇〇	〇三〇	文光堂書店

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
防疫讀本	山口謹人	四・〇〇	〇八六	警察講習所
簡產婆試驗問答集	川口浩	二・〇〇	×五六	克誠堂書店
總義齒	矢崎正方	六・〇〇	△四三	齒科學報社
原色產婦人科顯微鏡圖譜	橋爪一男	一・八〇	△三八	南山堂書店
病理組織學を學ぶ人々に	緒方富雄	六・〇〇	〇六四	金原商店
育兒と治療より見たる小兒科學	和泉成之	三・八〇	〇四九	鳳鳴堂書店
比較組織學	大澤竹次郎	二・三〇	△一〇	克誠堂書店
健康保險法	清水玄	一・二〇	〇二七	日本評論社
性のめばへ	澤田順次郎	六・〇〇	〇三六	新興社
戀愛と性慾	同	六・〇〇	〇三〇	同
妊娠調節	同	六・〇〇	〇三〇	同
性のいづみ性典	同	六・〇〇	〇三三	同
婦人性典	福井正遷	八・〇〇	×三九	婦女界社



書名	著譯者	定價	頁數	發行所
教育政治の目標たる國民保健の研究	德村謙吉	一・三〇	〇一五六	國民身心會
日本羊齒類集第六輯	緒方正資	一〇・〇〇	〇三〇〇	三秀舎
安産讀本	佐久間兼信	一・五〇	〇三〇〇	婦人之友社
臨牀婦人花柳病學下	德永覺二	二・六七	〇三〇〇	金原商店
齒科最新人體解剖圖譜	伊藤好爲	九・五〇	△二八三	同
處女及び妻の性的生活	澤田順次郎	六・〇〇	〇三四	新興社
性交論及び性慾の新研究	澤田順次郎	六・〇〇	〇一三	新興社
性病寶鑑	賀川哲夫	八・〇〇	×三五四	婦女界社
獸醫外科手術學	福井正憲	四・八〇	△四二	克誠堂書店
內科學(第三卷)	南大曹	銀五元	〇三九	仁會
眼病圖譜	石原忍	一〇・〇〇	△	金原商店
齒科醫學用解剖學	津崎孝道	七・五〇	△三三四	同
新撰看護學全書上卷	唯居龍太	四・〇〇	〇六一	南山堂
藥學ラテン語	杉井善雄	一・三〇	〇二六	南山堂
小組織學	森於菟	六・五〇	〇二八	金原商店
教科用簡明小衛生學	宮川重嗣	二・八〇	〇一七八	同
醫學叢書四	及川周	二・八〇	〇一七八	同
中華民國醫事綜覽	小野得一郎	六・〇〇	〇四七五	同
最新助産婦學	川添正道	六・〇〇	〇六三	金原商店
小細菌學	竹内松次郎	四・三〇	〇三七	同
醫籍考(五)	多紀元胤	一・五〇	〇〇	國本出版社
人體解剖模型圖譜	長松英一	二・〇〇	△三七	金原商店
簡明外科各論(中)	小川蕃	七・〇〇	△三四	同
學校給食と獻立の榮養學	原徹一	三・五〇	〇四七五	三元堂書店
小外科總論	青山徹藏	七・〇〇	〇四八	金原商店
近內科臨牀診斷學	盛彌壽男	二・五〇	〇三三	同
世內科臨牀診斷學	額田晉	一〇・〇〇	△六八	同
樂堂古稀記念集	瀨尾一雄	非	〇五三	日新醫學社

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
小兒病學	清水茂松	六・〇〇	〇四九	南山堂書店
家畜細菌及免疫學	近藤正一	三・三〇	△二三	克誠堂書店
家畜病理學總論(上)	森田平治郎	三・〇〇	△	同
生化學提要	柿内三郎	六・五〇	〇五九	同
齒科レントゲン學	青木貞亮	六・五〇	〇三八	青木貞亮
日本耳鼻咽喉科學全書	久保猪之吉	三・〇〇	△二二	克誠堂書店
最新疫癘	伊澤爲吉	二・八〇	〇二九	同
肺病は斯くすれば治る	中村善雄	二・三〇	〇四九	江堂
簡明解剖學	伊澤好爲	二・〇〇	△四六	金原商店
最新子宮癌放射線療法ノ理論ト實際	白木正博	一・〇〇	〇九	南山堂書店
細菌及免疫學綱要	志賀潔	三・八〇	〇三三	同
改訂 鍼灸病理學	辰井文隆	四・五〇	〇三六	辰井高等鍼灸學院出版部
耳鼻と人生	横川讓	一・〇〇	〇二六	甲文堂書店
內科書(上)	坂本恒雄	一〇・〇〇	△八七九	南山堂書店
藥學ラテン語	杉井善雄	一・三〇	〇二六	南山堂
小組織學	森於菟	六・五〇	〇二八	金原商店
教科用簡明小衛生學	宮川重嗣	二・八〇	〇一七八	同
醫學叢書四	及川周	二・八〇	〇一七八	同
中華民國醫事綜覽	小野得一郎	六・〇〇	〇四七五	同
最新助産婦學	川添正道	六・〇〇	〇六三	金原商店
小細菌學	竹内松次郎	四・三〇	〇三七	同
醫籍考(五)	多紀元胤	一・五〇	〇〇	國本出版社
人體解剖模型圖譜	長松英一	二・〇〇	△三七	金原商店
簡明外科各論(中)	小川蕃	七・〇〇	△三四	同
學校給食と獻立の榮養學	原徹一	三・五〇	〇四七五	三元堂書店
小外科總論	青山徹藏	七・〇〇	〇四八	金原商店
近內科臨牀診斷學	盛彌壽男	二・五〇	〇三三	同
世內科臨牀診斷學	額田晉	一〇・〇〇	△六八	同
樂堂古稀記念集	瀨尾一雄	非	〇五三	日新醫學社
組織學總論	岡島敬治	二・八〇	△一四〇	吐鳳堂書店
生理學要綱	橋田邦彦	六・〇〇	△四三	富倉書店
茂木外科各論(下)	茂木藏之助	七・〇〇	△四九	南山堂書店
白木產科學前編	白木正博	三・五〇	△一四八	同
三浦診斷學	三浦謹之助	二・五〇	△一七〇	克誠堂書店
醫籍考	多紀元胤	一・五〇	〇〇	國本出版社
處方學	森島庫太	二・〇〇	〇一四	江堂
男生殖器圖解	高砂老人	一・〇〇	×一八	博榮堂書店
基礎內科學	藤井尙久	二・五〇	〇二五	金原商店
口腔疾患の臨牀病理學的展望	正木正	三・五〇	〇二五	齒苑
新撰眼科學(下)	菅沼定男	一〇・〇〇	△三八	南山堂書店
性組織學要義	杉本清治	一・五〇	〇二五	東明堂書店
組織學要義	平光吾一	七・五〇	〇四三	南山堂書店
日本耳鼻咽喉科學全書	久保猪之吉	三・〇〇	△一九	克誠堂書店



書名	著譯者	定價	頁數	形態	發行所
ターナー式 學校衛生評價	吉田章信	一・三〇	二〇〇	〇	中文館書店 牛込
マンク 社會病理學	高津 正	一・八〇	〇	〇	非 凡 閣 小石
内外新藥文獻抄總覽	井上廉太郎	二・五〇	△	二五〇	醫局及藥局社 大阪
組織 學	伊澤好爲	八・五〇	△	四七〇	吐鳳堂書店 本郷
精神病學餘瀝前編	三宅鏡一	四・五〇	〇	〇	金原商店 同
大新撰解剖學 七版改訂	大澤岳太郎	三・五〇	△	三三〇	江 堂 同
齒の衛生講話集	高津 戈	三・〇〇	〇	〇	日本口腔衛生社 大森
簡明鍼灸醫學	辰井文隆	九・五〇	〇	〇	辰井高等鍼灸學院出版部 大阪
新撰産科手術學	磐瀬雄一	五・〇〇	△	二九〇	南山堂書店 本郷
病因 診 候	藤村表英	四・〇〇	〇	〇	著活堂漢醫方習所 大阪
内科 診 斷 學	井上善次郎	一〇・〇〇	△	七五〇	吐鳳堂書店 本郷
性 鑑	吉田坦藏	一・五〇	〇	〇	同 文 館 神田
性 道	山田司郎	一・〇〇	〇	〇	工人莊書房 芝
加藤内科醫局報	眞田幸和	非	〇	〇	加藤内科醫局 宮城
齒牙組織圖說	花澤 鼎	八・〇〇	△	〇	齒科學報社 神田
神仙不老術	佐藤進一	一・五〇	〇	〇	大倉廣文堂 京橋
新撰看護學全書(下)	井上善吉	五・〇〇	〇	〇	南山堂書店 本郷
失 行 症	秋元波留夫	三・五〇	〇	〇	金原商店 同
醫用生物學(中)	正路倫之助	三・〇〇	△	三九〇	江 堂 同
家庭醫學全書	柿坂 茂	七・〇〇	〇	〇	平 凡 社 日本橋
醫 籍 考(八)	多紀元胤	一・五〇	△	三七〇	國本出版社 澁谷
産兒調節の新知識	太田武夫	一・〇〇	〇	〇	同 社 麹町

〔七月〕

書名	著譯者	定價	頁數	形態	發行所
養生と薬性より見たる動物の研究上魚介の部	東方 壽	三・三〇	〇	〇	金 羅 學 院 川石
景舊鈔本(第二集)	京都 帝國大學	非	△	三册 三册	京都帝國大學 京都
實驗血液學	佐藤 清	九・〇〇	△	三三〇	南 江 堂 本郷
骨折及脱臼	金井良太郎	三・五〇	〇	〇	克誠堂書店 同
性 道	山田司郎	一・〇〇	〇	〇	工人莊書房 芝
加藤内科醫局報	眞田幸和	非	〇	〇	加藤内科醫局 宮城
齒牙組織圖說	花澤 鼎	八・〇〇	△	〇	齒科學報社 神田
神仙不老術	佐藤進一	一・五〇	〇	〇	大倉廣文堂 京橋
新撰看護學全書(下)	井上善吉	五・〇〇	〇	〇	南山堂書店 本郷
失 行 症	秋元波留夫	三・五〇	〇	〇	金原商店 同
醫用生物學(中)	正路倫之助	三・〇〇	△	三九〇	江 堂 同
家庭醫學全書	柿坂 茂	七・〇〇	〇	〇	平 凡 社 日本橋
醫 籍 考(八)	多紀元胤	一・五〇	△	三七〇	國本出版社 澁谷
産兒調節の新知識	太田武夫	一・〇〇	〇	〇	同 社 麹町
下疳と横痃	徳永覺二	三・五〇	〇	〇	金原商店 本郷
不老長命の真相	佐藤 壽	一・五〇	〇	〇	三 弘 社 神田
國際醫學講演錄	林 秀二	二・〇〇	〇	〇	金原商店 本郷
レントゲン技術	武田俊光	三・三〇	〇	〇	鳳鳴堂書店 本郷
生殖器の研究	佐野龍閑	五・〇〇	〇	〇	金龍堂出版部 淺草
和漢草寶典(附栽培法)	荒井榮造	二・〇〇	〇	〇	醫學普及會 京橋
漢藥草寶典(附栽培法)	貝田好美	二・三〇	〇	〇	太 陽 社 牛込
どもりとその治療法	吉松駿一	四・〇〇	〇	〇	金原商店 本郷
吉 道(改訂版)	山田司郎	一・〇〇	〇	〇	工人莊書房 芝
性 道(改訂版)	山田司郎	一・〇〇	〇	〇	工人莊書房 芝
兒科診療 腦膜炎 及 腦炎	小 山 武 夫	一・六〇	〇	〇	診 斷 と 治 療 社 麹町
父兄の 兒童衛生 ための 治療マデ	岡田道一	二・三〇	〇	〇	中和會事務所 京橋
對應診療ヨリ	藤井尙久	五・五〇	〇	〇	金原商店 本郷
新撰内科治療法集成	岩井勝三郎	七・〇〇	〇	〇	江 堂 同
痢疫(靜脈内注射)	石橋長英	一・三〇	〇	〇	金原商店 同



書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
看護學(上)	佐藤邦雄	三・五〇	〇四九	吐鳳堂書店	是文は心得おくべし 性愛秘訣男女衛生	加藤美侖	一・三〇	〇二六	泰光堂書店
青年期少女の 科學的解剖	佐藤隆徳	一・五〇	〇三四	友生書院	家畜病理學總論(下)	森田平治郎	三・八〇	〇二四	克誠堂書店
日本病理學 昭和十年 學會誌第二卷	緒方知三郎	二〇・〇〇	△八〇	日本病理學會	兒科	中村政司	四・四〇	〇四一	仁會
實踐醫學叢書二	藤波剛一	三・〇〇	△一四七	藤波剛一	近世病理解剖學	今裕	六・八〇	△五七	南山堂書店
稻田教授講演集後編	同窓會	五・〇〇	〇五九	金原商店	產婦人科臨牀ノ實際	屋代周二	五・五〇	×四六	同
大日本眼科 全書七ノ二	中村廉	八・〇〇	〇八九	同	病理解剖各論(下)	佐藤清	四・〇〇	〇二八	同
皮膚及性病學	土肥章司	大洋五元	△三八	同	テイボオデ 批評の生理學	石川湧	一・八〇	〇二八	秋社
眼科暗室検査法	石原忍	一・五〇	〇八五	仁會	木下產科婦人科叢書 子宮外妊娠(三)	白木正博	二・三〇	〇三七	南山堂
臨牀醫學 近世齒科全書(一)	筒井八百珠	六・〇〇	×二〇二	江堂	圖說診斷學	西島義一	四・五〇	〇四三	結核雜誌社
齒牙解剖學	中川大介	三・〇〇	〇二六	齒科月報社	新醫化學實習	兒玉桂三	四・〇〇	〇四三	金原商店
外科補習講座	中田瑞穂	三・〇〇	〇二六	齒科月報社	癩に關する論文 (第一輯)	光田健輔	非	△一五	長島愛生園
療養と荒野を行く	村尾圭介	一・五〇	〇三六	不二屋書房	齒科醫學用藥物學	杉原德行	四・五〇	〇四三	金原商店
防及レントゲン線物 理學	藤本慶治	二・〇〇	△一五	昭文堂	病理解剖學(循環 器編)	小杉虎一	六・〇〇	△三四	同

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
東京帝國大學醫學部 醫學講義	茂木藏之助	八・〇〇	△六八	南山堂書店	性説疏義(上・下)	中島撫山	非	〇二册	中島晴臣
茂木外科總論	萩野久作	一・八〇	〇二九	同	內科診斷學	大里俊吾	二・〇〇	〇二八	南山堂書店
木下產科婦人科叢書 九 九婦人の受胎期(九)	齊藤次六	三・〇〇	〇七二	ヤナセ書院	日本耳鼻咽喉科學全 書(第二〇分册)	久保猪之吉	二・〇〇	〇三三	克誠堂書店
看護と家庭醫學	齋藤次六	三・〇〇	〇七二	ヤナセ書院	腹痛	福島博	四・五〇	〇四一	醫學界
學校文明傳染病の話	本村秀繼	一・〇〇	〇一五	南光社	內科處方ノ實際	河村敬吉	三・〇〇	×二六	南山堂書店
家庭文明傳染病の話	加藤治三	二・〇〇	〇二七	克誠堂書店	外科臨牀ノ爲ニ 調來助	奧村雅雄	五・〇〇	〇五五	金原商店
糖尿病と食餌計算	岩龍三	二・〇〇	〇二七	藤浪剛一	診療大觀(一)綜説編	醫學業續 研究會	四・五〇	△四二	敬文社出版部
實踐醫學叢書二	清水宗一郎	四・〇〇	△二六	藤浪剛一	疼痛ノ診斷	岩田穰	一・〇〇	〇一七	健康保險醫 社出版部
過去二四年間ニ於ケ ル我教室ノ子宮癌腫 治療成績	中川正路	非	△	大阪帝國大學 產婦人科教室	本邦健康保險の 醫學療批判	小林芳人	三・〇〇	〇二四	東西醫學社
日本醫藥動物	小泉清見	四・五〇	〇三三	丸山舍書店	藥理學實習講義	大谷仁兵衛	四・三〇	〇四三	同
齒科矯正學要義	大庭淳一	非	〇四七	小桐新太郎	臨牀最新知識第一輯	森茂樹	三・〇〇	△九三	江堂
臨牀兒科須知序論各 論	高洲謙一郎	八・五〇	〇六六	高洲謙一郎	實驗腫瘍學	鈴木茂樹	三・〇〇	△九三	同
日新產婆學(上)	土肥衛	四・〇〇	〇四四	日新醫學社	外科鑑別診斷學	茂木藏之助	八・〇〇	△六三	南山堂書店
結核豫防諸問題を 核治療正視す	渡邊範介	三・五〇	〇五三	人文書院	醫學レントゲン 學講義(三)	中島良貞	三・五〇	△二五	同
懷往時談	小泉策太郎	一・八〇	〇五三	中央公論社					



書名	著譯者	定價	頁數	形體	發行所
細菌學免疫學講本	中村 豊	六・八〇	〇	六八	克誠堂書店 本郷
病理組織學	川上 漸	四・〇〇	〇	一八四	大成書院 神田
遺傳と結婚	三宅 駿一	一・八〇	〇	三五	雄山閣 麹町
創傷及其療法	今井 喜孝	一・〇〇	〇	三五	雄山閣 麹町
日本 藥法之卷	茂木 藏之助	三・〇〇	〇	三五	南山堂書店 本郷
火術	西澤 勇志智	六・五〇	〇	六九	東學社 荏橋
内科醫臨牀ノ爲ニ	山田 詩郎	四・〇〇	×	四三	金原商店 本郷
木下産科婦人叢書	徳永 覺二	三・五〇	〇	三七	南山堂書店 同
婦人の外陰疾患	徳永 覺二	三・五〇	〇	三七	南山堂書店 同
血液型の文獻集	古畑 種基	五・〇〇	△	三〇	金原商店 同
最近藥局學摘要	三吉 豊久	五・〇〇	〇	四六	南江堂 同
女性ホルモン	中山 榮之助	非	〇	七	臨牀月報社 日本
と其の應用	中山 榮之助	非	〇	七	臨牀月報社 日本
結核の療友に捧ぐ	今村 基雄	一・二〇	〇	二八	福岡新生館 福岡
衛生學講義(前編)	横手 千代之助	四・〇〇	〇	五九	南江堂 本郷
去處 内科 補是	藤井 尚久	四・五〇	〇	四九	金原商店 同
醫學統計法の理論と其應用	古屋 芳雄	三・八〇	〇	二六	金原商店 本郷
精神病學餘瀝	三宅 鏡一	四・五〇	〇	五三	同
結核征服 認識篇	有馬 頼吉	一・五〇	〇	三四	塔英社 同
治療學摘要	板倉 武	四・〇〇	×	四一	克誠堂書店 同
電氣生理學	杉田 平十郎	三・五〇	〇	二七	新科學社 下谷
看護の實際	西川 義方	六・五〇	×	九六	南山堂書店 本郷
藥學獨逸語解釋研究	黒塚 壽一	二・八〇	〇	四二	太陽堂書店 神田
結核征服 看護篇	岡 壽郎	一・五〇	〇	三三	塔英社 本郷
流行性腦炎	飯村 保三	非	〇	四〇	日本醫事社 牛込
外科學(各論上)	飯村 保三	非	〇	四〇	日本醫事社 牛込
口腔外科診療の實際	遠藤 至六郎	四・五〇	〇	五九	齒科學報社 同
健康 國産イトオ	伊藤 金逸	非	〇	五三	伊藤社 同
人間醫學階梯	別所 彰	一・〇〇	×	三七	名會社學術部 同
藥學大辭典(アールウ)	松元 竹靖	三・八〇	△	五三	精常閣出版部 大坂

書籍仕上寸法標準

四六倍判	八寸五分	横縦
B列五番	六寸四分八厘	横縦
菊判	六寸四分八厘	横縦
A列五番	五寸三分	横縦
四六判	四寸八分三厘	横縦
四六判四十八取	四寸二分	横縦
菊半	五寸四分	横縦
四六半	三寸七分	横縦
菊四十取	三寸七分	横縦
	四寸三分	横縦
	三寸三分	横縦
	二寸八分	横縦

書名	著譯者	定價	頁數	形體	發行所
診病奇談	石原 保秀	三・〇〇	〇	一〇八	和漢醫學社 渋谷
校註 内科秘録	木村 長久	四・八〇	〇	四七	日本漢方醫學會出版部 京橋
日本藥理學文獻集	田村 憲造	非	〇	三三	田村憲造 本郷
婦人科醫上の性的實相	眞田 五郎	一・五〇	〇	三三	玄南書房 日本橋
生命保險醫學	高田 他家雄	四・五〇	〇	四四	南江堂 本郷
老衰の原因及其豫防	高田 他家雄	四・五〇	〇	四四	南江堂 本郷
	アールランド	二・五〇	〇	二八	同
	ローランド	二・五〇	〇	二八	同
	大平 得三	三・〇〇	〇	二八	同



日本耶蘇會の古刊本

日本耶蘇會刊行の古版本が近年内地各地で若干部發行せられたが、更に其目錄に新に三部を加へることになつた、第一は從來全く書名さへ知られなかつたもの、第二は書名だけ知られたもの、さうして第三は有名な長崎版で、これで同書は世界を通じて四部存在することとなつた。

學林に於てオルチナリー及びスベリオールの許可を得て、一六〇三年刊、本書は長さ十六センチ幅十センチ半、豚の皮の製本で、タイトル・ページ一丁、前付一丁、本文二百二十一丁、索引六丁、巻頭にも巻末にも白紙が三丁あつて双方第三丁目書入があるが、同一の筆蹟では無い。著者テマニユエル・サ(一五三〇年一五九六年)は葡萄牙ブラガ激區のピラ・ド・コノに生れ、北伊太利のアロナで死んだが、一時は羅馬大學で神學及び聖書の教授だつた。本書

はコンフェツソル即ち懺悔を聴く僧職の人々のために編集せられた案内書で一五九五年始めてベニスで出版せられ、爾後各地で數版を重ねたものである、書中に公教の教義に適はない文句があるといふので、本書を長崎で複刻したもの一六〇三年に禁書の中に加へられた。本書は今北平の「支那古耶蘇會員文庫」にある。文庫は普通人の閱覽を許さぬため、この貴重なる書類も現在まで知られなかつたのである。

(二〇) 商業・簿記

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
實際商業廣告	高橋 渡	一・〇〇	〇二六	高陽書院 神田
蠶絲業改善案要綱	中村 茂	非	△七	國家經濟研究所 麹町
新販賣工作十講	村本福松	一・五〇	〇三三	千倉書房 京橋
新興産業に關する調査	東京商工會議所	三	〇三三	東京商工會議所 麹町
銀行内容見方の常識	曲川居士	一・〇〇	〇四〇	實業興信所 愛知
對滿輸出業者營業案内	岸田脩一郎	非	〇二三	滿洲輸入組合 麹町
新東株賣買の研究	松本武夫	一・〇〇	〇二三	大同書院 大阪
商品の包装及取引單位	資源局	〇一五	〇一五	工政會出版部 麹町
生命保險外務讀本	藤本正雄	非	〇二五	日本生命保險株式會社 大阪
購買委員の葉	吉田 正	〇五	〇二五	全國購買組合 麹町
昭和九年の經營	山田忍三	非	〇二五	大日本海外會 中野
海外發展案內書	南米篇 三平將晴	〇三	〇三	大日本海外會 中野
産業平和への道	請川健藏	〇六	〇二七	請川健藏 世田
江戸に於ける米取引の研究	鈴木直二	非	〇三三	四海書房 豊島
新聞販賣の理論と實際	柚木元一	一・三〇	〇三五	新聞叢書發行會 澁谷
清水式吳服店繁昌策	清水正巳	一・八〇	〇三六	誠光堂 神田
商店位置と商店街の研究	杉本秋男	三・三〇	〇三九	同文館 同
生命保險に於ける癡疾特典	玉木爲三郎	〇三	〇三七	生命保險會社 麹町
西蔵の資源と邦品進出の可能性	天野健雄	〇二	〇二〇	東京商工會議所 同
日本工業品進出の技術的基礎	大宅莊一	一・〇〇	〇三七	萬有社 日本
チャーナリズム講話	大宅莊一	一・〇〇	〇三三	白揚社 神田



書名	著譯者	定價	頁數	形態	發行所
商業通論新講	向井梅次	二・五〇	〇二七	〇	森山書店 神田
職業指導二十講	増田幸一	二・三〇	〇三三	〇	三省堂 同
無盡實務講習録(上)	吉澤新作	二・五〇	〇四〇	〇	全國無盡所 同
働く商用文と經營の活路	香川清夫	二・三〇	〇三五	〇	文友堂書店 同
販賣心理の研究	青木庄左衛門	二・〇〇	〇三〇	〇	三笠書房 同
〔四月〕					
理論實際取引所概論	北崎進	三・三〇	〇四八	〇	明治大學出版部 神田
商業政策の新動向	河津暹	一・三〇	〇二九	〇	明善社 本郷
富山實業史々料集	上	〇二五三	〇三五三	〇	岡書院 神田
同 (下卷)	高岡高等商業學校	一・五〇	〇七五〇	〇	同 同
同 (索引)		〇一六	〇一六	〇	同 同
企業合同法の研究	大隅健一郎	三・〇〇	〇四〇	〇	弘文堂書房 同
商業組合の理論と實際	稻川宮雄	三・〇〇	〇三五五	〇	有斐閣 同
大阪商業史料集成	黒羽兵治郎	二・〇〇	〇二九八	〇	大阪商科大学経済研究所 大阪
〔五月〕					
無盡實務講習録(下)	吉澤新作	二・五〇	〇五一	〇	全國無盡所 神田
日本商標王	岩井良太郎	一・五〇	〇三六	〇	千倉書房 京橋
公共企業概論	小田桐正一	二・六〇	〇二七	〇	實文館 日本
商業算術提要	伊藤正一	三・八〇	〇四六	〇	巖松堂書店 神田
侵分と劫の研究	久保松勝喜代	△二・三	△二二	△	誠文堂 同
外國産業研究ニ關スル米國大家要覽ノ論文摘録	上野陽一	一・三〇	〇一八	〇	日本學術振興會 神田
農民救済の矛盾と商人層の没落	林平馬	三・〇〇	〇九〇	〇	日本講演社 赤坂
最新國稅徵收法精解	岡田直策	四・八〇	〇六三	〇	通日本信託社 神田
增訂貸借對照表科目解説	橋本良平	一・〇〇	〇一四	〇	同 同
日ソ貿易要覽	上田半治郎	一・〇〇	〇二四	〇	日露通信社 同
商業組織論	平野常治	二・八〇	〇三〇	〇	時潮社 芝
藥種商藥品學	東學院製	三・八〇	〇三五	〇	東京製藥學院 本郷

書名	著譯者	定價	頁數	形態	發行所
進展し行く我が通商陣	赤松祐之	〇四〇	〇二二	〇	日本國際協會 神田
商工業帳簿案内	芳野國雄	一・五〇	〇三〇	〇	千倉書房 京橋
〔六月〕					
東京府銀行職員録	野口眞正	六・〇〇	〇二九〇	〇	銀行職員録發行所 赤坂
經營學貿易統制研究	日本經濟學會	二・七〇	〇三三	〇	同 神田
協同組合研究	緒方清	二・五〇	〇四三	〇	同 同
株式戰術	安田與四郎	一・二〇	〇二七	〇	ダイヤモンド出版株式會社 同
企業統制の諸問題	目崎憲司	二・五〇	〇二七	〇	同 同
銀行業務上の事故と其豫防對策	竹内恒吉	一・八〇	〇三〇	〇	銀行協會 大阪
商品の鑑定を語る	小原龜太郎	一・三〇	〇二九	〇	高陽書院 神田
商業經營學通論	平井泰太郎	一・五〇	〇三〇	〇	千倉書房 京橋
商業經濟講話	猪谷善一	一・九〇	〇三三	〇	三省堂 神田
〔九月〕					
最新外國爲替實務誌	大槻爲八	四・五〇	〇六九	〇	同 同
訂内外商業政策(上)	小林行昌	三・八〇	〇五九	〇	丸善株式會社 日本橋
新聞廣告總覽	光永眞三	三・〇〇	〇一九	△	新聞廣告會 京橋
世界商業史綱要	佐伯三郎	三・五〇	〇四四	〇	甲文堂書店 大阪
産業日本の精銳百會社	荒木利一郎	二・〇〇	〇六九	〇	大阪毎日新聞社 同
商業組合の設立と經營	西垣實一	一・五〇	〇三三	〇	大同書院 同
小資職業相談	豊原又男	非	〇三三	〇	東京府職業介紹所 小石川
〔八月〕					
經營會計學	西垣富治	二・〇〇	〇三三	〇	同 同
商業簿記概要	伊藤正一	一・八〇	〇二二	〇	巖松堂書店 同
株式投資の基礎	東京書籍合	非	〇三三	〇	東京書籍事務所 同
銀行業務上の事故	井尻固一	一・八〇	〇四七	〇	協同出版社 同
銀行業務上の事故	竹内恒吉	一・八〇	〇三〇	〇	銀行協會 大阪
出版事業とその仕事の仕方	志水松太郎	一・五〇	〇三七	〇	文莊 豊島
銀行新讀本	岸谷梧郎	一・〇〇	〇三七	〇	言海書房 小石川
經營比較論	古川榮一	一・八〇	〇三四	〇	同 同



書名	著譯者	定價	頁數	發行所
近倉 庫概論	向井梅次	二〇〇	二八〇	同文館
貿易統制の研究	谷口吉彦	三〇〇	三〇〇	同文館
銀行業務上の事故 其實例と豫防對策	竹内恒吉	一八〇	三〇〇	銀行協會
商學配給組織論(二)	谷口吉彦	一五〇	三〇〇	千倉書房
商工政策要講	鈴木保良	九〇	三〇〇	慶應義塾
銀行會計の基礎原理	藤原泰	九〇	三〇〇	文雅堂
銀行實務改善策	山本貫一	三〇〇	三〇〇	銀行問題會
銀行實務 銀行爲替	神戶秀雄	一五〇	三〇〇	非研會
講義(三) 銀行爲替	上坂西三	二〇〇	三〇〇	東洋出版社
商工實務貿易	光永眞三	一〇〇	三〇〇	日本電信
昭和十年版 廣告研究	芳野國雄	一〇〇	三〇〇	非研會
商業實 商店帳簿の 務講座 作り方附け方	野瀬新藏	二〇〇	三〇〇	新聞之新聞社
全國書籍商總覽	豊原又男	一五〇	三〇〇	東洋出版社
實例法 經營學入門				帝國銀行會社要錄
小資 業 相談				

【十一月】

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
擔保附消費貸借 契約と其解説	上田敬次	九〇	一七〇	文雅堂
預金事務概論	青木定次郎	一〇〇	二四〇	同文館
近代株式會社論	西野嘉一郎	三〇〇	三〇〇	森山書店
必勝 新東爲替 秘訣 足の見方	服部剛久	三五〇	三〇〇	三洋堂書店
銀行實務 銀行會計	岩垂至	一五〇	三〇〇	非研會
講義(五) 銀行會計	大藏省	三〇〇	三〇〇	内閣印刷局
昭和九年貿易年表(下篇)	中村茂男	二〇〇	三〇〇	白揚社
商店經營缺陷の見方	網島克己	一〇〇	三〇〇	文雅堂
商品擔保事務	西本寬一	二〇〇	三〇〇	大同書院
株式會社重役論	田中力之助	二〇〇	三〇〇	日本經濟會
全銀行業續總覽(一)	松宮三郎	一五〇	三〇〇	誠文堂新光社
廣告生活二十年	保田榮	五〇〇	三〇〇	知進社
理論商品學概論	倉本長治	一〇〇	三〇〇	森山書店
原價計算				同文館
商店經營全集七 店頭販賣と外交販賣				同文館

【十二月】

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
廣告研究	光永眞三	一〇〇	三〇〇	日本電信
商英叢國際貿易活法 書(三)(前編)	吉米地英俊	四〇〇	三〇〇	通有堂
商品取引所論	上林正矩	三〇〇	三〇〇	岩波書店
新聞廣告四拾年史	岩垂至	三〇〇	三〇〇	内外通信社
社會會計實務誌	前納悅三	二〇〇	三〇〇	同文館
株式會社實務の手引	二宮丁三	二〇〇	三〇〇	日本評論社
工業統制問題 商業學最近の問題	神戶學	四〇〇	三〇〇	大阪實文館
神戶商業大學記念 創立三十周年論文集	小山隆	一〇〇	三〇〇	高岡高等商業 學校研究會
研究論集 開校十周年 紀念號	上野陽一	一〇〇	三〇〇	トウシン社
商店經營商店 全集(一)經營の能率	清水正己	二〇〇	三〇〇	東洋出版社
商工實務小賣店 全集(二)經營實務	水谷稜一	一〇〇	三〇〇	銀行信託協會
銀行預金吸收の秘訣	後藤勇夫	二〇〇	三〇〇	帝國興信所
商品經營十講	今井忍	一〇〇	三〇〇	高陽書院
日本貿易精覽	村瀬忠夫	三〇〇	三〇〇	東洋經濟社
商業經濟學說	千石與太郎	七〇	三〇〇	産業組合 中央會社
海外産業組合事情 (一九三四年版)	芳野國雄	一〇〇	三〇〇	非研會
商業實務講座(五)	小西彦太郎	一〇〇	三〇〇	内外調查會
昭和九年本邦 外國貿易狀況	貿易局			資料調查會
市場用語辭典	安達太郎	一五〇	三〇〇	商況研究會
商店經營全集七 合理的な販賣計畫	栗屋義純	一〇〇	三〇〇	トウシン社
配給市場組織	向井鹿松	五〇〇	三〇〇	善橋
商品機構論	水口香三郎	四〇〇	三〇〇	東京泰文社
投資株の選擇と 採算の仕方	小汀利得	一〇〇	三〇〇	東京泰文社
第五大投資相談	大阪毎日	一五〇	三〇〇	協同出版社
最新貿易實務誌	濱谷源藏	四〇〇	三〇〇	同文館
近貿易實務廣告實務	松宮三郎	二〇〇	三〇〇	東洋出版社
全書五				同文館







書名	著譯者	定價	頁數	發行所
電氣鐵道經營要論	喜多直之助	二・〇〇	〇四三	政經書院 京都
經營學 陸軍經營論	島田孝一	二・〇〇	〇四七	東洋出版社 京都
全難事件に基く船員及水先人の刑事上並に民事上の責任に關する法規改正陳情の經過	小泉秀吉	〇	〇七	海員協會 兵庫
鐵嶺丸沈没遭難體験縱橫記	井出 值一	一・〇〇	〇一八	遞信社 愛知
翔けよ大空	井上四郎	二・〇〇	〇二二	帝國飛行協會 芝
自動車大鑑	數見周穗	一・五〇	〇三六	日本自動車興信所 同
天文航海學	酒井 進	五・〇〇	〇五九	嵩山房 本郷
新鐵道辭典	奈良益治郎	四・〇〇	〇一三三	鐵道新書會 澁橋
交通の智識	坂井 勝	一・〇〇	〇三〇	境川文庫 大阪
航海寶鑑	米窪滿亮	五・〇〇	〇三三	船舶運檢社 兵庫
航海風景	中島 武一	一・三〇	〇二九	學而書院 下谷
昭和十一年航海年表	昭十一年航海年表	昭十一年航海年表	昭十一年航海年表	昭十一年航海年表
交通慘禍は斯くして防起る如何にして防止するか	小泉輝三郎	・五	〇三三	菅野茂八郎 大阪
各國航海補助制度の現狀	日本協會	非	〇七	日本船主協會 兵庫
倫敦交通局概觀	小林尙一	同	〇六	小林尙一 大阪
最近の飛行船	酒井二郎	一・五〇	〇二四	航空研究會 世田
交通研究資料(三四) 航空日本の現在並に將來	笠松慎太郎	非	〇九	日本交通協會 駒町
旅客運輸	川西實夫	一・五〇	〇五二	鐵道教育會 日本
世界飛行機圖輯	木村秀政	三・三〇	△二〇三	海と空社 駒町
通信必携	山田健市	三・五〇	〇一〇二	大教社出版部 兵庫
防空並最近の歐洲航空事情	春田隆四郎	非	〇二六	京都府國防協會 京都
南太平洋諸島西部水路誌(一)	水路部	五・〇〇	〇三三	水路部 京都

十萬名の大「人名辭典」

米國コロムビア大學出版部は今秋十萬名の人名を収録する大人名辭典を出版すべく着々準備を整へてゐる、此の尠大な人名辭典は國家的名聲ある人物の他地方的に著名な人物をも包含し今日までに存在する最大の人名辭典の三倍の内容を持つ空前の大規模なものである。時間的には米大陸發見の當初から辭書の校正の瞬間に到るまで収録して餘す所なく、地理的には米本國アラスカに加へるに植民時代のカナダを以ても人名選擇の範圍は男女を問はず米國産と否とに拘はらず米國民の生活上思想上に影響のあつた故人乃至は米國各地方に於て顯著な業績を擧げた故人を悉く收めてゐる。各人に對する説明は凡て五十語を以て盡す事となつて居り從つて最も簡明且つ直截に當該人物に關する最も主要な知識を與へるべく努力する事となつてゐる。而して一層詳しい知識を必要とする爲に參考書目を列擧して遺憾なきを期してゐる。要するに學者、學生、ジャーナリスト其他の爲めに最も手近な索引たる事を目的とするもので之が完成の曉はその裨益する處は想像するに難くない。

蒼 第四十六回 選信省年報 官房文書課  
 坂 石川達三 一・三〇 〇二六 改造社 芝  
 選信大臣  
 △三四三 文書課 駒町



幕府時代の出版に関する制裁

徳川幕府に於ける出版物に關し、法に觸れたものに對する刑名は種々あつたが、其の重なるものは左の如くである。

- 一、死罪——首を斬り落すことで、庶人に處する刑名である。
- 一、切腹——自刃せしむること、俗に結腹を切らせらるゝと云ふ、これは士人に限る。
- 一、獄門——町中引廻しの後、首を斬り落し、其の首を臺に載せて梟すことを云ふ。
- 一、流罪——遠島に處すること、伊豆の七島、其の外、遠國に放つて留在せしむること。
- 一、追放——江戸、京都、大阪などに

て市外に放逐することを云ふ、重追放、追放の別がある、これは範圍の廣狭による。

- 一、江戸拂——追放を云ふ、江戸十里以内に居住せしめぬのである。大阪三郷拂も同じ。
- 一、關所——動産不動産の全部を官に沒收するのである、身上半減の關所と云ふのもある。
- 一、閉門——門戸を閉鎖し晝夜本人及び外人の出入を禁ずるを云ふ、期間は二十日以上百日。
- 一、押込——閉門に同じで、門戸を鎖さず、只閉め置かしむるの別がある。
- 一、預——罪人として大名に預け、一家に禁錮せしむるを云ふ。幽屏、蟄居と云ふも同じである。
- 一、籠舎——揚屋入とも云ふ、牢獄に

禁錮するを云ふ。永牢とは終身禁錮の事である。

- 一、武家奉公構——士分に對する刑名で、武家に奉公することを禁ずるを云ふ、即ち浪人たらしむるのである。
- 一、過料——過怠罪として納むる料金即ち罪金の事である。金額は三貫文以上二十貫文以下。
- 一、敲——重追放の附加刑である、答にて尻を五十度或は百度打つ事を云ふ。
- 一、叱——單に「叱り」と云ふのと「急度叱り」との二ツあつた、譴責して放免することを云ふ。

著者或は出版者が以上の刑罰に處せられた時は、其の板本は悉く絶版となるのである。絶版とは板木及び印本を押収して破毀又は燬棄するを云ふ爾後の賣買は無論禁止せらるゝのである。

(三三) 工學・工藝

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
日本鑄工史 第一冊	香取秀真	三・〇〇	〇三三	郷土研究社 小石
最近無線工學名著翻譯(一)	溝上英二	〇一六	〇一六	コロナ社 同
高周波測定(二)	土生英二	〇一六	〇一六	コロナ社 同
工業分析法	鈴木格雄	一・〇〇	〇三四	工政會出版部 神田
最近土木工學名著翻譯(三六)	岡本東一郎	△二〇六	△二〇六	コロナ社 小石
實踐上水道(四)	山崎清一郎	〇三三	〇三三	金原商店 本郷
新醫・病院建築と設計	芝田知重	〇三三	〇三三	芝田知重 兵庫
建築請負工事の經營	芝田知重	〇三三	〇三三	芝田知重 兵庫
鶴見・下水道	鶴見一之	〇三三	〇三三	丸善 日本橋
航空機工學に於けるニッケル合金材料	田路坦	非	△六	株式會社 善 日本橋
映寫技術	歸山教正	一・〇〇	×三三	映畫技術社 神田
映寫技術	歸山教正	一・〇〇	×三三	映畫技術社 神田
第六回研究會資料	日本協會	・八〇	〇三八	日本工業協會 大阪
道路橋設計圖表	河村協	一・八〇	〇一五	澁屋書店 同
和洋建築構造	山村弘	二・八〇	〇三六	工政會出版部 神田
畜産製造學	佐々木林治郎	一・〇〇	△二三	西ヶ原刊行會 赤坂
織物雜考	齊藤道雄	一・〇〇	〇一七	紡織雜誌社 大阪
最新日本工業通論	倉橋藤治郎	一・〇〇	〇三三	平凡社 日本橋
昭和八年本邦鐵業の趨勢	烟石輝治	一・〇〇	〇三三	朝陽印刷社 神田
洋銀の鑄造法	山口眞申	非	〇二六	日本ニッケル社 同
シンプレ映寫裝置	大高啓三郎	一・〇〇	△二〇二	アタタ商會 大阪
自動車の検査並修理	古市亮藏	二・〇〇	〇三〇	鐵道時報局 神田
最近土木工學名著翻譯(二四)	上田清	四・八〇	〇六一	工政會出版部 神田
鋼橋の理論と計算	奥田秋夫	四・八〇	〇六一	工政會出版部 神田
全銀銅採鑛冶金學	小波博	五・〇〇	〇五二	修教社書院 神田
下條川沿岸排水事業誌	富山縣	五・〇〇	△六四	富山縣 富山



書名	著譯者	定價	頁形 數體	發行所	書名	著譯者	定價	頁形 數體	發行所
電氣工學 ボケットブック	小平浪平	六・五〇	〇二八	電氣學會 齋藤町	無機標準工業分析法	庄司 務	二・五〇	〇二九	内田老鶴園 日本橋
最近土木工學基礎工 名著翻譯二五(四)	太田尾廣治 外二名	△	△	最新工學 普及會 大阪	高等建築學(二〇)	古茂田 甲午郎	非	〇五六	常磐書房 川小石
縮刷最新工學文獻摘 第三册	普及會	非	△	最新工學 普及會 大阪	建築計畫八・學校 圖書館	外二名	〇	〇五六	常磐書房 川小石
人絹讀本	叶浦常雄	五・〇〇	〇一五〇	人絹普及協會 大阪	最近無線 工學名著翻譯(二)	阪本捷房	〇	〇二八	コロナ社 同
電燈市營の十年	柴田 峻	〇	〇一四	大阪市電氣局 大阪	自動車保守の實際	平山 肇	五・〇〇	〇三七	交通展望社 日本橋
最新式各種時計並 蓄音機精密修理法	辻 萬平	四・五〇	〇三四	大阪時計學院 同	ディーゼルエンジン	淺川權八	四・〇〇	〇三六	淺川清七 板橋
短波無線通信 (第一卷)	水橋東作譯	一・四〇	〇一三〇	コロナ社 川小石	高壓空氣 壓縮機計算法	數森敏郎	一・五〇	〇一八〇	工政會出版部 齋藤町
内燃機關	倉橋周藏	〇	〇一四	淀屋書店 大阪	材料文獻集	永井彰一郎	一・二〇	△	常磐書房 川小石
土木仕様・ 工事歩掛及見積法	山下直一	一・二〇	〇一五	同	A Complete lecture of Automobile	上坂正雄	一・八〇	×	藤谷崇文館 神田
土木工事用 機械取扱法	原 孝次	二・五〇	×	須原屋書店 京橋	應用機械學	蘭川 武	一・八〇	〇二五	神谷 勵 同
建築用管と ブラウン管と	米澤 外滋	〇	〇二八	コロナ社 川小石	軍需工業論	國際政治 經濟研究會	一・〇〇	〇二七	福岡書房 同
新編實用電氣機械簡 便性アルカリ處理設 備用としてのニツケ	中島友正	二・〇〇	〇二八	電氣之友社 神田	應用彈性學(三)	山岡包郎	〇	△	常磐書房 川小石
銅製鍊(上)	池田謙三	一〇・〇〇	〇六五	寶文館 日本橋	鋼橋(中卷)	三浦七郎	三・五〇	〇四二	常磐書房 同
銅製鍊(下)	同	一〇・〇〇	〇八〇	同	鋼橋(下卷)	高杉 造酒太郎	二・〇〇	〇三七	建築學會 京橋

書名	著譯者	定價	頁形 數體	發行所	書名	著譯者	定價	頁形 數體	發行所
實地工作法講座(一) 旋盤工作法講座(上)	南條初五郎	非	〇一八	共立社 神田	最新工業大意	志村良光	一・七〇	〇三五	工政會出版部 同
實地工作法講座(二) タレ旋盤及自動 旋盤仕事	同	同	〇一四	同	桐生織物史(上)	編纂會	非	〇四七	桐生織物 組合 群馬
石油戰爭論	鳥居義太郎	同	〇二九	軍事經濟 研究所 中野	近代科學工業寶典	仲摩照久	同	△	新光社 神田
工業經濟理論	伊藤久秋	二・六〇	〇二二	株式會社 印刷 京橋	最土木材料學解説	菊地嘉美	二・二〇	〇三五	鐵道圖書局 齋藤町
電氣ニ關スル 外國特許要覽Aノ部	古澤音次	△	△	株式會社 印刷 京橋	瓦	島田貞彦	一・五〇	〇	岡書院 神田
電氣ニ關スル 外國特許要覽Bノ部	原田 肇	△	△	株式會社 印刷 京橋	機	橫光利一	一・二〇	〇四六	創元社 大阪
精密機械ニ關スル 外國特許要覽(四)	青木 保	一・九〇	△二四五	同	航空機ニ關スル 外國特許要覽其ノ六	林 守雄	三・三〇	〇四九	日本學術 會齋藤町
ペンキ職人は叫ぶ	芳陵龍夫	非	〇九	大月社會問題 調査所 大阪	大阪窯業株式會社 五十年史	江村恒一	非	〇三六	大阪窯業 會社 大阪
電信事業と電信法	竹越忠雄	一・〇〇	〇三三	通信文庫 豊島	高等建築學(二) 西洋東洋建築様式	大岡 實	同	〇四四	常盤書房 川小石
本邦石油史	田 岐一	一・八〇	〇三八	日本公論社 同	汽 罐 汽 機	飛永甚治	二・七〇	〇三三	工政會出版部 神田
實用製造化學講座 (六)	南條初五郎	非	〇四冊	共立社 同	地 質 工 學	渡邊 貫	七・五〇	△	古今書院 同
コンクリート・鐵筋 コンクリート便覽	中村猪市	五・〇〇	〇五三	成美堂書店 日本橋	本邦糖業史	樋口 弘	五・五〇	〇六六	モンド社 同



書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
電氣絶縁論	鳥山四男	二・八〇	〇二六	共立社	船舶無水式重油發動機	小茂島 豊三郎	一・七〇	〇	發動機研究社
第二十六回電氣事業要覽	選信省	一五・〇〇	△一五九	電氣協會	自問自答 漁船發動機講義	同	四・〇〇	〇	同
最新土木構造力學	山村雅夫	一・七〇	〇二七	鐵道圖書局	實用製造化學講座	南條初五郎	非	〇四册	共立社
最新洋風建築構造	大河原達海	一・八〇	〇三九	同	ラングス直流機(下)	松本正則	二・五〇	〇三五	コロナ社
基本及工業分析法	河村文一	四・八〇	〇五四	昭光堂	アルス電氣工學大講座	沼倉三郎	非	△三五	アルス社
セメント工業	矢崎好幸	四・八〇	〇四八	丸善株式會社	建築寫數寄屋	高梨由太郎	一・二〇	〇	洪洋社
伯國の工業	拓務省	〇	〇七	省廳	現代日本建築	佐野利器	〇	〇	日本評論社
住宅建築圖集	清水組	七・〇〇	△三七	上木建築省廳	實地工作土及	櫻井良雄	〇	〇	日本評論社
運河論	矢野剛	四・〇〇	〇四四	矢野剛社	法講座組立仕事	南條初五郎	〇	〇	同
實用建築講座	宮下桃太郎	〇	△箱入	東學社	アルス機械工學大講座	三島徳七	非	△二六	アルス社
物質の熱常數に及ぼす水分の影響並びに其測定法に就て	榊澤泰	非	△一六	瀬戸歌次郎	建築學建築施工法	山下壽郎	〇	〇	常盤書房
油脂實驗法	同村善策	五・五〇	〇六八	丸善株式會社	請負業者の所謂談合に就て	久良知 丑二郎	同	〇	新家猛

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
工藝學概論	西川友武	一・八〇	〇三二	工政會出版部	小千谷縮布史	西脇新次郎	三・八〇	〇四四	小千谷縮布史發行會
材料強弱學	小谷寛之亮	二・八〇	〇三一	同	昭和工場統計表	官房文書課	七・〇〇	△二〇	東京統計協會
電氣化學講義	武井 武	一・二〇	〇二六	富山房	鐵筋骨建築構造の知識	伊東五郎	二・〇〇	〇二五	新シビル社
工業經濟概論	林 癸夫	二・〇〇	〇三三	巖松堂	吾輩は金鱗である	大郷房次郎	二・〇〇	〇三五	新大郷組
實用金屬材料講座	南條初五郎	非	〇四册	共立社	山の住宅	田熊福七郎	一・〇〇	〇	洪洋社
地の表	水君島八郎	七・〇〇	〇六八	丸善株式會社	波狀磨耗を通して軌條磨耗を見る	前橋俊一	△二六	〇	前橋工學研究所
山の住宅	報知新聞社	一・〇〇	〇六	洪洋社	鐵鋼業と株價の檢討	中川元治郎	二・〇〇	〇	大同書院
モダン設計グラフ	編洋社	一・〇〇	△三〇	同	攻國解日本家庭法	本多 明	三・〇〇	△	林平書店
數寄屋建築史圖聚	北尾春道	三・五〇	△三	同	實用製造化學講座(八)	南條初五郎	〇	〇四册	共立社
退金時代ノ建築ト其佛像	關野 貞	三・五〇	△	東京文化學院	實用建築講座	宮下桃太郎	〇	〇三册	東學社
日本人心工作論	福間常信	〇・五〇	〇七	日本海時代社	最新機械製圖應用篇	工業教育 振興會	二・〇〇	△箱入	工業教育社
煖房罐の使ひ方(下)	平岩庄一	四・〇〇	〇	協會出版部	最新家具の實用工作法	加納早二	三・五〇	〇	太陽堂書店
大阪機械工作所爭議願末	大坂機械工作所	非	〇一三	同	數寄屋建築史圖聚	北尾春道	三・五〇	△	洪洋社
國寶建造物 第二期 第九輯	矢野國太郎	四・〇〇	〇十二	國寶建造物會	現代日本工業全集	齊藤正平	〇	〇二六	日本評論社



書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
地方鐵道軌道一覽	鐵道省 監督局	二・五〇	△三五	鐵道同志會 齋藤可	飛行機の強度計算法と設計例	甲斐茂吉	四・〇〇	◎三九	内田老鶴園 日本
保溫材の理論及實際	若杉松三郎	三・五〇	◎三五	丸善株式會社 日本	東京市工業調査書	東京市役所	非	△二四	東京市役所 齋藤可
アルス電氣	磯野達二郎	非	△二五	アルス	新研究齒車(上)	藤野篤之	五・〇〇	◎六九	丸善株式會社 日本
木工具と使方及入手法	吉見 誠	一・八〇	◎二四	中央工學會 小石	内燃機關學	隈部一雄	二・〇〇	△六七	山海堂出版部 神田
實用土木施工法	堀 津	二・五〇	◎三五	同	エー、ノイマン 近世道路工學	南保 賀	△二四	◎一〇	同
和透し彫刻建築・洋具・家具應用圖案	森村秀夫	二・五〇	◎二五	同	建築工學鐵骨構造 海外名著集	池部宗 薰	△一六	◎同	同
洋三百五十種	南條初五郎	◎一七	◎同	同	陸地測量學	伊藤敬二郎	四・五〇	◎五八	明文堂 神田
實地工作旋盤仕事	同	◎二七	◎同	同	建築寫真欄間集一	影山錄次郎	三・八〇	◎四三	修教社書院 神田
法講座	同	◎二七	◎同	同	屋內配線工事	豐田四郎	四・〇〇	△三〇	敬業社 神田
同作業研究の方法及實際	同	◎二七	◎同	同	多角測量及其應用	永井彰一郎	六・五〇	◎六六	内田老鶴園 日本
建築資料集覽昭和十年版	中士郎	△五九	◎同	建築土木資料集覽刊行會 京橋	窯業品の化學製造及試驗法	岩崎振一郎	一・七〇	◎一四	紡織雜誌社 大阪
現代の建築彫刻	小川 礎一	一・二〇	◎變	經濟科學會 本郷	アルス電氣 工學大講座	河合賢次	非	△三四	アルス 神田
英國に石炭利用の於ける科學的研究	石田 鐵一	三・七〇	◎四三	工政會出版部 神田	實用建築講座	宮下桃太郎	三・〇〇	◎一五	古九谷研究會 石川
實驗機械工學	小川芳太郎	非	△二五	アルス	燃 料	伊能泰治	三・五〇	◎三六	共立社 同
アルス機械工學大講座	野色雄吉	三・八〇	◎四三	東洋圖書株式會社 同	建設要覽	加藤浪夫	八・〇〇	◎二八	ネーム彫刻法 神田
高等力學、物性、熱學	業協會	一・二〇	◎六七	工業新聞社 大阪	アルス電氣	大賀惠二	非	△七四	アルス 神田

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
第七回 研究會見習工採用方法	業協會	一・二〇	◎六七	工業新聞社 大阪	實用建築講座	宮下桃太郎	三・〇〇	◎一五	古九谷研究會 石川
都市都市武裝促進委員會記錄	鷹取 陽	非	△三五	日本建築協會 同	燃 料	伊能泰治	三・五〇	◎三六	共立社 同
昭和大阪市工業調査會	大阪 市	△五九	◎同	同	建設要覽	加藤浪夫	八・〇〇	◎二八	ネーム彫刻法 神田
高等家屋耐震並建築學耐及構造	佐野利器	非	◎四三	常盤書房 小石	實用建築講座	宮下桃太郎	三・〇〇	◎一五	古九谷研究會 石川
實用金屬材料講座	南條初五郎	◎四冊	◎同	共立社書店 神田	アルス電氣	河合賢次	非	△三四	アルス 神田
建築寫真欄間集一	高梨由太郎	一・二〇	◎四枚	洪 洋 社 牛込	アルス電氣 工學大講座	米澤政治郎	◎同	◎一九	大阪機械製作所 大阪
十一輯 錦舟寮	中江大郎	七・〇〇	◎五〇	内田老鶴園 日本	株式大阪機械工作所 爭議顛末	小岩隆道	四・五〇	◎五七	工政會出版部 神田
油脂工業化學	加藤直士	一・〇〇	◎二三	東洋經濟報社 同	最新絹絲紡績學(上)	天沼俊一	八・〇〇	△四六	星野書店 京都
フオードは何うして成功したか	青木 保	三・七〇	◎三七	丸善株式會社 同	日本建築史圖錄鎌倉(下)	天沼俊一	八・〇〇	△四六	星野書店 京都
精密測定及計測機器	山本永之助	非	△三七	山本化學研究所 大阪	最新土木工基礎工學名著翻譯	田中芳雄	五・〇〇	◎五三	丸善株式會社 日本
溶液中に於ける分解速度に關する研究	菅原菅雄	〇・八〇	×二五	岩波書店 神田	有機製造工業化學(下)	喜多源逸	五・〇〇	◎五三	丸善株式會社 日本
岩波工業熱力學	北尾春道	三・五〇	△	洪 洋 社 牛込	臨時工問題の研究	西本 喬	一・五〇	◎三七	労働事情調査所 神田
數寄屋建築史圖聚	大石主計	二・八〇	◎二九	同	實用製造化學講座	大塚一朗	三・〇〇	◎四九	弘文堂書房 同
最近大變電所の設計及据付法	濱田 稔	△二三	△二三	同	工業經濟學講義	同	◎同	◎同	同
建築工學冬のコンクリート	同	△二三	△二三	同	同	同	◎同	◎同	同



書名	著譯者	定價	形態	頁數	發行所
工藝農作物耕種要綱(下)	農務局	二〇〇	△	四三	大日本農會
特許發明論	星子末雄	二〇〇	◎	四四	大同書院
金	濱住松二郎	一五〇	△	三五	内田老鶴園
實地工作 研創仕事	屬	◎	◎	一五	共立社
法講座	同	◎	◎	三六	同
同 ミリング仕事	同	◎	◎	三六	同
日本鐵物資料續(第一卷)	伊藤貞市	二〇〇	△	二九	伊藤貞市
測量作業法(上)	江口康雄	二〇〇	◎	二八	日本技術協會
臨時工問題に關する調査の一つ	芳陵龍夫	非	◎	三	大月社會問題調査所
パイアス電氣工學(前篇)	岡 義明	二八〇	◎	五六	稻妻會
電氣ニ關スル外國特許要覽 Aノ部六	古澤音次	五〇	△	五〇	日本學術會
現代日本工業全集九	梅浦健吉	◎	◎	四三	日本評論社
實用金屬材料講座(九)	稻生有年	非	◎	四册	共立社
改機械プレス	稻生有年	五〇〇	△	一六	稻生有年

書名	著譯者	定價	形態	頁數	發行所
鑄接鋼橋	青木楠男	三〇〇	◎	三四	シビル社
新學校の建築とその實際	越智隆晴	二五〇	△	一五	越智隆晴
日本庭園の觀賞	重森三玲	二五〇	◎	一七	スズカ出版部
電力故障計算法	前川幸一郎	三〇〇	◎	五九	修教社書院
皮革の知識	小原正忠	一五〇	◎	五〇	軍人會館
和建築構造圖解	山本悟郎	三〇〇	◎	六六	金龍堂
洋建築構造圖解	山本悟郎	三〇〇	◎	六六	金龍堂
最新機關車工學	有原俊二	五〇〇	◎	五九	東洋書籍會社
圖寺院建築雛形	森永達男	二五〇	△	五九	金龍堂
織維加工ニ關スル外國特許要覽(八)	加藤鏡郎	五〇	△	五〇	日本學術會
等角寫像とその方法	池田芳郎	四〇〇	◎	五〇	振興會
電氣製鋼法	市川直雄	三〇〇	△	二五	共立社
本邦タオル工業誌	岡本彰一	非	◎	三九	日本タオル工業組合聯合會
電弧銲接検査法	山本芳男	一七〇	◎	二三	工業圖書株式會社
工場安全の叫び(其三)	蒲生俊文	一〇〇	◎	三〇	産業福利協會

書名	著譯者	定價	形態	頁數	發行所
アル電氣工學大講座(一九)	山本忠興	非	△	二四	アル
實用建築講座(四)	宮下桃太郎	同	△	三册	東學社
ゴム及びエボナイト配合(壓縮機篇)	森山藤吉郎	二〇〇	◎	一〇	厚生開
限界機械	城谷 正	三〇〇	◎	七	工政會出版部
グーシ方式設計製圖	北尾春道	三〇〇	△	一〇	洪洋社
數寄屋聚數寄屋	共立社	◎	◎	三三	共立社
實地工作法(六) 齒切仕事	共立社	◎	◎	三三	共立社
アル機械工學大講座(二三)	小林 茂	二〇〇	◎	二四	修教社書院
簡易製材	小林 茂	二〇〇	◎	二四	修教社書院
アル電氣工學大講座(二六)	古林 博	非	△	四〇	アル
朝鮮高麗陶磁考	中尾萬三	二五〇	◎	三九	學藝書院
實用製造化學講座(十)	中尾萬三	二五〇	◎	三九	學藝書院
電氣銲接	岡本 赴	二〇〇	◎	一八	誠文堂新光社
最新空氣制動機の話	鐵道工學普及會	二〇〇	◎	一八	大教社出版部
實地工作法(五) 切削工具	普及會	二〇〇	◎	一八	大教社出版部
航空發動機(上)	小川清二	四〇〇	△	三五	工業雜誌社



書名	著譯者	定價	頁數	形體	發行所
潜水の友	三浦定之助	非	〇三三	〇	日本潜水株式會社
實電氣鍍金法	佐久間春壽	一・五〇	〇一七	〇	三弘社
構造強弱學(上)	大藤高彦	六・五〇	△四〇	△	丸善株式會社
建築の東京	石原憲治	非	△	△	都市美協會
圖解力學	平野正雄	三・三〇	〇二二	〇	丸善株式會社
日本劇場圖史(一)	竹内芳太郎	二・〇〇	△	△	壬生書院
建築寫真集(三)	清宮善太郎	非	△二〇	△	竹中工務所
アル機械工學大講座(一)	田中敬吉	同	△三六	△	アルス
實用建築講座(五)	宮下桃太郎	同	△三册入	△	東學社
我が工業品の海外躍進	奥田寛太郎	・五〇	〇四	〇	社會教育協會
數寄屋聚成(一)	北尾春道	三・五〇	△	△	洪洋社
近代數寄屋名席聚	長坂金雄	二・〇〇	△二九七	△	雄山閣
陶器講座(四)	關口八重吉	二・〇〇	△	△	島根信吉
最新建築工學(七)	武内富雄	二・八〇	△二五	△	東學社
最新建築工學(八)	堀紫朗	二・五〇	△二七	△	工業圖書株式會社
新式自動車教本	上坂正雄	二・〇〇	〇二六	〇	工業圖書株式會社
航空發動機	大友博	二・五〇	〇三五	〇	丸善株式會社
圖解自動車講義錄	大月豐	二・八〇	〇	〇	香蘭社
合成樹脂	杉本俊三	三・五〇	〇四八	〇	工政會出版部
亞麻工業	阿部松治	一・〇〇	〇三	〇	紡織雜誌社
全國工場通覽昭和十年版	商工省	五・〇〇	〇三〇	〇	新刊工業社
海外名著集(八)	池部宗薫	外五名	△一九	△	コロナ社
ファイヒ鐵骨構造二	加藤鉞郎	・五〇	△五	△	日本學術會
纖維加工ニ關スル外國特許要覽	入江弘	一・〇〇	〇三三	〇	工業中央會
中小工業の金融問題	千葉茂太郎	二・八〇	〇三三	〇	工業中央會
電氣濾波器	千葉茂太郎	二・八〇	〇三三	〇	工業中央會
實地工作法講座(七)	同	同	〇一六	〇	同
グー及び検査仕事	同	同	〇九	〇	同
同平削盤形削盤及	同	同	〇九	〇	同
(八)取立盤形削盤仕事	同	同	〇九	〇	同
新實用電氣機械後編	中島友正	一・九〇	〇二四	〇	電氣之女社

書名	著譯者	定價	頁數	形體	發行所
商店建築外觀集卷一	高梨由太郎	一・三〇	〇五〇	〇	洪洋社
建築寫真類聚(九)	佐藤廉平	一・八〇	〇一五	〇	同
商店建築外觀集(一)	米國庭園俱樂部代表	非	△	△	出版委員會
橋梁基礎の設計及施工	米國俱樂部代表	非	△	△	出版委員會
米國庭園俱樂部代表訪日記念寫真帖	俱樂部招待會	非	△	△	出版委員會
最新建築工學(一)	堀紫朗	二・五〇	△一七	△	東學社
最新建築工學(二)	藤井鹿三郎	二・五〇	△一七	△	東學社
工業日本の鐵鋼を語る	青田十勝	三・三〇	〇八	〇	工業智識會
最新建築工學(三)	木村幸一郎	二・五〇	△一八	△	東學社
地下鐵道	須之内文雄	三・八〇	〇四	〇	常盤書房
最新建築工學(四)	松平義雄	二・五〇	〇五	〇	淡海堂出版部
最新建築工學(五)	里正義	二・〇〇	〇三	〇	明文堂
最新建築工學(六)	村田喜一	二・〇〇	〇三	〇	明文堂
最新建築工學(七)	大澤一郎	二・八〇	△三五	△	東學社
最新建築工學(八)	村田治郎	二・八〇	△二四	△	東學社
最新建築工學(九)	辛木貞夫	二・五〇	△一四	△	同
電氣ニ關スルAノ部	古澤音次	・七〇	△八七	△	日本學術會
外國特許要覽九號	宮本茂業	同	〇二八	〇	同
最新發變電壓器	堀外紫朗	同	△箱入	△	同
實用建築講座(六)	北澤宥勝	非	〇六九	〇	東學社
工場講演集(一)	笠松慎太郎	二・〇〇	〇四二	〇	損害保險研究所
自動車經營の理論と實際	北尾春道	三・五〇	〇	〇	日本交通協會
數寄屋聚成(一)住宅聚成(一四)	日置高志	二・三〇	〇二七	〇	同
電子工學及電子管	南條初五郎	非	〇三册共	〇	同
實用金屬材料講座二	小川芳太郎	同	△三〇	△	同
アルス機械工學大講座(一〇)	山内不二雄	同	△三〇	△	同
化學と統計力學	塚本義之	〇〇〇	〇一七	〇	同
アルス電氣工學大講座(一七)	後藤安太郎	非	△三七	△	同
土木工學(中)	川口虎雄	六・五〇	〇七九	〇	同
量子力學序論	坂井卓三	二・〇〇	〇一五	〇	同
全國製紙工場綜覽	井坂富士雄	二・〇〇	〇一〇	〇	同
建築工學海外名著集(七)	同	同	〇一〇	〇	同
彈體の力學(一)	同	同	〇一〇	〇	同



書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
最近土木工學名著翻譯(三三) 應用彈性學(四)	山岡包郎譯	△三九	△二九	小石川	織維加工ニ關スル外國特許要覽(十號)	加藤鏡郎	△六	△六	日本學術會
用電燈照明	伊藤義雄	△一八〇	△二四	神田	羊毛紡績(中)	喜多卯吉郎	△四〇	△四七	紡績雜誌社
電鍍化學	村上透	△三〇	△三〇	同	日本劇場圖史(二)	竹内芳太郎	△二〇	△	壬生書院
セメント注入	渡邊貫	△四〇	△三七	京橋	架空索道計算法	苦名孝太郎	△三三	△三三	修教社書院
最近無線工學名著翻譯(一五) シアー・回路網及び濾波器	篠原登	△一〇	△一〇	小石川	數寄屋聚成(六)	北尾春道	△三〇	△	洪洋社
邦鐵鋼業の國際的地位と其動向	民谷利昭	△一〇	△二二	大阪	建築設備	梅原實太郎	△三三	△三三	中央工學會
機械設計法(上)	小川義朗	△二八〇	△三三	神田	指針鋼の焼入秘法	木塚大吉	△一〇	△一〇	同
內燃機關工學講座(六) 航空發動機	非	非	△五二	同	油船	森川重雄	△三〇	△三〇	海洋社
實用製造化學講座(二)	無機容量分析の基礎	非	△三三	同	最近無線工學名著翻譯(二) 擴聲器(二)	中井將一譯	△一五	△一五	同
漁撈電化の實際	鹽崎株吉	△二〇〇	△三三	同	仙臺金工之研究	長岡恒喜	△	△	齊藤報德會
鐵道常識叢書(九) 客貨車	橫田胤敏	△二〇〇	△四二	中野	越中陶器の變遷(上)	村秀三	△三〇	△三〇	南陽堂出版部
新織物仕上法	佐藤吉彦	△二〇〇	△二五九	編日本	改訂石炭利用の科學的研究	小川碓一	△二八	△二八	經營科學會

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
秘書實業・工業資料	伊藤博文	非	△五二	神田	地質工學	渡邊貫	△三〇	△三〇	古今書院
圖解日本之工業	東洋工業會議事務局	△一〇〇	△四三	神田	最新電話(中)	道田貞治	△三三	△四四	電氣之友社
實用建築講座(七)	宮下桃太郎	△三〇	△三三	澁橋	最近無線工學名著翻譯(一七) プラウツ管	高橋明	△一五	△一五	同
工業日本精神	藤原銀次郎	△一〇〇	△二六	京橋	熱及び熱機關	古賀邦夫	△二〇	△三三	日本マ字社
最新化學工業大系(一五)	鳥山鑛造	△三三	△三三	神田	建築寫下ア集	高梨由太郎	△一〇	△一〇	同
實用電燈照明	伊藤義雄	△一八〇	△二七	同	工業日本精神	藤原銀次郎	△一〇〇	△一〇〇	日本評論社
管内電氣事業要覽	大阪逓信局	△六〇	△七五	大阪	生產工業的家具	型而工房	△一〇〇	△一〇〇	同
無線工學實驗法	千葉茂太郎	△二〇〇	△一八	神田	金屬塑性學概要篇	中原益治郎	△三〇	△三〇	同
アルス電氣工學大講座(一一)	別宮貞俊	非	△四四	同	最近無線工學名著翻譯(一八) 發聲映畫三	阪本捷房	△一五	△一五	同
四連モーメントの定理とその應用	リッペンライヒ	△二七〇	△二七	小石川	最新發變電所工學二	高山元夫	△一〇	△一〇	同
最新トキ一の製作と映寫の實際	仲木貞一	△一五〇	△二三	神田	計器用變成器	宮本茂業	△九	△九	同
トラパー測量	龜田晴二	△一五〇	△一九	同	陶器講座(六)	長坂金雄	△二八	△二八	同
住宅を兼備せる醫院建築	群馬縣建築協會	△一〇〇	△一六	同	都市計畫道路工學及國立公園	藤田宗光	△四〇	△四三	同
小都市に建つカフェー建築	同	△一〇〇	△一六	同	實用建築講座(八)	宮下桃太郎	△三三	△三三	同
【十一月】					トラパー測量	龜田晴二	△一五〇	△一九	同







筆禍に因る刑罰

我國で、古來筆禍の爲めに刑罰に處せられたものは、小野篁が仁明天皇の承和四年に「西道謠」を作り、忌諱を犯し官職を免ぜられ隠岐に流された、之が最初の筆禍事件で。其の後、後白河天皇の朝に藤原通憲が唐の「安祿山」の事實二巻を圖して進覽し斬首獄門に梟され。藤原光親は北條義時討伐の詔書を代作して首を斬られ。僧日蓮は「立正安國論」を草して伊豆に流謫され。秀古の朝鮮征伐の時、明使沈惟敬の奉呈した國書中「茲に特に爾を封じて日本國王と爲す」と云ふに至り、秀吉は激怒し其の國書を奪ひ地に擲ち、再び朝鮮膺懲の大軍を送り。清韓和尚の京都方廣寺大佛の鐘銘に「國家安康」の四字は家康を呪うて命を縮めんとするものなりと羅織附會し、之を辭柄として大阪役を激發する等。種々なる史實がある。徳川幕府時代となつて筆禍の爲

めに刑罰に處せられた其の重なるものは次の如くである。

Table with columns: (書名), (著者), (刑罰). Lists various literary works and authors such as 聖教餘録, 江戶繁昌記, 三國通覽圖說, etc., along with their authors and the punishments they received, such as execution or imprisonment.

(切支丹に關する件は省略)

(二三) 農業・園藝

○山林○牧畜○蠶業○家畜○水産

Main table listing books in the 'Agriculture and Horticulture' section. Columns include: 書名 (Title), 著譯者 (Author/Translator), 定價 (Price), 頁形體數 (Page/Format/Volume), 發行所 (Publisher). Sub-sections include '二月' (February) and '實際養狸' (Practical Mink Raising).



書名	著譯者	定價	頁數	發行所
自然に即した開放新屋内養鶏法	高橋廣治	・八〇	〇三六	養鶏之日本社 愛知
東北地方農村に關する調査凶作篇	帝國農會	〇一四	〇一四	帝國農會 神戶
稻作改良精説	岩槻信治	〇四〇	〇四〇	文館 神戶
日本蠶絲業史(一)	本田岩次郎	〇七〇	〇四八	大日本蠶絲會 神戶
【三月】				
最新畜産讀本	境野惠佐	〇四〇	〇五三	杉山書店 神戶
北洋沖取 大合同の全貌	笠原直造	〇二〇	〇四〇	日蘇通信社 神戶
農村工業讀本	佐藤富治	〇五〇	〇二九	文明堂 神戶
樺太農業植民問題	高岡熊雄	〇二〇	〇一八	西ヶ原刊行會 赤坂
近世日本農民運動史	木村靖二	〇三〇	〇四三	白揚社 神戶
産業技術動員	小濱重雄	〇二〇	〇一六	資源整備局 神戶
農家債務問題	中村茂	非	〇七	國政研究會 同
産業組合新講	平林久男	〇三〇	〇二七	成運堂 神戶
増訂 花卉園藝(下)	佐々木太郎	〇五〇	〇四四	成美堂書店 日本橋
男鹿寒風 山麓農民手記	吉田三郎	一・五〇	〇一八	アチツクミ 芝
農家經營の根本	松本喜作	二・八〇	〇五三	樂浪書院 中野
産蠶處理 統制法をめぐる	千坂高興	一・五〇	〇一五	全國製紙業 神戶
日本農林審査總覽	川崎甫	二・八〇	〇八〇	組合聯合會 神戶
農業用揚水機	森周六	二・五〇	〇三九	西ヶ原刊行會 赤坂
滿洲農業移民の必要及可能性	日本學術振興會	〇二〇	〇一九	日本學術會 神戶
日本水産捕採誌(全)	水産局	七・〇〇	〇二〇	水産社 同
新しい農會の必携	照井一郎	一・五〇	〇二六	弘明堂書店 神戶
小資本農村工業・木竹土石の加工と利用	藤田龍藏	一・八〇	〇四六	誠文堂 同
【四月】				
稻熱病ニ關スル研究(第三報)	農林省	非	△一六	農林省 神戶
趣味の森林	清水潔	〇二〇	〇二四	清水土地 大阪
植林株式會社	植林株式會社	〇四〇	〇四三	創元社 芝
年中觀家庭園藝	永田治郎	二・八〇	〇四三	創元社 芝
農家寶典	稲垣乙丙	一・五〇	〇四三	有誠堂書店 日本橋

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
素人に毛皮の糞し方と染色法	長谷川晟	・五〇	〇一三	有誠堂書店 東京
誰にも豚の飼ひ方	村田庚午郎	二・〇〇	〇一八	同
米問題と郷倉	古谷春吉	一・三〇	〇三四	泰文館 神戶
造林學汎論	土井藤平	三・五〇	〇一八	日本青年館 同
日本水産製品誌	農林省	五・〇〇	〇七三	水産社 神戶
産業組合問題	田中長茂	非	〇五〇	高陽書院 神戶
農蠶實驗室及圃場必携	五十畑正平	二・三〇	×	明文堂 同
造林學汎論	土井藤平	三・五〇	△三五	明文堂 本郷
了抹で農村更生	増田亮一	一・六〇	〇三七	泰文館 神戶
農村社會史論講	小野武夫	二・八〇	〇四三	松堂 同
實驗穀物調製機	二瓶貞一	二・八〇	〇三〇	賢堂 本郷
合理的農業經營法	谷本龜次郎	一・五〇	〇四三	大東社 下谷
生體酸化還元	ルネ、ユルム、セー、ル	六・八〇	〇四九	華房 神戶
理論 林産製造學	宇野昌一	六・八〇	〇六〇	賢堂 本郷
蠶絲業恐慌と之が對策	早川直瀬	・八〇	〇一七	信濃毎日 長野
自作農創設維持事例	農務局	〇三二	〇三二	農林省農務局 神戶
論理 米穀の貯藏	近藤萬太郎	一・九〇	〇二六	養賢堂 本郷
實際 米穀の貯藏	吉田秀一	一・五〇	〇三五	樂水會 深川
トロール漁業	伊藤友治郎	・三〇	〇七〇	農本文化協會 世田
村を此の破滅から救へ	宇田一	一・七〇	〇三五	地人書館 神戶
日本のデンマークの農業と其の教育	久保田正秋	・五〇	〇一七	八雲新聞社 北海道
北海道農民の視た凶作地	久保田正秋	・五〇	〇一七	八雲新聞社 北海道
【五月】				
農村の工業	大河内正敏	・八〇	〇二五	岩波書店 神戶
指導農村經濟寶典	平田慶吉	一・〇〇	×五七	帝國農會 神戶
心携 農作物交配技術	山本健吾	一・五〇	△二〇	養賢堂 本郷
米穀會計例規	農務局	〇三三	〇三三	農林省米穀局 神戶
産業組合要論	篠田七郎	一・三〇	〇二六	三省堂 神戶
農業學研究	近藤萬太郎	二・〇〇	〇四四	大原農務局 神戶
南洋栽培事業要覽	拓務局	二・〇〇	〇二六	拓務省拓務局 神戶



書名	著譯者	定價	頁數	發行所
最新園藝寶典	加藤行作	三・五〇	〇・六三	創造社
小資本實用蓄産	金子平一	一・八〇	〇・五三	誠文堂
農村工業品製造法	鈴木好一郎	一・八〇	〇・五三	同
同實用林産品製造法	鈴木好一郎	一・八〇	〇・五三	同
漁村に輝く人に	水産學校	〇・九〇	〇・四八	大日本水産會
防風林	長協會	〇・九〇	〇・四八	大日本水産會
新漁船圖集	水産會	〇・九〇	〇・四八	大日本水産會
輯漁船圖集	水産會	〇・九〇	〇・四八	大日本水産會
育林學原論	中村賢太郎	四・〇〇	〇・四三	西ヶ原刊行會
日本造庭圖鑑	森永達男	二・五〇	△	金龍堂出版部
岩波家畜系統史	ケルレル	四・〇〇	×二八	岩波書店
文庫家畜系統史	加藤儀一	二・五〇	×二八	岩波書店
岡山縣農業要覽	岡山縣農會	二・五〇	×二八	吉田書店
シヤポテンと	龍膽寺雄	二・八〇	〇・三七	成美堂書店
多肉植物の栽培知識	龍膽寺雄	二・八〇	〇・三七	成美堂書店
日本蠶絲業史	本多岩次郎	三・五〇	〇・六四	大日本蠶絲會
世界纖維界と繭絲	今村省三	三・二〇	〇・六四	明文堂
梅林の話	田代威三	一・〇〇	〇・三三	作品社
農村更生案	助川啓四郎	一・五〇	〇・二七	言海書房
理論森林經理學	吉田正男	三・八〇	〇・五九	成美堂書店
小資本農村都市	大嶽六郎	一・八〇	〇・四〇	誠文堂新光社
農村工業廢物利用法	長岡哲三	〇・五〇	〇・三三	日本中央會
蠶絲業調查會第一次	三木末武	四・五〇	〇・六三	培風館
調查委員會報告書	山路虎吉	二・八〇	〇・六六	泰文館
園藝作業の實際	山路虎吉	二・八〇	〇・六六	泰文館
篤農家の研究	山路虎吉	二・八〇	〇・六六	泰文館
農林圖書總目錄	五島衛門	三・五〇	〇・三〇	有誠堂書店
實メロン栽培	本多岩次郎	七・〇〇	〇・四四	大日本蠶絲會
北海道拓殖	安藤經藏	非	△	立憲政友會
計畫改訂意見	安藤經藏	非	△	立憲政友會
質疑・醬油・味噌	木下淺吉	五・〇〇	〇・九九	木下醸造研究
應答	木下淺吉	五・〇〇	〇・九九	木下醸造研究
新清酒釀造法	大阪稅務監	五・〇〇	〇・九五	近畿支會

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
南洋の栽培事業	南洋栽培協會	七・〇〇	〇・二三	南洋栽培協會
農村社會學	原澄次	四・八〇	〇・八三	丸山舍書店
ホップの話	渡邊恒太郎	非	〇・七	大布滿酒
新時代の農家經濟	大久保敬一	一・三〇	〇・三〇	株文會
農村の研究方法	鎌田末吉	一・〇〇	〇・三三	刀江書院
世界農業史論	佐藤昌介	五・〇〇	〇・九五	西ヶ原刊行會
操毛養兔と其經營	市村慶太郎	二・〇〇	〇・四一	子安農部
〔八月〕				
綿羊飼養管理の要諦	岡本正行	三・〇〇	〇・〇	有誠堂書店
農村修練場とは	佐藤千經	非	〇・二六	佐藤千經
青年何ういふものか	國民文庫	一・三〇	〇・二六	同
田園に輝く光	國民文庫	一・三〇	〇・二六	同
郷土を護る青年	國民文庫	一・三〇	〇・二六	同
日本産業の構成	小林良正	二・〇〇	〇・三一	白揚社
産新農村建設	千石與太郎	二・〇〇	〇・三一	北海産業組
農村更生叢書(三〇)	賀川豊彦	二・〇〇	〇・三一	合青年總聯盟
立體農業の理論と實際	藤崎盛一	二・〇〇	〇・三一	日本評論社
支那農業經濟の諸問題	田中忠夫	一・八〇	〇・四三	學藝社
尾張藩農政年表稿本	安藤次郎	非	△	安藤次郎
改良既肥推肥精説	高崎卷	二・八〇	〇・三九	賢文館
耕地整理	戸倉莞爾	三・二〇	〇・三七	修教社書院
〔九月〕				
農村の經營	山崎延吉	一・〇〇	〇・四三	泰文館
日本農業の展望	那須皓	五・〇〇	〇・六六	岩波書店
最新養豚法	永田厚平	三・〇〇	〇・三八	西ヶ原刊行會
茶種栽培の研究	長谷川一男	四・八〇	〇・五四	農林堂
北支農村救済	外務省	三・〇〇	〇・一〇〇	日本國際協會
植棉改進問題	松岡喜惣治	四・〇〇	〇・五五	泰明堂書店
果樹病蟲害防除	清水正茂	非	〇・一九	全日本肥料
第六十七回帝國	豫算委員會	同	同	團體聯合會
豫算委員會議錄	豫算委員會	同	同	團體聯合會
豫算委員會議錄	豫算委員會	同	同	團體聯合會
豫算委員會議錄	豫算委員會	同	同	團體聯合會
豫算委員會議錄	豫算委員會	同	同	團體聯合會



書名	著譯者	定價	頁數	發行所
第六十七回帝國議會貴衆兩院米穀自治管理法案委員會議錄	清水正茂	非	三〇	全日本肥料團體聯合會
肥料業統制法案議事並委員會速記録寫	同	同	三六	同
〔十月〕				
理論肥料學大要	滿田隆一	三・八〇	四三	賢堂
實際肥料學	松葉重雄	四・五〇	五〇	賢堂
家畜疾病學	矢後正俊	三・八〇	四九	賢堂
實害蟲防除法	森	三・〇〇	二六	啓明會事務所
農村更生の農村塾	笹森傳繁	三・〇〇	二六	成美堂書店
礎石としての女塾	森	四・八〇	四九	成美堂書店
訂増農業機械學	周六	四・八〇	四九	成美堂書店
機械化されたソ聯邦の農産業	矢持輝治	三・〇〇	三〇	マネジメン
起せ救農十字軍	宮本茂樹	三・〇〇	三〇	興行會
遺傳育種學叢書(七)菊の生態と細胞遺傳	下斗米直昌	一・八〇	二二	養賢堂
佛蘭西農村物語	池本喜三夫	二・〇〇	六五	刀江書院
農村問題に就て	守屋榮夫	非	〇	中央朝鮮協會
支那の農業と工業	浦太松	一・八〇	三三	岩波書店
農業事物起原集成	大野史朗	四・三〇	五五	丸山舎書店
農村中堅人物養成施設に關する調査一、修鍊道場漁村修鍊場	生協會	一・五〇	五七	農村更生協會
興村活話	增田亮一	一・五〇	三六	泰文館
經濟上より見たる新興北千島漁業	北海道經濟研究所	一・三〇	三〇	杉山書店
鯨釣り・付いわた・やまめ	目黒廣記	三・八〇	四〇	同
亞米利加合衆國に於ける農業金融制度	濱本貞芳	非	二〇	兵庫縣工庫
北海道漁業志稿	北水協會	八・〇〇	八四	北海農工銀行
醬油釀造法	深井冬史	三・〇〇	三四	水産協會
〔十一月〕				
農業用原動機	森	六・二〇	二七	工政會出版部
農業實習の指導原理	森友政勝	一・九〇	二二	地人書館
農業組合の陣營より	千石與太郎	三・八〇	八五	高陽書院
水産經濟研究所	研究	一・五〇	二〇	水産社
農産物の價格統制	本位田祥男	三・五〇	四四	有斐閣
近代の稼相	久間健一	三・五〇	三七	西ヶ原刊行會
畜産機具使用論	境野惠佐	三・八〇	三〇	杉山書店
市場組織論	河原茂太郎	三・八〇	六〇	同
農村問題と郷倉	田村浩	一・五〇	三三	社會教育協會

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
我農生回顧録	山崎延吉	一・五〇	四〇	山崎延吉全集刊行會
作物學論集	吉川教	非	〇	成美堂書店
會報農村問題に就て	山崎達之輔	非	〇	新日本同盟
農村産業組合運動と共同施設に就て	遊佐敏彦	〇・五〇	〇	鳥取縣產業組合因幡部會
奥原潔産業組合評論集	奥原潔	一・〇〇	三二	長野縣產業組合青年聯盟
農家經營法	松本喜作	一・五〇	四二	樂波書院
我が國の農村問題	高田保馬	〇・四〇	二四	青年教育會
農業經濟地理	青鹿四郎	二・五〇	四三	普及會
理想の農家	石田傳吉	二・〇〇	四七	文社
農村改造講話	同	二・〇〇	四六	同
農村更生と精神更生	賀川豊彦	三・三〇	二〇	教文館出版部
〔十二月〕				
滿洲の農業機構	鈴木小兵衛	三・〇〇	四七	白揚社
日本に農業恐慌と	猪俣津南雄	一・六〇	〇	學藝社
おける産業組合	小穴富司雄	六・五〇	〇	出版部
理論と清酒釀造精義	同	六・五〇	〇	同
農産物の價格統制	本位田祥男	三・五〇	四四	有斐閣
近代の稼相	久間健一	三・五〇	三七	西ヶ原刊行會
畜産機具使用論	境野惠佐	三・八〇	三〇	杉山書店
市場組織論	河原茂太郎	三・八〇	六〇	同
農村問題と郷倉	田村浩	一・五〇	三三	社會教育協會



ソ聯邦の本年度文學書出版

ソヴェートの出版機關である、Goslitizdatが一九三六年度に於ける文學書出版のプログラムを発表したそれによれば今年中に出版される文學書の總數は二千三萬冊に上るといふから、よつて以つてソヴェート民衆の讀書慾の盛んなことがうかがへよう。中でも最も大量に出版されるのは來年丁度死後百年祭を迎へるプーシユキンの作品であつて、彼の作品の出版總冊數は五百萬に上るといふ。それにゴリゴリ、ゴリキイの兩全集、フロオベールの三卷、ゲエ

テ、スタンダールの四卷、バルザックの五卷、モオパッサンの七卷、ラブレエの『ガルガンチュアとパンタグリユエル』、デイドロの『ラモオの甥』、ダンテの『地獄篇』、ヴェルレラの劇、バイロン、シエリー、レルモンツフ、ミツキムイツチ等の詩の再版を加へると總計千三百萬冊に上るといふ。尙、現代作家の作品は約五六〇種ばかり出版される豫定で、その冊數は九百萬冊に上り、ソヴェートではチヨコロフ、アレキス・トルストイ、フェディン、イナヴオフ、

レオノフ、ビリニヤツク、オレチヤテイクノホフ、セイフリナ、メイェリホリドその他の作品が出版され、外國の作家ではドライザー、ウアルド・フランク、兩マン、E・ヘミングウェイ、ロオラン、ジイド、マルオオ、バルビユツス、ゲエノー、シャンソン、ジオノー等の作品が上梓される。その他ウクライナ、アルメニヤ、ジエオルジアを始めとし、ポーランド、トルコ、チエツコ、日本、イタリー、スカンディナヴィアオランダ等の作品の翻譯出版を加算すると、實に千三百萬冊に上るのであるといふ。

(二四) 軍事

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
古今世界大陸戰史	春藤與市郎	二・五〇	〇六〇〇	大同館書店 神田
日本海大海戰史	軍令部	一・五〇	〇二八〇	内閣印刷局 麹町
海軍々縮問題講演集	久保勘三郎	非	〇九二	至誠會本部 同
内務班長實務の參考	武揚	・七五	〇四三	武揚社 澁谷
國防總覽	國防會	非	〇	國防大博覽會 下谷
世界大戰米國總動員概説	資源局	一・八〇	〇二九三	松山房 神田
戰跡を顧みて(第一卷)	服部兵次郎	三冊 四・〇〇	〇一五三	兵書出版社 赤坂
同(第二卷)	同	同	〇一五〇	同
同(第三卷)	同	同	〇一五三	同
第二次世界大戰來帝國及列國の陸軍	松澤寬	一・三〇	〇二七〇	中央公論社 麹町
旅順要塞總攻撃	木村惣平	二・〇〇	〇三七〇	岡倉書房 神田
潜水艦	福田一郎	一・〇〇	〇二六〇	新水社 澁谷
非常時と我が國防	野村吉三郎	・五〇	〇一八〇	中央教化團 麹町
國民國防同盟會記念録	佐藤賢	非	〇三五〇	國民會 群馬
世界戰争	安井源雄	三・八〇	〇八八〇	國民會 日本
非常時軍縮問答	福永恭助	・七〇	〇二六〇	新潮社 牛込
突破軍縮問答	編山閣	一・三〇	〇三九〇	新潮社 麹町
日本陸軍史	五弓安二郎	非	〇一八〇	神道護國聯盟 神田
國際情勢と海軍々縮會議	有馬成甫	非	〇九〇	神道護國聯盟 神田
海軍々縮會議と日本の將來	齊藤市平	・六〇	〇一五〇	兵書出版社 牛込
十一年式輕機關銃の詳解	同	・五〇	〇一五〇	同
步兵通信教育規定	同	同	同	同



書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
陸軍現役兵志願立身の手引	陸海軍受驗生社	・五〇	〇一三〇	日本橋	陸海軍國防大寫真帖	佐藤勝之助	特三〇〇	△	國防普及會 神田
新湯縣防空演習記録	新湯縣	・三〇	〇三七一	新湯縣	日露戦争無言の三十年	陸軍省つはの編輯部	・一五〇	×	つはもの發行所 神田
軍事救護法	金太仁作	・三〇〇	〇四九	國民會館	武田流軍學全書(天)	武田流軍學全書刊行會	・五〇〇	〇六〇	武田流軍學全書刊行會 日本橋
武藤山治	ハミルトン	・三〇〇	〇三〇〇	國民講座部	武田流軍學全書(地)	同	・五〇〇	〇六八	同
思ひ出の日露戦争	杉本泰譯	・三〇〇	〇三〇〇	凡社	武田流軍學全書(人)	同	・五〇〇	〇六三	同
各大學博士教授講師講演會ノ記録	藤江利雄	・三〇〇	〇二四七	日本文化同盟	參戰二十將星	相馬基	・三〇〇	〇三六	朝日新聞社 大塚
「國防の本義」と其強化の提唱	神原福壽	・二〇〇	〇一七	時事新報社	日露大戦を語る	赤尾善徳	・五〇〇	×	朝日新聞社 大塚
日露戦争を語る	芳陵龍夫	非	〇一五	問題調査所	上海從軍日記	橋本正雄	・五〇〇	△	海軍研究社 芝
第二パンフレット	三宅隆人	非	〇一五	帝國競馬協會	昭和十年版 わが海軍	山名安三	・一五〇	〇一六	日本大學 神田
馬政第一次計畫實績調査	安藤徳器	・一五〇	△八六	言海書房	空中戦法規論	伊奈重誠譯	・一三〇	〇二四〇	山本書店 神田
陸海軍今昔物語	佐藤喜一郎	・一三〇	〇三三	凡人社	論	樋山光四郎	・一三〇	〇三三	山本書店 神田
陸海軍危機に	有馬成甫	非	〇九	大東洋會	借行戦争(日露)	ノウイコフ	・八〇	×	改造社 芝
航空秘録 生きている	高田廣海	・三〇	〇一八	東京朝日新聞發行所	日本海々戦(後篇)	上脇進譯	・二〇〇	〇五〇	今日の問題社 芝
海軍ノ縮小と改訂版									
名將 日露大戦 秘史 陸軍 秘史 陸軍 秘史									

書名	著譯者	定價	頁數	發行所	書名	著譯者	定價	頁數	發行所
思想戦に於ける軍部學生から軍人へ志す人の爲めに	森吉義旭	・三〇	〇一五	先愛社研究室 豊島	日本海軍戦記怒濤	寺島柁史	・三〇〇	〇一〇	日本公論社 神田
日露戦争物語(上)	瀧間圭	・三〇〇	〇一〇	大同館書店 神田	神廣瀬中佐書簡集	池田三比古	非	〇一八	藤家 大分
剣道新教範	有田二郎	・一〇〇	〇一八	藤谷崇文館 同	回顧する興廢の此一	大谷忠治郎	・一三〇	△	兵書刊行會 神田
柔道新教範	近藤一郎	・一〇〇	〇一六	同	日露戦争大寫真帖	編輯部	・一五〇	△	共同館 同
鐔大觀	川口陟	・二五〇	〇二五	南人社 神田	海軍々縮小問題と日本の將來	有馬成甫	非	〇九	國防問題會 神田
【五月】					軍隊内務の新研究	編輯部	・七〇	〇一七	成武堂 同
バルチック艦隊	モオリメ	・八〇	〇一四	日本書房 神田	日英米佛伊軍艦集	櫻庭武	・二〇〇	〇二六	目黒書店 神田
軍制學教程	小林又七	・四〇	〇一三	兵用圖書社 豊島	ボケット海軍年鑑 一九三五年版	橋本正雄	・一五〇	×	海軍研究社 神田
從軍記者の見たる日露戦争裏面史	新開編輯局	・三〇	〇一	精華書房 神田	參戰二日露大海	相馬基	・四〇	〇一三	東京日々 同
聖將東郷と靈艦三笠	尾崎主税	・三〇	〇一	三笠保存會 芝	彈巢を貫きける	蚊野豊次	・一五〇	〇一六	十一戰友會 石川
われ等の海戦史	平田晋策	・一五〇	〇一五	大日本雄辯社 小石	獨帝の野望	皆川三郎	・一三〇	〇二二	皆川三郎 山口
對露國防の濫傷	大友喜作	・三〇〇	〇二九	會講談社 川	軍部を裏から覗く	松下芳男	・二〇〇	〇四	今日の問題社 芝
海軍歴戦將校秘話	海軍有終會	・一五〇	〇一〇	ナウカ社 神田	時事パンフレット	神原福壽	・二〇〇	〇一七	時事新報社 神田
現代の國防と産業	石原戒造	・一三〇	〇三三	學而書院 下谷	回顧三十年日露戦争を語る	大橋博	非	△	大洽社 大森



書名	著譯者	定價	頁數	形態	發行所
步兵第七十三聯隊 滿洲事變史	安乘 範	非	◎三五	七十三聯隊	朝鮮
日本刀物語	前田稔靖	◎二〇	◎二七	前田稔靖	福岡
日本海軍の 實績と軍縮問題	播州國防 研究會本部	非	◎一九	播州國防 研究會本部	播州
〔六月〕					
日露戰爭物語 下卷	芦間 主	◎二〇〇	◎四二	大同館書店	神田
戰爭思想の研究	松下芳男	◎一八〇	◎三二	學而書院	下谷
滿洲事變繪畫集	樋山光四郎	△八七枚	〇	偕行社	麹町
兵法 孫子の兵法	公田連太郎	◎一五〇	◎四八	中央公論社	同
全幹部候補試驗 國生終末問答集	齊藤市平	◎一三〇	〇	兵館	牛込
同 幹部候補生 檢定問題集	同	◎一八〇	〇	同	同
軍部の系派動向	小林住男	◎二〇〇	◎六〇	今日の問題社	芝
昭和陸軍特別 九年大演習並 地方行幸高崎市記録	高崎市 帝國軍備 研究會	◎	◎	帝國軍備 研究會	高崎市
世界海軍大寫眞帖	齊藤興治郎	◎	◎	齊藤興治郎	高崎市
大日本陸軍寫眞大觀	齊藤興治郎	◎	◎	齊藤興治郎	高崎市

書名	著譯者	定價	頁數	形態	發行所
世界軍需王 ザハロフ秘録	大江專一	◎一五〇	◎三五八	サイレン社	神田
新戰術作業ノ參考書	齊藤市平	◎一六〇	◎三〇	兵館	牛込
訂正 經濟學(現代戰の經 濟學)的基礎	大竹博吉	◎一八〇	〇	ナウカ社	神田
北を征く	櫻井忠温	◎一〇〇	〇	朝日新聞社	大阪
偕行和漢洋統帥餘談	樋山光四郎	◎一〇〇	〇	偕行社	麹町
唯物論 戰爭論	堀 伸二	◎一八〇	〇	三笠書房	神田
新戰爭の形態	神永文三	◎一三〇	〇	學而書院	下谷
林銑十郎と 眞崎甚三郎	松下芳男	◎二〇〇	〇	今日の問題社	芝
陸軍寫眞帖	陸軍つは もの編輯部	◎五〇〇	△	軍人會館	麹町
秘書 兵政關係資料	伊藤博文	非	◎六五	秘書類 發行會	同
類纂 海軍諸例則(三)	海軍大臣官房	同	◎九六	海軍大臣官房	同
版十四 海軍諸例則(四)	同	同	◎三三三	同	同
版十四 海軍諸例則(一)	同	同	◎八四	同	同
版十四 海軍諸例則(二)	同	同	◎七六	同	同
〔七月〕					
憲兵志願案内に 試驗問題	齊藤市平	◎六〇	×五〇	兵館	牛込
昭和陸軍特別大演 習並地方行幸	福井縣記録	△八三	〇	福井縣	福井
來るべき海軍々々 縮會議に就て	小松雄道	非	〇	全國大學 教授聯盟	麹町
鹿島直心影流極意	石垣辰雄	◎二〇〇	◎二八	丸之内出版社	京橋
日本刀講座 一四	龜谷法夫	◎一三〇	◎三六	雄山閣	麹町
一兵の旅順要塞戰 見たる 初級戰術講座(後篇)	山崎慶一郎	◎一五〇	◎三六	水書院	高知
對空行動	教育總監部	◎一五〇	×四	兵館	牛込
幹部候補生檢定虎之 卷(實兵教練篇)	齊藤市平	◎一八〇	×二八〇	同	同
大武鑑(四)	橋本 博	非	△	大洽社	大森
偕行 白紙戰術法(一)	樋山光四郎	◎一〇〇	◎三〇	偕行社	麹町
戰車	陸軍本部技 術部	◎一三〇	◎三四	株式會社	同
〔八月〕					
幹部檢定虎術科 候補生之卷問答篇	齊藤市平	◎一八〇	×一八〇	兵館	同
兵法 六 韜	北村佳逸	◎二〇〇	◎二四	立命館出版部	京都
陸軍の智腦九人男	菅原節雄	◎二〇〇	〇	今日の問題社	芝
明日の軍部を 擔ふ人々	松下芳男	◎二〇〇	〇	小冊子書林	神田
新陸軍大臣 川島大將を描く	大野 慎	◎二〇〇	〇	東京パンフ レット社	中野
近代戰爭論	神田孝一	◎一五〇	〇	學而書院	下谷
軍紀とは何ぞや	野崎耕堂	◎二〇〇	〇	東京パン フレット社	中野
應用戰術圖例集	宮内織太郎	◎一五〇	〇	兵館	牛込
基本戰術學教程	齊藤市平	◎一五〇	〇	同	同
模範戰術作業集	同	◎一五〇	〇	同	同
陸軍當面の 非常時政策	和田善太郎	◎一三〇	〇	日本政治 經濟調査所	同
偕行戰術秘話 叢書(滿洲事變)	樋山光四郎	◎一三〇	〇	偕行社	麹町
軍犬ノ訓練及用法	岩根清夫	◎一三〇	〇	上原好雄	赤坂



書名	著譯者	定價	頁數	發行所
ジュットランド 海軍回顧録	萩原勘一	非	△一二	海軍機關學會 鹿野
基本戰術學教程	齋藤市平	一・五〇	〇五八	同 鹿野
應用戰術圖例集	同	一・五〇	〇五圖	同 鹿野
最新軍備・戰爭科學的作戦	橋本弘毅	一・五〇	〇三九	白揚社 神田
三市防空演習史	千田哲雄	非	△	防空演習史 日本橋
連合防空演習史	安井洋	一・五〇	〇四七	編纂會 鹿野
戰場にみながらの心	同	一・五〇	〇四七	同人會 鹿野
砲兵全書	陸軍省	一・八〇	×四〇	尚兵館 牛込
陣中便覽	齊藤市平	一・四〇	×二五	同 鹿野
陸軍大演習を軍司令官より見る	松下芳男	一・二〇	〇四〇	小冊子書林 神田
軍部論	永井三郎	一・〇〇	〇三三	先憂社 神田
ベニート ムツソリーニ これが伊太利軍だ	下位春吉	非	〇	伊太利大使館 鹿野
赤空軍用法の原則	橋篤郎	一・八〇	〇一六	附陸軍武官館 鹿野
空襲下の悲壯エチオピア	葛生能久	一・三〇	〇九	スガリエルモゼ 鹿野
イタリーとエチオピア戦争はどうして起つたか?	永山宜志秀	一・二〇	〇九	黒龍會出版部 鹿野
國民經濟部	川野			

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
軍部の歴史と政界の動搖	三宅忠興	一・二〇	〇四	教村社 小石
兵法三略、司馬法	北村佳逸	二・〇〇	〇三三	立命館出版部 京都
【十一月】				
講演軍用行李	磯村武亮	〇	〇三	京都市府 京都
集五軍用行李	同	〇	〇三	同 京都
同三 日露戦争の思出	森壽	〇	〇三	同 京都
同三 日本との現況	日野熊藏	〇	〇三	同 京都
空軍無き日本	中西伊之助	一・三〇	〇四三	翼輪社出版部 芝
軍部	裕田道明	一・二〇	〇四三	小冊子書林 神田
中堅將校と一問一答	廣瀬彦太	一・五〇	△三三	海軍有終會 芝
昭和新を語る	中村孝也	〇	〇六	海軍有終會 芝
幕末 帝國軍艦	廣瀬彦太	一・五〇	△三三	海軍有終會 芝
以降 寫眞と史實	廣瀬彦太	一・五〇	△三三	海軍有終會 芝
【十二月】				
帝國の海洋發展と海軍力充實の必要	中村孝也	〇	〇六	海軍有終會 芝
國防と日本精神	廣瀬彦太	一・三〇	〇三〇	海軍有終會 芝
海軍要覽(昭和十年版)	廣瀬彦太	一・三〇	〇三〇	海軍有終會 芝
海軍々縮問題の推移	廣瀬彦太	一・三〇	〇三〇	海軍有終會 芝
並に所感・脱走露人は斯く語る	廣瀬彦太	一・三〇	〇三〇	海軍有終會 芝

### 英雄ガリバルチ

現在のイタリーを建てた三人の英雄の一人ガリバルチ傳が、ニューヨークで出版された。この英雄は、これらの心理學者や小説家をまごつかせるに十分であらう。その超人的な勇氣と大膽極まる行動については、知つてゐる人も少なくないだらうから省くとして、彼の短い逸話を一、二紹介すると、金を借りて返さぬ男の胸にピストルを撃ち込むことを少しも躊躇しない彼が胡蝶が一本の肢を折つてゐるのに涙を流し、また、軍服をずたずたに引き裂く弾雨を物ともせず、勇敢に突撃する彼が、砲聲の轟々たる中に、「止まれ！」と命令し、聞き耳を立てる。鶯の歌が聞えて來たのである。イタリーの再建が成つたとき彼は何ら報酬も求めず何らの報酬も受けなかつた。飄然として彼はローマを去つて、カブレラ島の一農民となつて余生を送つた。一八八二年六月二日にガリバルチは、彼の部屋の外に二羽の鶯がとまつてゐるのを見て、いつた、あれを追はないでおけ。あれは、多分、おれを迎へに來た死人の魂だらうから。」そして、その一時間後に彼の魂は、未知の世界へ飛び去つた。

書名	著譯者	定價	頁數	發行所
兵法全司馬法	公田連太郎	一・五〇	〇三三	中央公論社 鹿野
軍事と國防	大場彌平	〇	〇三	埼玉縣會 埼玉
軍武大富海	佐海			



出版代表者の主義

米國に於ける書籍販賣研究會開會中非常なる批難を蒙つた出版代表者中の某は、近刊の一雜誌に一般同代表者の地位を辯護する爲め、理想的出版代表者の主義と題し下の如く概論した。

一、出版代表者は出來得る範圍内に於て著者の爲め原稿料を獲得すること但し過分を要せず。而して自己の爲めとは言へ發行者を犠牲に供し、明かに損耗を負はしむるが如きは斷じて避くべきである。

二、出版代表者は著者と發行者との間に奔走して、深く文字との關係維持に努力すべきである。

三、出版代表者は書籍を發行する見界と、著者と二種に區分することを要す。一は發行者を求めんとする著者にして、其二は發行者が求めんとする著者である。而して代表者は第一の著者中にて其の信用を措く者のみ

を好遇し、其の他の者に對しては(是等は十中の八九迄は新著者)他代表者が盡すだけの骨折を呈することを言明し、斷然取り合はざるに如かず元來著者は代表者の爲めに存在するものでなく、代表者亦著者の爲めに存在するものでない。要するに代表者の職分たる、確實を旨とし、激甚なる著作家の競争の間に於て依頼者の爲め最も完全なる結果を得さしむるにある。故に若し競争にして存在を失ひ、不公平の行はるゝに至らんか、代表者本來の職分が消滅するに至る。

四、代表者は一著者の著作を發行したる發行者が果して同著作家の次回の著作を發行するに當を得たる者なるや否やを實認し、又該發行者が代表者に對し、代表者以外の者より買収する原稿料よりも安價にすべきことを暗に要求する時に當り、前述の作者即ち第一回の著作者より幾分の報酬を得んと欲しつゝあるものなるこ

とを豫知せねばならぬ。

五、代表者は發行者の如く危険の場合に於て財政上の損失を負はずと雖も原稿の良否を識別するに當りては發行者よりも更に公平なる判斷力を有せねばならぬ。

六、最後に至り最も重大なる問題は、版權所有者より獲得する莫大なる利益は發行者並に著者の間に面白からぬ現象を出來し、延いては出版界の不況を惹起するに至ることあるを以て、代表者は其の不利なることを著者に「ナットク」せしむることを良策とする。兎に角著者に採りては利潤の分合大なるを喜ぶべきも、夫が爲めに發行者に少からざる費用を負担せしめ遂には代表者をして他に著者を求めしむるが如きに至りては、著者並に發行者共に苦境に陥るから。代表者は能く著者を生かしむる資量と勇氣とを具備せねばならぬ。然なくば其の職に適するの人たることか

(二五) 美術

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
昭和法律帖(第四帖)	竹下金鳥	六・五〇	變形	雄山閣 總町
千波萬波(上)	豐道慶中	一・五〇	折タタミ	内田美術書肆 京都
常用漢字三體二千字文(草書篇)	河原崎晃洞	七・五〇	△	泰東書道院 日本橋
花詩集(四)	瀧澤一輝	六・五〇	△	芸艸堂 京都
丹青會圖錄	吉田茂松	八・〇〇	變形	内田美術書肆 同
東湖正氣歌(楷行草)	岡本東洋	三・〇〇	△	芸艸堂 京都
東洋花鳥寫真集	同	三・〇〇	△	同
動之卷二五雉子・鶉	同	三・〇〇	△	同
靜之卷二五雪持松	同	三・〇〇	△	同
行魔抄	同	三・〇〇	△	同
三つの繪卷	尾崎久彌	非	◎	觀音瞻仰會 愛知
董其昌書尺牘	中村丙午郎	變形	△	孔固亭眞蹟會 下谷
和樣手本大成 七・八	吉岡熊雄	三・五〇	△	平凡社 日本橋
通書道入門	石川寅吉	一・四〇	變形	續文堂 神田
俗書道入門	奈良帝室博物館	一・〇〇	△	興文社 日本橋
名碑北魏集(二)	中山忠直	△	△	奈良帝室博物館 奈良
帖選	小泉勝爾	二・五〇	△	中山忠直 牛込
如洋畫集(一)	土岡泉	二・〇〇	△	鳥類寫生會 澁橋
鳥類寫生圖譜 第四期	克己	二・〇〇	△	鳥類寫生會 澁橋
實際圖案カッタ大集	克己	二・〇〇	△	浩文社 日本橋
圖案カッタ資料大集	克己	二・〇〇	△	同
當麻寺大鏡	東學美	△	△	大塚巧藝社 本郷
片多德郎傑作畫集	岡田三郎助	三・五〇	△	古今堂 京都
花五十題(第一輯)	德力富吉郎	△	△	芸艸堂 京都
能と歌舞伎	小宮豊隆	二・五〇	◎	岩波書店 神田

美術



書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
近世名著標本集(二)	山田清作		△	米山堂 牛込	映畫藝術研究(十一)	佐々木 富美	七〇	〇	藝術社 荏原
近世名士寫真(三)	井口雄三		△	近世名士寫真會 大阪	帝國美術院第十五回 美術展覽會原色畫帖	長谷川正道	七〇	△	美術工藝會 神田
國寶建造物 第二期 第六輯	矢野國太郎	四〇〇	△	國寶建造物會 日本	越中製陶史稿	山本久作	非	△	輝久華莊 富山
茶器の鑑賞	吉田堯文	二〇〇	〇	河原書店 京都	名家書道鑑(天)	目黒書店 編輯所	二〇〇	〇	目黒書店 神田
原色版セザンヌ 大畫集(二)	足立源一郎	特五〇〇	△	アトリエ社 牛込	帝國美術院第十五回 美術展覽會圖錄(地)	同	二〇〇	〇	同
牧谿名物瀟湘八景繪 玉潤の傳來と考察	高木文	二〇〇	△	好日書院 京都	第一部繪畫(日本畫)	文部省	一五〇	〇	美術工藝會 同
法帖臨書手本集成 孫遇庭書譜下(十三)	石川寅吉	同	變形	興文社 日本	近世名士寫真第二回	中川忠三郎	〇	△	近世名士寫真會 大阪
同 孫遇庭書譜下(十三)	同	同	同	同	室町時代庭園史	外山英策	八〇〇	△	寫真頒布會 神田
同 孫遇庭書譜下	同	同	同	同	書畫真正落款譜	露木 右衛門	〇	△	眞撰堂新圃 長野
日本畫實習帖四蔬果	北原義雄	一五〇	△	アトリエ社 牛込	和樣手本大成 五・六	下中彌三郎	〇	△	平凡社 日本
和樣手本大成 九・十	下中彌三郎	同	△	平凡社 日本	觀世音寺大鏡	東洋美術學校	三〇〇	△	大塚巧藝社 本郷
日本古樂面	帝室博物館	同	△	聚樂社 本郷	動之卷二四月頂鶴2	岡本東洋	三〇〇	△	芸艸堂 京都
藤島武二畫集	岩佐新	一〇〇	△	東邦美術學院 豊島	靜之卷二四竹	同	三〇〇	△	同
趣味の(有職の卷) 宮川叢平	宮川叢平	七〇〇	△	芸艸堂 京都	和漢習字本大成(九)	下中彌三郎	三〇〇	△	同
草蠶帖(下)	上野爲二	六五〇	△	同	名家書道鑑(天)	同	三〇〇	△	同

書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所	書名	著譯者	定價	頁形體數	發行所
麗	春大岡同人	三〇	△	内田美術書肆 京都	脩正古帖選内編(第六)	比田井鴻	二〇〇	變形	書學院後援會 澁谷
もうかつら	荻生守俊	同	折疊み	荻生守俊 小石	同(釋文)	同	二〇〇	同	同
吐韻含秀帖	宮崎政近	同	變形	日本南畫院 麹町	鑑識上に於ける 日本佛教美術の研究	福田喜三郎	一五〇	〇	森江書店 本郷
帝國美術院第十五回 美術展覽會圖錄 第四部美術工藝	文部省	一〇〇	△	美術工藝會 神田	九老畫譜	恩賜京都博物館	五五〇	〇	小林寫眞製版所出版部 京都
張瑞圖書後赤壁賦	中村丙午郎	同	變形一册	法帖書端集(八)	日本美術史讀本	黒田朋信	一八〇	〇	趣味普及會 澁谷
彩光(上)	近藤一眞	九五〇	△	内田美術書肆 京都	虹	中村不折	一八〇	〇	箱入雄山閣 麹町
日本上代の甲冑	末永雅雄	一八〇	△	岡書院 神田	聚樂 第五期	ジャクリル	同	△	加藤潤二 四谷
おもちゃ畫譜(八)	川崎巨泉	同	△	川崎末吉 大阪	時代裂拾遺(一)	橋本基	同	△	座右寶刊行會 本郷
巴里畫壇の全貌	中村恒夫	二二〇	〇	崇文堂出版部 神田	同(二)	同	同	△	同
帝國美術院第十五回 美術展覽會圖錄 第三部彫塑	文部省	七五〇	△	美術工藝會 同	雅邦集 六	同	九五〇	△	同
國寶建造物(第二期) 第五輯	矢野國太郎	四〇〇	△	國寶建造物會 日本	帝國美術院第十五回 美術展覽會圖錄 第二部繪畫西洋畫	文部省	九五〇	△	美術工藝會 神田
南畫と文人畫の鑑賞	添田達嶺	一〇〇	〇	雄山閣 麹町	和漢習字本大成(三)	下中彌三郎	同	△	同
和樣書道史	尾上八郎	同	〇	平凡社 日本	名家書道鑑(三)	同	同	△	同
日本建築史圖錄 鎌倉(上)	天沼俊一	八〇〇	△	星野書店 京都	近世名著標本集(二)	山田清作	同	△	同



書名	著譯者	定價	頁數	形態	發行所
金龍山寶物寫真帖	前田藤吉	五〇〇	△	△	淺草觀音會
能裝末名品集(二)	金剛 巖	七〇〇	△	△	信草會
吳石書畫集	西脇 靜	五〇〇	△	△	臨池會
セザンヌ大畫集(一)	碓 伊之助	特	△	△	アトリエ社
昭代國華	北原義雄	一・五〇	△	△	同
鳴鶴先生臨蘭亭序	垣見宣修	三〇	△	△	内田美術書肆
常用三體行書	廣瀬保吉	〇・八〇	△	△	清雅堂
漢字二千字楷書	田代其次	各	△	△	泰東書道院
昭和法帖(第三帙)	長坂金雄	豫約	△	△	雄山閣
晨虹會圖錄(十一)	高坂三之助	五〇〇	△	△	内田美術書肆
大圖着尺集(三)	中村六之介	六・五〇	△	△	同
かな萩葉帖	小野鷺堂	七〇	△	△	辰文館
楷書 飲中八仙歌	同	七〇	△	△	同
行書諫院題名記	同	七〇	△	△	同
牡丹燈籠畫譜	橋 小夢	一・三〇	△	△	夜華異相書房
大圖着尺集(四)	池野夢泉	六・五〇	△	△	内田美術書肆

書名	著譯者	定價	頁數	形態	發行所
國寶建造物 第七輯	矢野國太郎	四〇〇	△	△	國寶建造物
近世名士寫真(四)	井口雄三	一・三〇	△	△	寫真館布會
全芥子園畫傳 第二冊	小杉放庵	一・三〇	△	△	アトリエ社
畫本水や空上	山田清作	非	△	△	米山堂
近世名著標本集(三)	同	〇	△	△	同
日本畫實習帖(三)	北原義雄	一・五〇	△	△	アトリエ社
花五十題(第二集)	徳力富吉郎	二・〇〇	△	△	芸艸堂
兩周金文辭大系圖錄	郭沫若	三〇	△	△	文求堂書店
善本影譜甲戌第八輯	長澤規矩也	非	△	△	木村一郎
最新木材工藝大成	西田虎一	三〇〇	△	△	學校美術部
石造美術概説	川勝政太郎	二・八〇	△	△	協會出版部
モダン小商店	編 輯 部	一・〇〇	△	△	出版部
設計グラフ(二)	同	一・〇〇	△	△	同
文部省制定	柴山格太郎	一・〇〇	△	△	日英書林
常用漢字のくづし方	同	一・〇〇	△	△	同
文様花のしほり(下)	河原崎晃洞	八・五〇	△	△	同
變木會圖錄 23	津々美野影	五・〇〇	△	△	同







權威 漢文普及版現

鹽谷博士 宇野博士 諸橋博士 著 價一・五〇

孝經大學中庸新釋

文學博士 宇野哲人 著 價一・五〇

論語新釋

東京高師教授 內野台嶺 著 上下全價一・二〇 二册各

孟子新釋

文學博士 小柳司氣太 著 價一・五〇

老子新釋

陸軍教授 高成田忠風 著

一高教授 佐久 節 著 價一・五〇

唐詩選新釋

文學博士 鹽谷 溫 著 價一・八〇

唐詩三百首新釋

文學博士 中山・鹽野 共著 全二册各價二・八〇

十八史略新釋

文部省督學官 坂井喚三 著 上下全價一・五〇 二册各

莊子新釋

文學士 近藤正治 著

東神 京田 株式會社 弘道館 振替 東京 一八五

東京 神田 仲町 辰文館發行書目一覽

中村春堂先生書

- 手紙手ほどき 六〇
- 女子日用文 六六
- 新手紙の文 七〇
- 四季手紙の文 一・三〇
- 青年補習用文 六六
- 女子補習用文 六六
- 少年手紙の文 五五
- 少女手紙の文 五五
- 女子習字しをり 四四
- 女子習字の手引 四四
- かなのしをり 五〇
- かな早學び 四四
- かなの手本 四四
- 手紙の手引 三〇
- 女子手紙手引 三〇

新撰女子用文 六〇  
草書 自在 四四  
書家 自在 一・五〇

相澤春洋先生書

- 漢字のくづし方 四〇
- 文字のくづし方 四四
- 四體千字文 七〇
- 女子手紙文集 六六
- 女子はがき用文 六六
- 女子書翰文 六五
- 今様女子書翰文 四四
- 三體字引 五〇
- 手紙手ほどき 六〇
- 書法早わかり 六〇
- 商業書翰文 六六

新刊

小野鷺堂先生書

- 女子手紙の文 五五
- 青年手紙の文 六六
- 飲中八仙歌 七七
- 諫院題名記 七六
- 中村春堂先生書 七七
- かな梅が香帖上 七六
- 同 下 七六
- 相澤春洋先生書 六六
- 楷書白虎隊 六六
- 隸書蒙古來 六六

東神・京田・仲町 辰文館

振替 東京 一八五 電話 〇五九 番 五九



建築世界社編

# 數寄屋建築

第一茶室と茶庭  
第二近代的數寄屋風住宅

古來の銘園茶席より數寄屋風工法を應用せし近代的住宅數百種を網羅し趣味の愛好家に頒つ

大倉土木株式會社技師 齋藤實著

## 土木工事用機械取扱法

皮製金貳圓五拾錢。クロース製金貳圓 送料十錢  
土木建築工事に携る從業員は其工事用機械の構造機能及び運用上の智識を有せねばならぬ本書は其構造機能及運用上に就て平容且つ懇切に解説し所謂土木建築工事從業諸氏の寶典である

四六倍判 全一冊 裝幀美 圖版六百餘 定價 四圓五拾錢 送料 二拾二錢

ボケツ ト型

建築世界社編纂

### 家庭建築設計便覽

小林 政吉著

### 實際規矩術

建築世界社編

### 床棚書院

建築世界社編

### 窓と欄間

須原屋書店編纂

### 近世彫刻細部集

東京市京橋區京橋二丁目二番地 須原屋書店

ポケット形 皮製 全一冊 金三圓五拾錢 クロース製 金三圓 送料金拾錢

四六版全一冊 定價金一圓七拾錢 送料金拾錢

四六版全一冊 定價金一圓七拾錢 送料金拾錢

四六版全一冊 定價金一圓七拾錢 送料金拾錢

四六版全貳冊 第一、第二定價 各金壹圓貳拾錢 送料各金拾錢

## 抄覽一録目書圖版出堂文崇

池部 釣	太田 三郎	太田 三郎	太田 三郎	南 薰造	中木村 三郎	國府田 範造	橋本 春陵	西澤 笛畝	伊東 深水	小川 芋錢	中村 恒夫	菊地 慎三	野村 佐一郎	野村 佐一郎	太田 三郎	八幡 義生	野村 佐一郎	三浦 吉兵衛	丸山 順太郎	川原 次吉郎	藤窪 貢亮	石山 福治	江口 良吉	金澤 一郎	内藤 三雄	サンス・ミスマース	加藤 瀧	本山 桂川	本山 桂川	潮良 俊喜太	渡邊 久		
創作版畫の作り方	素描の描き方	鉛筆スケッチの描き方	油繪の描き方	水彩畫の描き方	畫集を兼ねた挿繪の描き方	應用圖案の描き方	誰にも出来る日本畫の描き方	日本畫の新しい描き方	美人畫の描き方	俳畫の描き方	巴里畫壇の全貌	都市計畫と道路行政	都市行政と地方自治	世界各國史	實地スケッチ習畫帖	印度語研究	獨逸語研究	佛蘭西語研究	エスペラント研究	英語研究	支那語研究	西班牙語研究	露西亞語獨修	新式日英會話	應用速記術の秘訣	應用速記術の秘訣	膽寫版印刷術の秘訣	知つておかげ印刷と紙の話	邦文タイプライター讀本				
一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	二、三〇	四、三〇	三、五〇	四、五〇	一、八〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇		
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京

## 崇文堂出版部



# 機 械 書 建 築 書

實地工 作術	ゆにばーさるみりんぐましん 後前各一・五〇 〇・四〇	せんばんにてねちを切る法	發 動 機 大 意	ボケツト機械實用表	機 械 工 師 必 携	鍛 工 法	機 木 型 及 鑄 型 製 作 法	實 製 罐 及 鋁 金 法	電 弧 鎔 接 法	實 用 アセチレン 鎔 接 法	齒 車 の 割 出 方
四・一〇 一・四〇	一・五〇 〇・四〇	一・五〇 〇・四〇	二・五〇 〇・四〇	二・五〇 〇・六〇	二・六〇 〇・八〇	一・七〇 〇・六〇	三・〇〇 一・四〇	二・七〇 〇・六〇	二・七〇 一・四〇	二・五〇 一・四〇	一・八〇 〇・八〇
必 旋 工 機 携 換 齒 車 割 出 表	ベ ヴ ル ギ ー ヤ の 表	精 密 機 械 工 具 使 用 法	機 械 工 場 用 算 術 (せんばんみりんぐ換齒車計算法)	日 本 建 築 規 矩 術	日 本 家 屋 構 造	神 社 建 築 構 造 法	床 棚 書 院	破 風 造 構 造 法	近 代 的 角 度	實 用 建 築 製 圖 講 義	最 便 所 の 設 計 及 改 良 法
〇・九〇 〇・四〇	〇・六〇 〇・四〇	特 價 一・八〇 〇・四〇	一・五〇 〇・〇〇	上 中 下 五 冊 各 三・三〇 三・三〇	三・三〇 一・五〇	三・一五 一・四〇	二・一五 一・四〇	二・一〇 一・四〇	一・一〇 〇・〇〇	一 回 二 付 八 四 一・八四	一・五〇 〇・六〇

機 械 建 築 圖 書 出 版

東 京 市 神 田 區 神 保 町 一 番 五 號 信 友 堂 書 店  
 東 京 市 神 田 區 神 保 町 一 番 五 號 信 友 堂 書 店  
 東 京 市 神 田 區 神 保 町 一 番 五 號 信 友 堂 書 店

(呈 進 第 次 込 申 御 錄 目 書 圖)

各 社 發 行

虎 之 卷 大 販 賣 所

高 岡 分 店

東 京 市 神 田 區 神 保 町 電 車 停 留 場 前  
 電 話 神 田 〇 七 九 八 番  
 振 替 口 座 東 京 參 四 八 貳 番



神道寶鑑

和和本箱入二百四十八頁 定價金一圓 送料金十四錢 山田先生が宗教法令講義神道調度名目神道各派諸流を解説し尙ほ祭式行事作法をも詳細にしたる良書

眞言秘密加持祈禱奧傳

和和本布表裝四百二十頁 定價金一圓 送料金十四錢 本書は神佛兩道の各行者が秘密とした加持祈禱に關する法式を五百二十有餘の圖解にて公開せし珍書

名前の方姓名學字典

洋裝箱入九百八十六頁 定價金一圓 送料金十四錢 自稱大家の邪說妄論と違ひ姓名學の眞隨を披歴して字引を付けたれば姓名判斷學研究者には好同伴なり

性相學原論

洋裝箱入九百八十六頁 定價金一圓 送料金十四錢 科學的基礎に基き人類の腦部位説と心性機關とを確定し各人の特質性僻運命等を豫知明斷が出来る良書

通俗周易之講義

キク判和本九百十頁 定價金五圓 送料金十八錢 高島香象柳田幾作兩先生の合著にして其講義は至つて平易に懇切なれば易道入門者の指針の良書である

神道行事寶典

菊判和紙二百二十八頁 定價金二圓五十錢 送料金十四錢 神道の祭式行事作法と其故實を詳説したる祝詞集を附記したれば神職神道教師神事研究者の好同伴なり

訓點周易正文

キク判和本四百二頁 定價金五十錢 送料金八錢 正しき易經の讀方を總振假名附となし且つ訓點を付けたれば初學者にも讀み易く體裁優美の美本である

通俗五行易指南

キク判和本四百二頁 定價金一圓 送料金十四錢 八卦六十四卦五行分屬六親六神用原忌仇神世應卦身納甲飛伏六甲十二運等に因る五行易の教科書である

神道妙術秘法大全

布表裝箱入三百二十頁 定價金一圓五十錢 送料金十四錢 本書は神佛兩道の行者が奥傳口授せし秘法數百種を公開せし珍書にて全部平假名付にて讀み易き良書

梅花心易掌中指南

菊判和本二百四十頁 定價金一圓 送料金十四錢 梅花心易は筮竹算木を用ひず年月日時、物數、聲音、字劃、寸尺、人物、動物其他にて卦を起す至妙の易

身上崇災占病秘傳

菊判和紙二百九十二頁 定價金一圓 送料金十四錢 本書は日常の出來事は勿論病氣は何病で祟りは神佛四ツ足方角生靈死靈何であるかを誰にも直ぐ判る

九星八百十通り變化奧傳

菊判和紙二百九十二頁 定價金一圓 送料金十四錢 天地盤を組み其掛りて求占者の來意を知りなほ人事百般の吉凶判斷が出来る九星判斷法の極意書である

實地周易活斷全二冊

菊判和本四百九十二頁 定價金三圓 送料金十四錢 本書は程朱説を遵奉して卦爻象象を説き卦毎に占例を掲げ尙卷末には斷易の判斷法を附記したる良書

孔穴鍼灸術秘傳書

キク判和本百六十頁 定價金一圓 送料金十四錢 鍼灸術各派の秘録を蒐集しなほ人體解剖學と十四經を對照し施術を行ふべき局部を圖解にて示してある

實地家相極秘傳

菊判和紙三百四十四頁 定價金一圓 送料金十四錢 自己住宅の良否新規増築の吉凶を知らんとする人の相談相手となり又家相鑑定者の參考となる良書なり

周易占筮講話五冊

和和本千二百三十二頁 定價金五圓 送料金十四錢 本書は易の經義を詳細に説きなほ筮法變占法象數圖說其他六十餘項目を掲げて易道の蘊蓄を盡せる良書

九星判斷講話三冊

菊判和本八百九十二頁 定價金五圓 送料金十四錢 本書は三元九星の初段法より九段法に至る奥儀秘密の事項を網羅して何人にも了解し易く解説せる良書

新舊對照萬年曆

キク判和本四百卅六頁 定價金二圓五十錢 送料金十四錢 弘化元年より昭和十一年に至る九十三年間の曆を集めた者なれば干支九星推命易占を爲す人の良參考書

九星曆術活斷口傳書

菊判和紙二百五十四頁 定價金一圓 送料金十四錢 生年月日にて一代の運勢九星天地盤組み方家相方位曆の中段下段廿四節解説姓名判斷法外數十種が分る

卜筮斷易指南鈔

菊判和本四百頁 定價金一圓 送料金十四錢 馬場信武先生が八宮本之世應陰陽升降交位得失納甲飛伏五六神親生尅旺退等斷易を平易に説きたる良書

東西 京町 下一 谷番 區地 神宮館 電話 谷下 一三一七 番七 一〇二 番六

東西 京町 下一 谷番 區地 神宮館 電話 谷下 一三一七 番七 一〇二 番六